秋田県文化財調査報告書第281集

遺跡詳細分布調査報告書

1998・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1998・3

秋田県教育委員会

序

秋田県内には4,000カ所を超える遺跡の存在が知られておりますが、それらは私たちの祖先の生活の痕跡であり、埋蔵文化財として今日まで受け継がれてきたものです。こうした大地に刻まれた歴史は、損なうことなく未来へと引き継いでいかなければなりません。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は、平成９年度に国庫補助事業として実施した県営ほ場整備事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業などの遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業・県営ほ場整備事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

報告書をまとめるにあたり、調査にご協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご理解くださいますようお願い申し上げます。

平成10年３月

秋田県教育委員会
教育長　小　野　寺　清

例　　言

1　本報告書は平成９年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。ただし、遺跡分布調査については、平成９年４月から平成10年１月までに実施した調査結果である。このほか、平成９年１月から３月までに実施した遺跡分布調査結果を平成８年度分の補足として掲載した。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は遺跡分布調査については秋田県教育庁文化課、遺跡範囲確認調査については各調査担当者が作成したものを、秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　遺跡範囲確認調査のうち、森吉山ダム建設事業に係る根森田地区と栩岱地区、日本海沿岸東北自動車道建設事業琴丘地区に係る中陳場遺跡と真山野遺跡は調査の結果、調査区内で遺構などが確認されなかったため本報告から除外した。

4　本報告書に使用した地図は、国土地理院発行の50,000分の１および25,000分の１地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県土木部・秋田県農政部が作製した1,000分の１地形図である。

目　　次

序

例　　言

目　　次

第１章　はじめに …… 1

第２章　平成９年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項 …… 1

第１節　遺跡分布調査 …… 1

第２節　遺跡範囲確認調査 …… 2

第３章　調査の記録 …… 5

第１節　遺跡分布調査 …… 5

1　平成９年１月～３月補足分 …… 5

（１）国道103号道路改良事業大館南バイパス建設 …… 5

（２）県営ほ場整備事業道目木地区 …… 5

（３）県営ほ場整備事業十五野地区 …… 6

（４）県営ほ場整備事業田根森地区 …… 6

（５）県営ほ場整備事業内越地区 …… 7

2　平成９年度分 …… 8

（１）県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区 …… 8

（２）秋田中央地区広域営農団地農道整備事業 …… 8

（３）高速交通関連道路整備工事事業 …… 9

（４）農免農道整備事業 …… 9

（５）森吉山ダム建設事業 …… 10

（６）日本海沿岸東北自動車道建設事業（雄和・岩城間） …… 11

（７）男鹿山地区オートキャンプ場整備事業 …… 13

（８）県営ほ場整備事業寺沢地区 …… 13

（９）県営ほ場整備事業金岡地区 …… 14

（10）県営ほ場整備事業前山地区・摩当地区 …… 15

（11）県営ほ場整備事業三ノ渡地区 …… 15

（12）国道285号線南沢バイパス建設事業 …… 16

（13）県営ほ場整備事業内越地区 …… 17

（14）ため池等整備事業待入地区 …… 18

第２節　遺跡範囲確認調査 …… 19

1　森吉山ダム建設事業 …… 19

（１）深渡遺跡・深渡Ａ遺跡 …… 20

（２）鷲ノ瀬遺跡 …… 26

（３）地蔵岱遺跡・地蔵岱Ａ遺跡 …… 31

（４）惣瀬遺跡 …… 38

2　日本海沿岸東北自動車道建設事業琴丘地区 …… 42

（１）兵ヶ沢遺跡 …… 42

3　日本海沿岸東北自動車道建設事業河辺地区 …… 49

（１）松木台Ⅲ遺跡 …… 49

4　県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区 …… 56

（１）鬼沢口遺跡Ｂ地区 …… 56

（２）金仏遺跡 …… 60

（３）狐森遺跡 …… 63

5　県営ほ場整備事業浜井川地区 …… 69

（１）洲崎遺跡 …… 69

6　県営ほ場整備事業金沢地区 …… 74

（１）十二牲Ｂ遺跡・金沢柵木Ⅰ遺跡の関連遺跡 …… 74

7　県営ほ場整備事業北阿気地区 …… 79

（１）江原嶋１遺跡 …… 79

8　主要地方道入道崎寒風山線緊急地方道路整備事業 …… 87

（１）泉野冷水遺跡 …… 87

（２）中野遺跡 …… 88

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した遺跡詳細分布調査のうち、平成８年度の補足分は、国道103号道路改良事業大館南バイパス建設・県営ほ場整備事業道目木地区・同十五野地区・同田根森地区・同琴丘北地区・同内越地区、平成９年度分は、県営ほ場整備事業琴丘北地区・同琴丘南地区・秋田中央地区広域営農団地農道整備事業・高速交通関連道路整備工事事業・農免農道整備事業・琴丘能代道路建設事業・森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業(雄和・岩城間)・同(大館・小坂間)・同(岩城・本荘間)・男鹿山地区オートキャンプ場整備事業・県営ほ場整備事業寺沢地区・同金岡地区・同前山地区・同三ノ渡地区・同摩当地区・国道285号線南沢バイパス建設事業・県営ほ場整備事業内越地区・ため池等整備事業待入地区の遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道建設事業琴丘地区・同河辺地区・県営ほ場整備事業琴丘北地区・同琴丘南地区・同浜井川地区・同金沢地区・同北阿気地区・主要地方道入道崎寒風山線緊急地方道路整備事業に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに本荘市、琴丘町の専門職員の協力を得て、平成９年１月から平成10年１月にかけて実施したものである。

第２章　平成９年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

（１）計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

（２）確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

（３）遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

秋田県　教育庁　　文化課　　学芸主事　　小徳　晶、武藤　祐浩

本荘市教育委員会　社会教育課　主任　　長谷川潤一

琴丘町教育委員会　生涯学習課　主事　　木村将来

＊平成９年１月～３月分については

秋田県　教育庁　　文化課　　学芸主事　　武藤　祐浩、石郷岡千鶴子

本荘市教育委員会　社会教育課　主任　　長谷川潤一

5　調査対象地域及び事業名

（平成９年１月～３月補足分）

No.	事　業　名	調　査　期　間	調査内容	調　査　結　果　等
1	国道103号道路改良事業大館南バイパス建設	平成９年３月13日	試掘	事業地区内に遺跡が広がらないことを確認
2	県営ほ場整備事業道目木地区	平成９年３月21日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査
3	県営ほ場整備事業十五野地区	平成９年３月24日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査
4	県営ほ場整備事業田根森地区	平成９年３月25日	踏査	試掘必要箇所の有無を検討。要再調査
5	県営ほ場整備事業琴丘北地区	平成９年３月25日	踏査	試掘必要箇所の選定を行う。平成９年度No.１と対応
6	県営ほ場整備事業内越地区	平成９年３月27日	踏査・試掘	事業地区内に遺跡は確認されなかった。

（平成９年度分）

No.	事　業　名	調　査　期　間	調査内容	調　査　結　果　等
1	県営ほ場整備事業琴丘北地区	平成９年４月８日・21日	踏査・試掘	事業地区内に周知の遺跡１カ所を確認
2	県営ほ場整備事業琴丘南地区	平成９年４月８日・21日	踏査・試掘	事業地区内に周知の遺跡１カ所、新発見の遺跡１カ所を確認
3	秋田中央地区広域営農団地農道整備事業	平成９年４月28日 ５月６日	踏査・試掘	周知の遺跡２カ所を含む再調査を実施
4	高速交通関連道路整備工事事業	平成９年５月21日	踏査・試掘	事業地区内に新発見の遺跡１カ所を確認
5	農免農道整備事業	平成９年５月28日 ６月16日	踏査・試掘	周知の遺跡の近接地を調査したが事業地区内に遺跡は確認されなかった。
6	琴丘能代道路建設事業	平成９年６月25日	踏査	試掘必要箇所の選定を行う。年度内試掘予定。
7	森吉山ダム建設事業	平成９年６月26日	踏査	試掘必要箇所の選定を行う。次年度以降試掘予定
8	日本海沿岸東北自動車道建設事業（雄和・岩城間）	平成９年７月１・８・18日 10月28～30日	踏査	事業地区内に遺跡は確認されなかった。
9	日本海沿岸東北自動車道建設事業（大館・小坂間）	平成９年８月８日・11日	踏査	試掘必要箇所の選定を行う。
10	日本海沿岸東北自動車道建設事業（岩城・本荘間）	平成９年８月26日	踏査	試掘必要箇所の選定を行う。
11	男鹿山地区オートキャンプ場整備事業	平成９年11月12日	踏査・試掘	事業地区内に遺跡は確認されなかった。
12	県営ほ場整備事業寺沢地区	平成９年12月16日	踏査・試掘	周知の遺跡の近接地を調査したが、事業地区内に遺跡は確認されなかった。
13	県営ほ場整備事業金岡地区	平成９年12月17日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
14	県営ほ場整備事業前山地区	平成９年12月18日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
15	県営ほ場整備事業三ノ渡地区	平成９年12月18日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
16	県営ほ場整備事業摩当地区	平成９年12月18日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
17	国道285号線南沢バイパス建設事業	平成９年12月24日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
18	県営ほ場整備事業内越地区	平成９年12月25日	踏査	試掘必要箇所の選定を行った。年度内試掘予定
19	ため池等整備事業待入地区	平成10年１月21・22日	踏査・試掘	事業地区内に周知の遺跡１カ所を確認

第２節　遺跡範囲確認調査

1　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

2　調査の方法

（１）遺跡の広がり、埋没の度合い、時代とその性格を知るために、当該地域での遺物の表面採集および小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行う。

（２）地形等を考慮し、できるかぎり面的に調査地域を広げて遺構の確認に努める。

（３）現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行う。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。

（４）使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

（５）遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

3　事業主体者

秋田県教育委員会

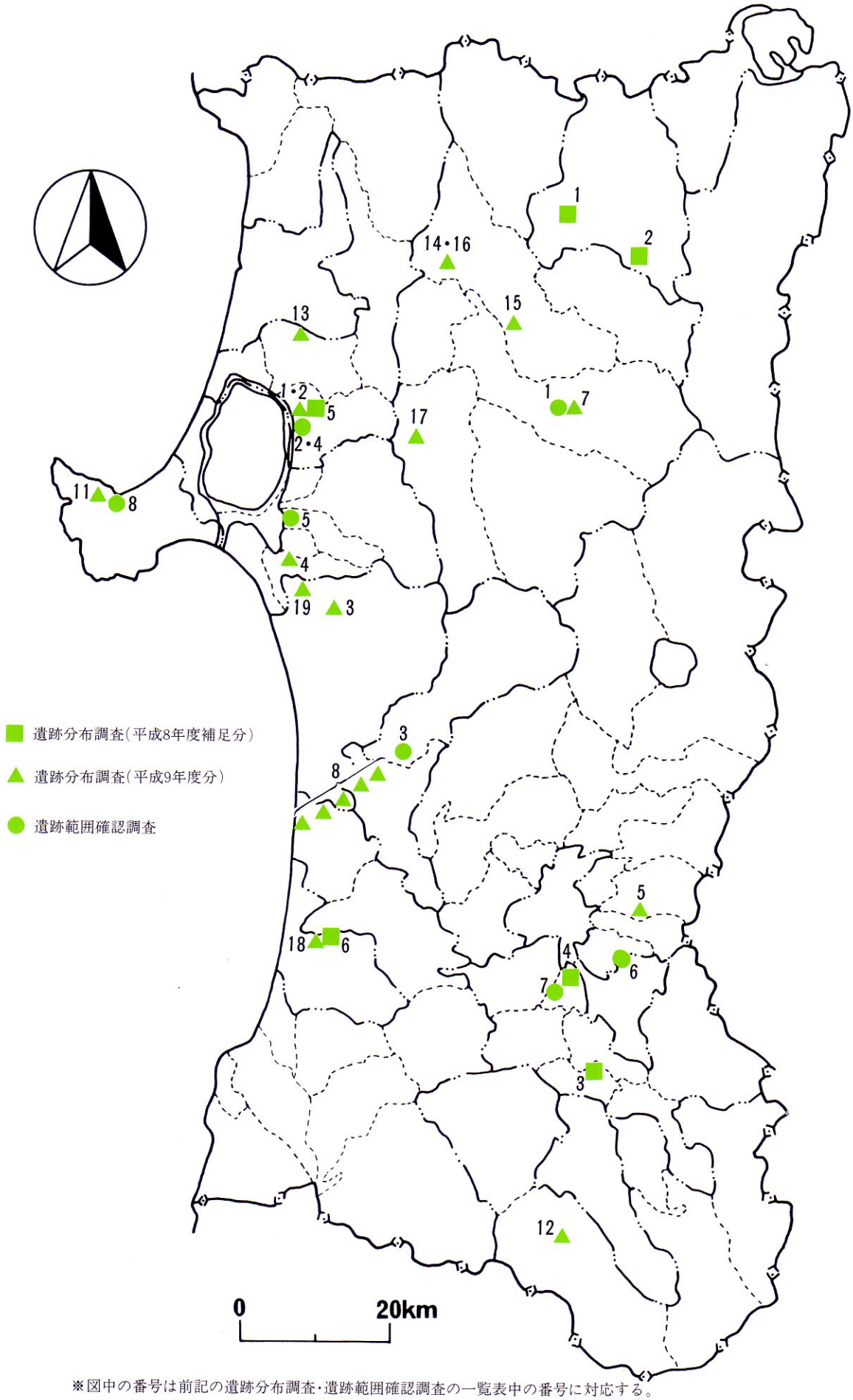
4　調査担当者

秋田県埋蔵文化財センター　調査課長　船木義勝
調査第一科長　高橋忠彦
調査第二科長　柴田陽一郎
文化財主査　児玉準、栗澤光男
学芸主事　杉渕馨、藤澤昌、榮一郎、利部修、高橋学、松本昌樹、本田嘉之、藤原司、小林芳行、吉川孝、泉田健
文化財主事　三浦良隆
非常勤職員　伊藤攻、松尾睦子、村上義直、千葉史宏、安原誠、斎藤仁之、工藤直子、小西秀平、熊谷誠、黒澤幸子

琴丘町教育委員会　生涯学習課　主事　木村将来

5　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No.	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当者	摘要
1	森吉山ダム建設事業	深渡遺跡（森吉町） 深渡Ａ遺跡（森吉町） 栩岱地区（森吉町） 鷲ノ瀬遺跡（森吉町） 地蔵岱遺跡（森吉町） 地蔵岱Ａ遺跡（森吉町） 惣瀬遺跡（森吉町） 根森田地区（森吉町）	平成９年５月12日 ～10月９日	船木義勝 高橋忠彦 杉渕馨 利部修 本田嘉之 吉川孝 村上義直 小西秀平	栩岱地区・根森田地区では遺跡未確認
2	日本海沿岸東北自動車道建設事業琴丘地区	兵ヶ沢遺跡（琴丘町） 中陳場遺跡（琴丘町） 真山野遺跡（琴丘町）	平成９年11月10日 ～11月27日	児玉準 榮一郎 吉川孝 小西秀平	中陳場・真山野遺跡は調査区内を遺跡と認定できず
3	日本海沿岸東北自動車道建設事業河辺地区	松木台Ⅲ遺跡（河辺町）	平成９年５月12日 ～７月10日	柴田陽一郎 藤澤昌 榮一郎 藤原司 小林芳行 三浦良隆 伊藤攻 松尾睦子 安原誠 斎藤仁之 工藤直子 黒澤幸子	
4	県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区	鬼沢口遺跡Ｂ地区（琴丘町） 金仏遺跡（琴丘町） 狐森遺跡（琴丘町）	平成９年６月11日 ～19日 11月10日～27日	木村将来 児玉準 吉川孝 小西秀平	
5	県営ほ場整備事業浜井川地区	洲崎遺跡（井川町）	平成９年11月17日 ～12月５日	高橋学 泉田健 村上義直 安原誠 工藤直子 小西秀平 熊谷誠	
6	県営ほ場整備事業金沢地区	十二牲Ｂ遺跡（横手市） 金沢柵木Ⅰ遺跡の関連遺跡（横手市）	平成９年11月17日 ～12月５日	栗澤光男 小林芳行 斎藤仁之 黒澤幸子	
7	県営ほ場整備事業北阿気地区	江原嶋１遺跡（大雄村）	平成９年11月19日 ～12月５日	藤澤昌 松本昌樹 本田嘉之 藤原司 伊藤攻 松尾睦子	
8	主要地方道入道崎寒風山線緊急地方道路整備事業	泉野冷水遺跡（男鹿市） 中野遺跡（男鹿市）	平成９年11月４日 ～12月５日	杉渕馨 利部修 村上義直	



※図中の番号は前記の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査の一覧表中の番号に対応する。

第１図　遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査位置図

第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

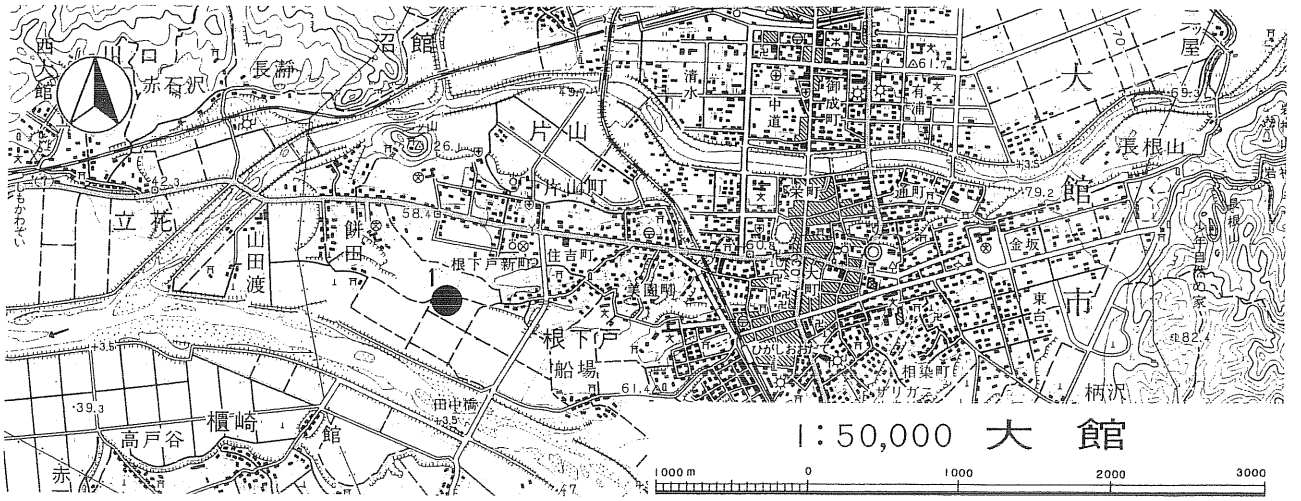
１　平成９年１月～３月補足分

（１）国道103号道路改良事業大館南バイパス建設

大館市根下戸新町で大館西道路と連絡する大館南バイパスのインター部分における分布調査。事業予定地は、大館西道路の建設に伴って実施される根下戸道下遺跡の南端部分に隣接する斜面である。

調査の結果、遺構・遺物とも確認されず、事業対象地まで遺跡が広がっていないことを確認した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・・・・	大館市餅田字根下戸道下芋堀沢	・・・	原野	なし	

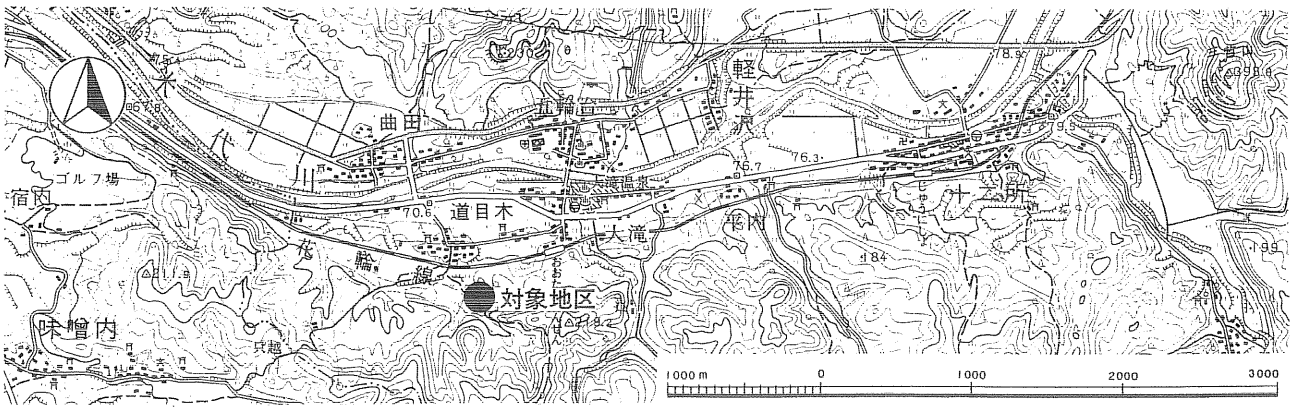


第２図　国道103号道路改良事業大館南バイパス建設地区内遺跡分布調査位置図

（２）県営ほ場整備事業道目木地区

大館市道目木地区に予定されているほ場整備事業で、計画面積35ha、平成12年度まで４カ年計画の事業である。このうち平成９年度予定地区を中心に踏査した。

調査の結果、平成９年度事業予定地区内では試掘必要箇所を認めなかった。なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

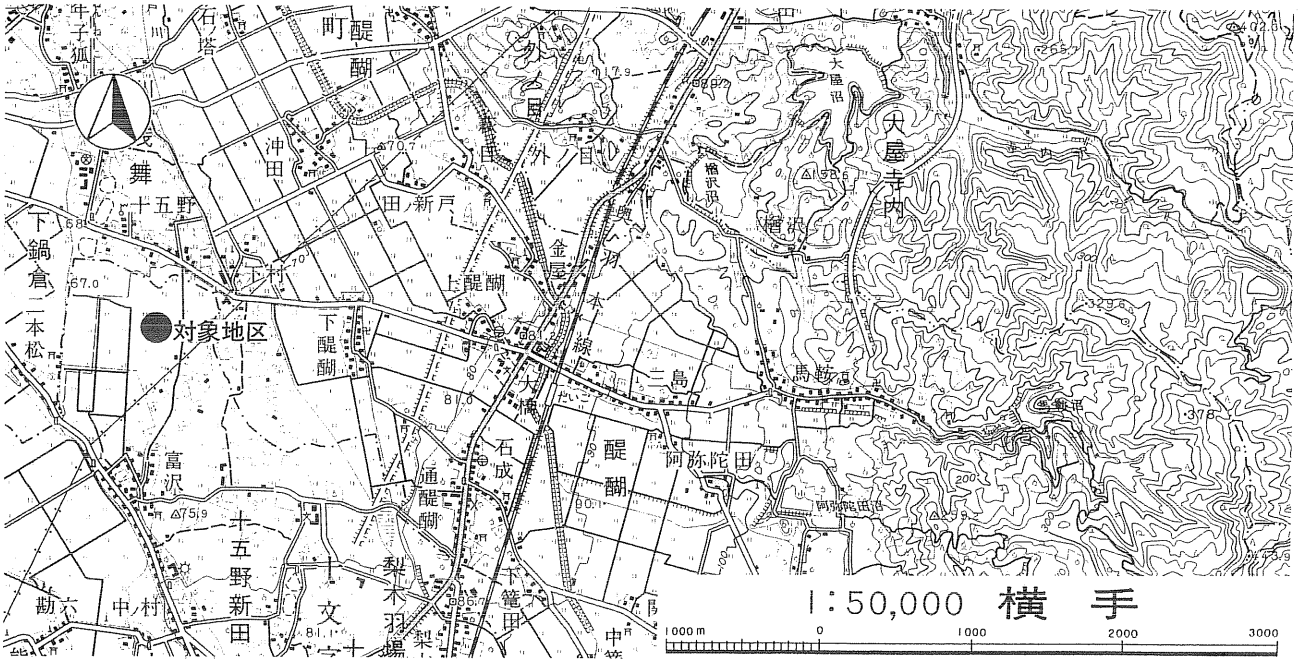


第３図　県営ほ場整備事業道目木地区内遺跡分布調査位置図

（３）県営ほ場整備事業十五野地区

十文字町十五野地区を中心に平鹿町にかけて予定されていたほ場整備事業で、計画面積28ha、平成10年度まで２カ年計画の事業である。このうち平成９年度予定地区を中心に踏査した。

調査の結果、平成９年度事業予定地区内では試掘必要箇所を認めなかった。なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

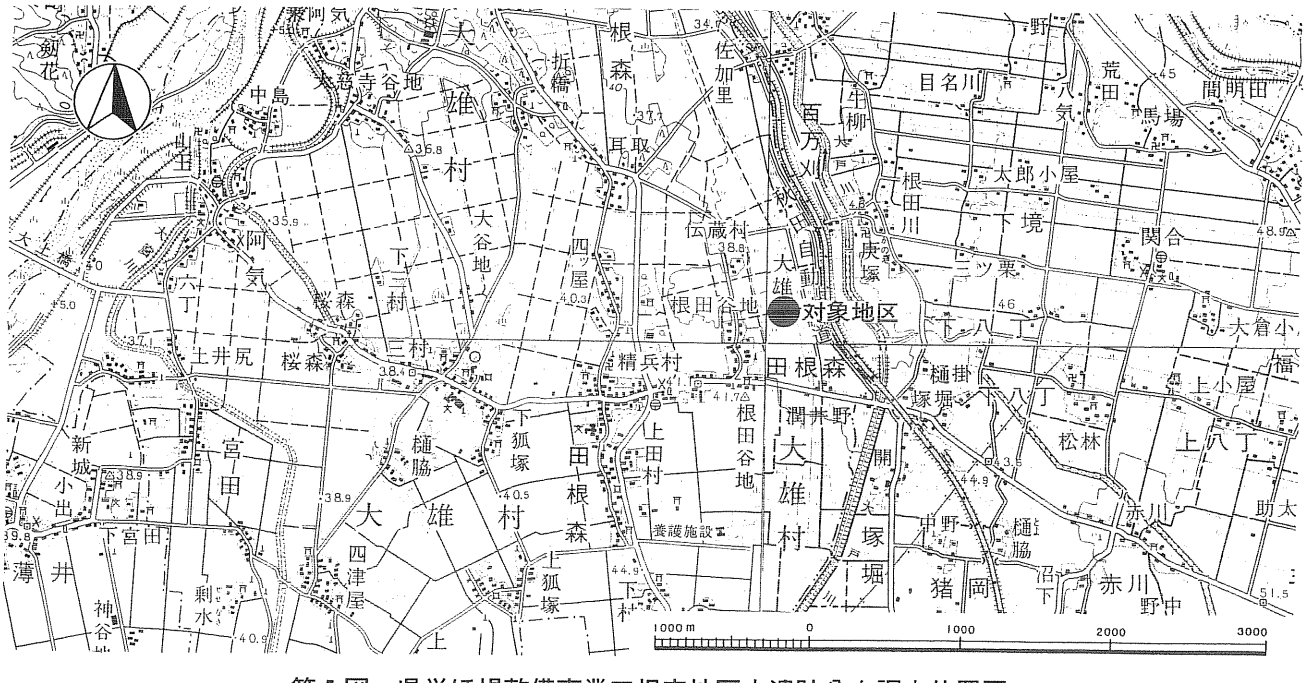


第４図　県営ほ場整備事業十五野地区内遺跡分布調査位置図

（４）県営ほ場整備事業田根森地区

大雄村田根森地区に予定されていたほ場整備事業で、計画面積171ha、平成13年度まで５カ年計画の事業である。このうち平成９年度予定地区を中心に踏査した。

調査の結果、平成９年度事業予定地区内では試掘必要箇所を認めなかった。なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。



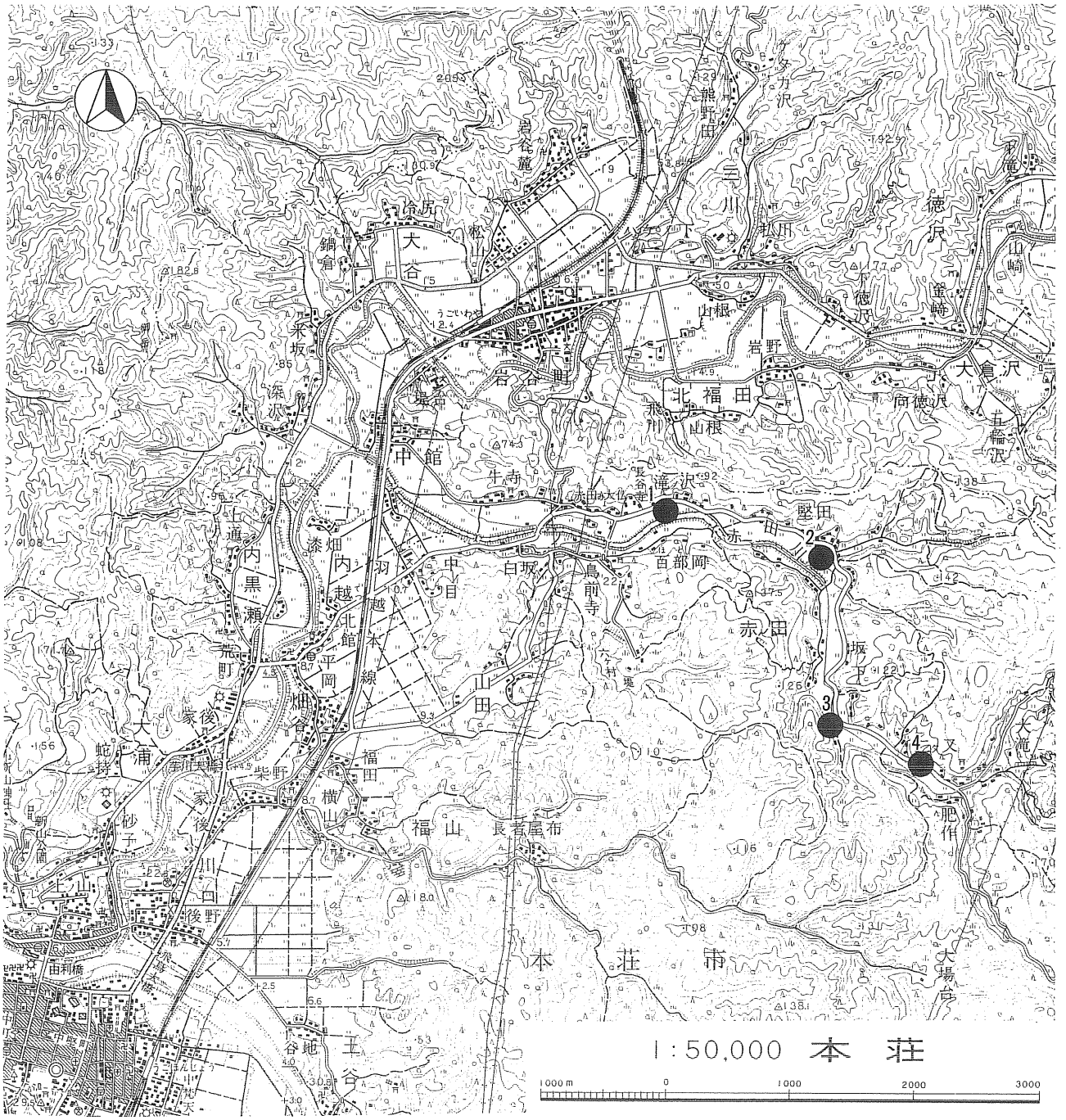
第５図　県営ほ場整備事業田根森地区内遺跡分布調査位置図

（５）県営ほ場整備事業内越地区

本荘市内越地区のほ場整備事業で、計画面積417ha、平成12年度まで５カ年計画の事業である。この内平成９年度予定地区について踏査及び試掘を行った。

調査の結果、２地点で盛土中に剝片２点を確認したが、周辺の状況から遺跡が遺存しているとはとらえられず、他の地点での遺構・遺物の確認も無かった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・・・・	本荘市赤田字袖振	・・・	水田	なし	
2	・・・・	本荘市赤田字堅田	・・・	水田	なし	
3	・・・・	本荘市赤田字坂巻	・・・	水田	なし	
4	・・・・	本荘市赤田字坂巻	・・・	水田	なし	



第６図　県営ほ場整備事業内越地区内遺跡分布調査位置図

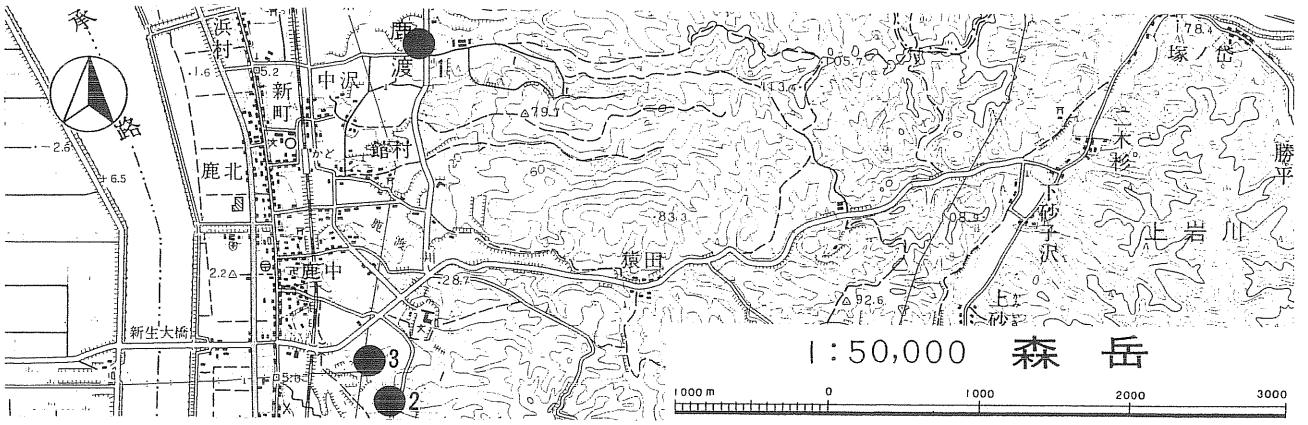
2　平成９年度分

（１）県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区

琴丘町内の２事業である。琴丘北地区は、計画面積270haで平成９年度まで６カ年計画の事業であり、琴丘南地区は計画面積97haで平成10年度までの事業である。本年度は平成９・10年度事業対象区域の内、周知の遺跡とその隣接地について試掘を行った。

調査の結果、周知の遺跡２カ所が事業地まで広がっていることを確認し、また新発見の遺跡を１カ所確認した。協議により周知の遺跡１カ所と新発見の遺跡１カ所は平成９年度に琴丘町教育委員会で調査対応することとし、残りの周知の遺跡１カ所は平成10年度の調査対応とする。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	鬼沢口遺跡	琴丘町鹿渡字鬼沢口	縄文時代中期	水田・畑地	土器・土坑	周知の遺跡
2	狐森遺跡	琴丘町鹿渡字狐森	縄文時代中期	畑地	土器・捨場	周知の遺跡
3	金仏遺跡	琴丘町鹿渡字金仏	縄文時代	畑地	剝片・土坑	新発見の遺跡



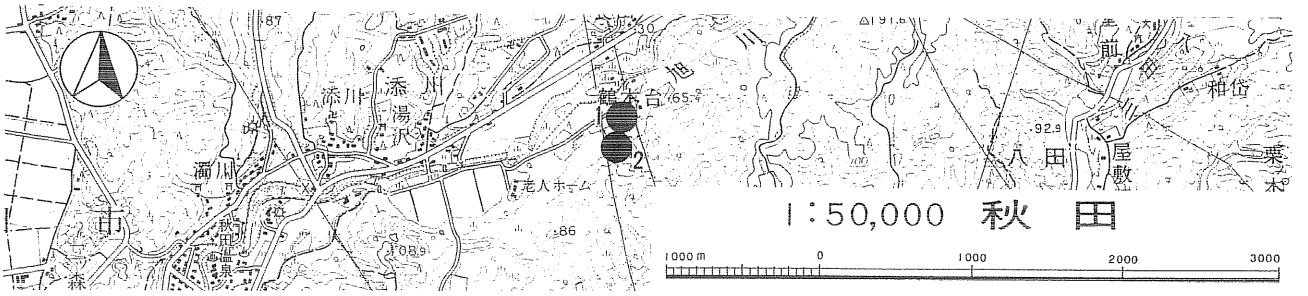
第７図　県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区内遺跡位置図

（２）秋田中央地区広域営農団地農道整備事業

昨年度の分布調査で土坑状のものを確認していた地点の再調査、及び予定路線上の未試掘箇所についての追加調査を行った。

調査の結果、土坑状のものは遺構ではないことが判明。また、他の試掘地点からの遺構・遺物の検出もなかったため、発掘調査の必要はないと判断した。なお、鶴木台Ⅰ遺跡のうち現道の下の部分については工事立会の対応とする。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	鶴木台Ⅰ遺跡	秋田市添川字鶴木台	縄文時代	原野・水田	なし	周知の遺跡
2	鶴木台Ⅱ遺跡	秋田市添川字鶴木台	縄文時代	山林・畑地	なし	周知の遺跡



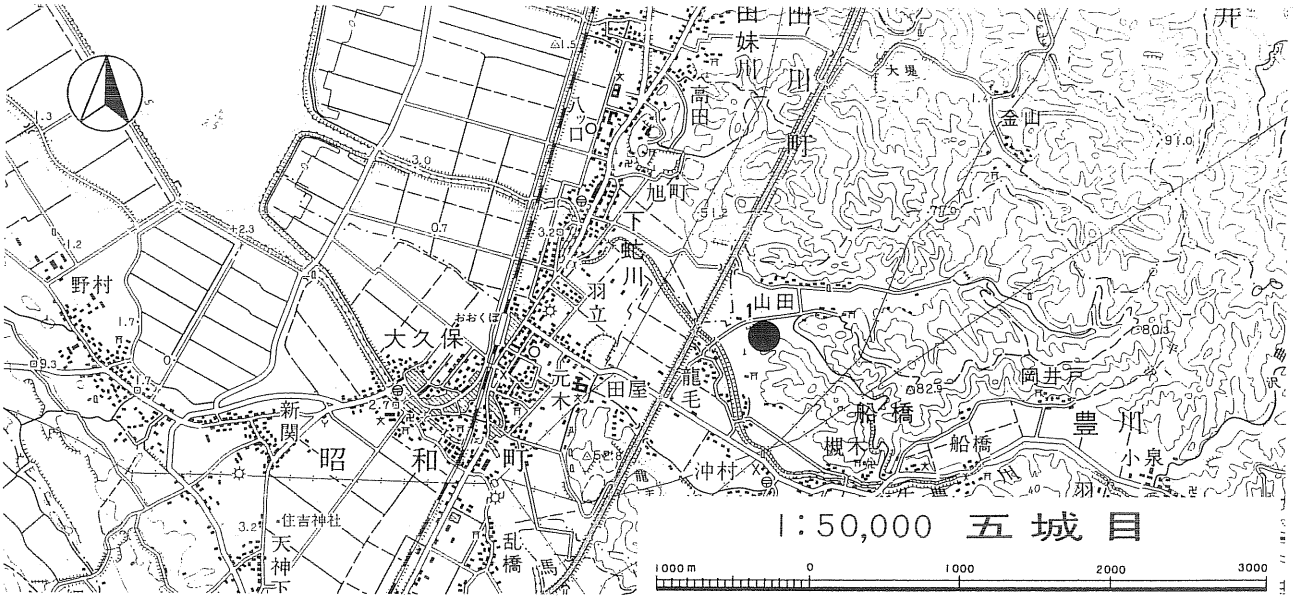
第８図　秋田中央地区広域営農団地農道整備事業地区内遺跡位置図

（３）高速交通関連道路整備工事事業

昭和町豊川山田地区の盛土材採取予定地について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、新発見の遺跡１カ所が事業に係わることを確認した。この遺跡については原因者との協議で事業予定地から除外されることになった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	深田沢Ⅱ遺跡	昭和町豊川山田字深田沢	古代	原野	土師器･須恵器	新発見の遺跡



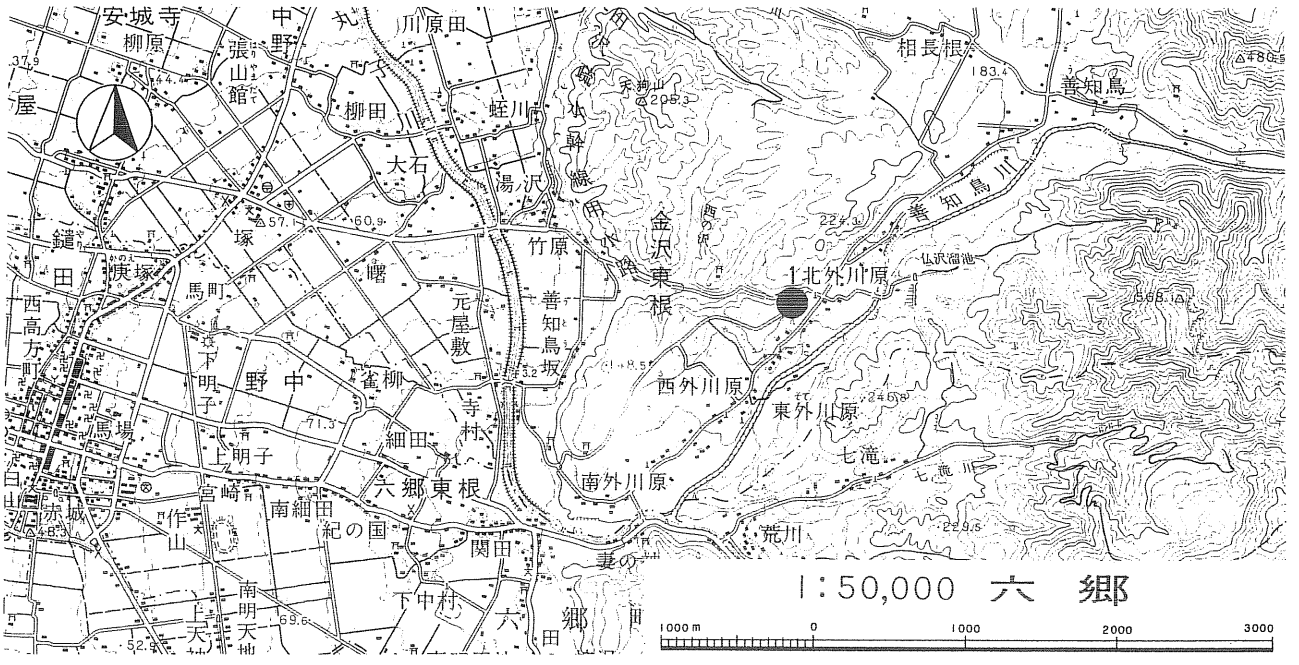
第９図　高速交通関連道路整備工事事業地区内遺跡位置図

（４）農免農道整備事業

千畑町金沢東根地内の予定路線2.5㎞について踏査および試掘を行った。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなく、隣接する周知の遺跡への影響もないと判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	川端山Ⅰ遺跡	千畑町金沢東根字川端山	縄文時代	草地	なし	周知の遺跡



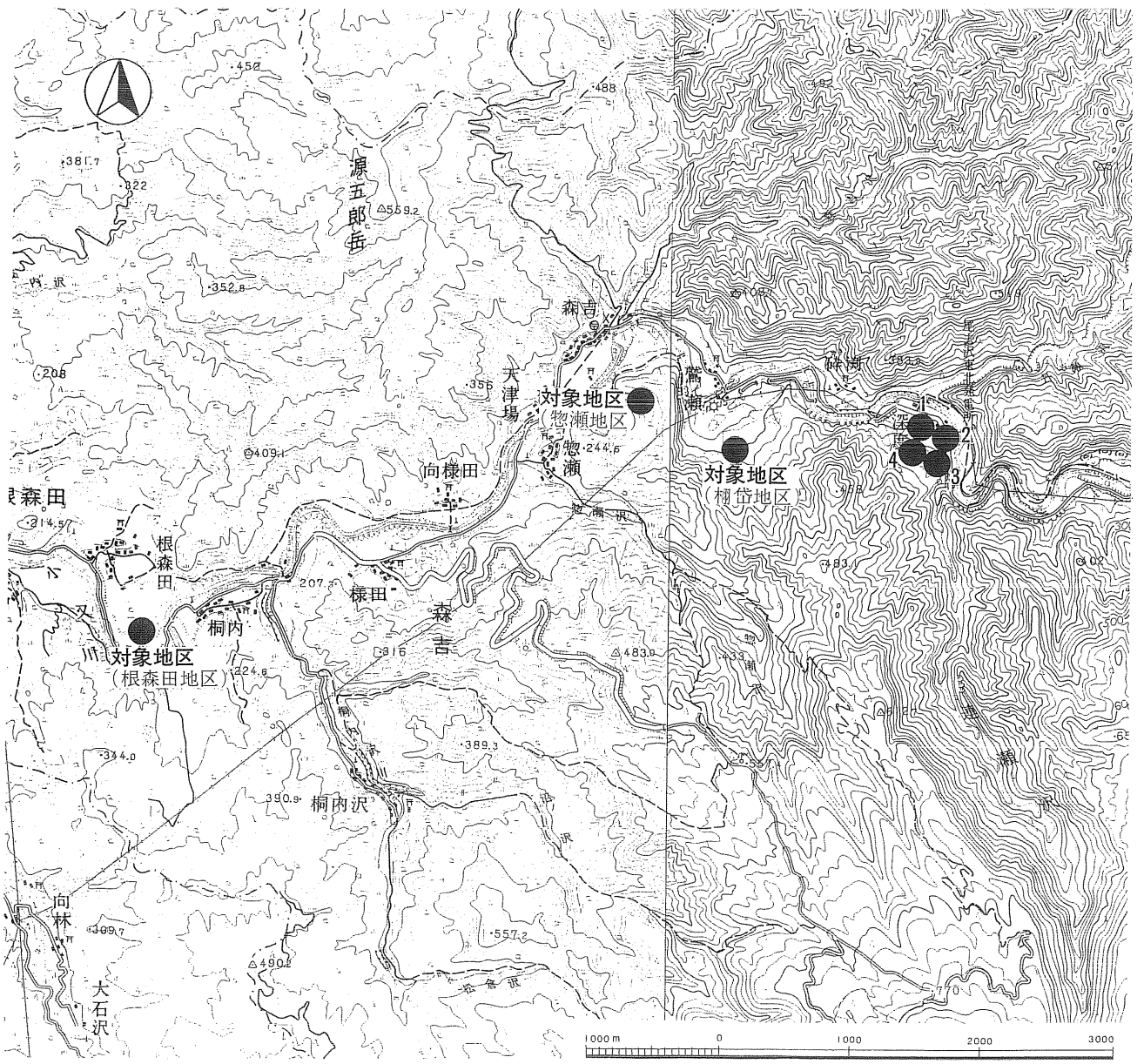
第10図　農免農道整備事業地区内遺跡位置図

（５）森吉山ダム建設事業

森吉町において進められている森吉山ダム建設に関連する事業である。本事業の埋蔵文化財の取り扱いについては、これまでも調査と協議が重ねられてきており、平成９年度からは一部発掘調査が開始されている。今回は、付け替え県道及び材料採取部分にかかる４カ所について踏査を行い、一部試掘調査を実施した。

調査の結果、深渡地区について４カ所、惣瀬地区に２カ所、栩岱地区で１カ所、根森田地区で３カ所の試掘必要箇所を選定した。また、深渡地区では、試掘調査を実施。いずれの地点でも遺構・遺物とも検出されなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・　・　・	森吉町森吉字深渡	・　・　・	水田	なし	
2	・　・　・	森吉町森吉字深渡	・　・　・	水田	なし	
3	・　・　・	森吉町森吉字深渡	・　・　・	水田	なし	
4	・　・　・	森吉町森吉字深渡	・　・　・	水田	なし	



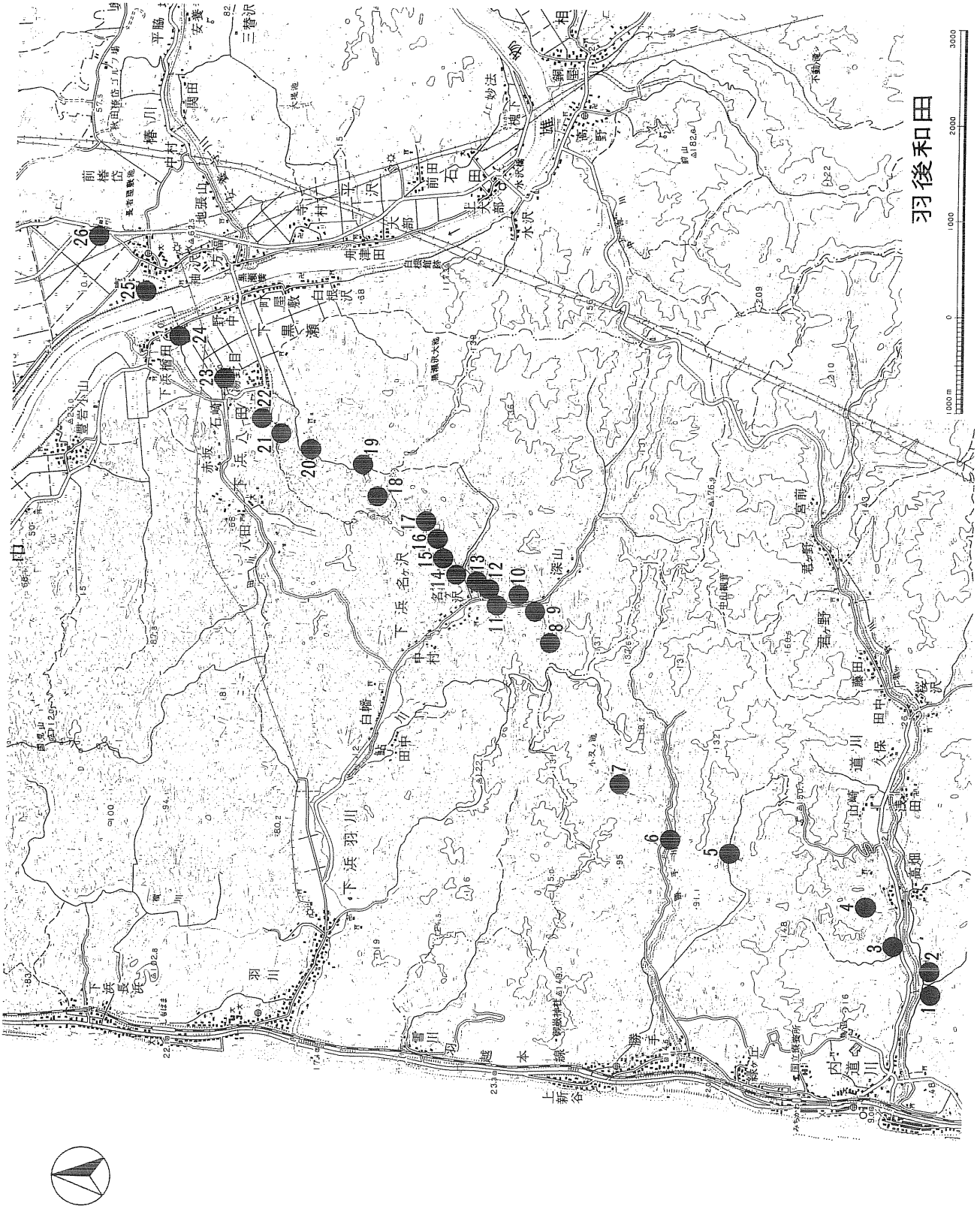
第11図　森吉山ダム建設事業地区内遺跡分布調査位置図

（６）日本海沿岸東北自動車道建設事業（雄和・岩城間）

河辺町七曲を始点に象潟町へ向かう計画路線の内、雄和～岩城間13.5kmについて踏査および試掘を実施した。

調査の結果、新たな遺跡の発見はなく、また隣接する周知の遺跡への影響もないと判断した。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・・・・	岩城町内道川字中道	・・・	水田	なし	
2	・・・・	岩城町内道川字扇田	・・・	水田	なし	
3	・・・・	岩城町内道川字大内田	・・・	水田	なし	
4	・・・・	岩城町内道川字岩ノ沢	・・・	山林	なし	
5	・・・・	岩城町内道川勝手字蓬田	・・・	水田	なし	
6	・・・・	岩城町内道川字板沢	・・・	水田	なし	
7	・・・・	岩城町内道川字狸ヶ沢	・・・	畑地	なし	
8	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字タツラ沢	・・・	山林	なし	
9	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字タツラ沢	・・・	水田	なし	
10	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字入道沢	・・・	水田	なし	
11	村杉館跡	秋田市下浜名ヶ沢字入道沢	中世	山林	なし	周知の遺跡
12	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字兵屋敷	・・・	水田	なし	
13	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字兵屋敷	・・・	山林	なし	
14	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字蓬田	・・・	水田	なし	
15	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字福ベラ沢	・・・	水田	なし	
16	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字福ベラ沢	・・・	山林	なし	
17	・・・・	秋田市下浜名ヶ沢字福ベラ沢	・・・	山林	なし	
18	・・・・	雄和町下黒瀬字岩ノ沢	・・・	山林	なし	
19	・・・・	雄和町下黒瀬字岩ノ沢	・・・	山林	なし	
20	・・・・	雄和町下黒瀬字岩ノ沢	・・・	山林	なし	
21	・・・・	雄和町下黒瀬字湯野目	・・・	山林	なし	
22	・・・・	雄和町下黒瀬字湯野目	・・・	山林	なし	
23	・・・・	雄和町下黒瀬字湯野目	・・・	山林	なし	
24	・・・・	秋田市下浜楢田字上野	・・・	畑地	なし	
25	・・・・	雄和町椿川字鹿野戸	・・・	水田	なし	
26	・・・・	雄和町芝野新田字辛谷地	・・・	水田	なし	



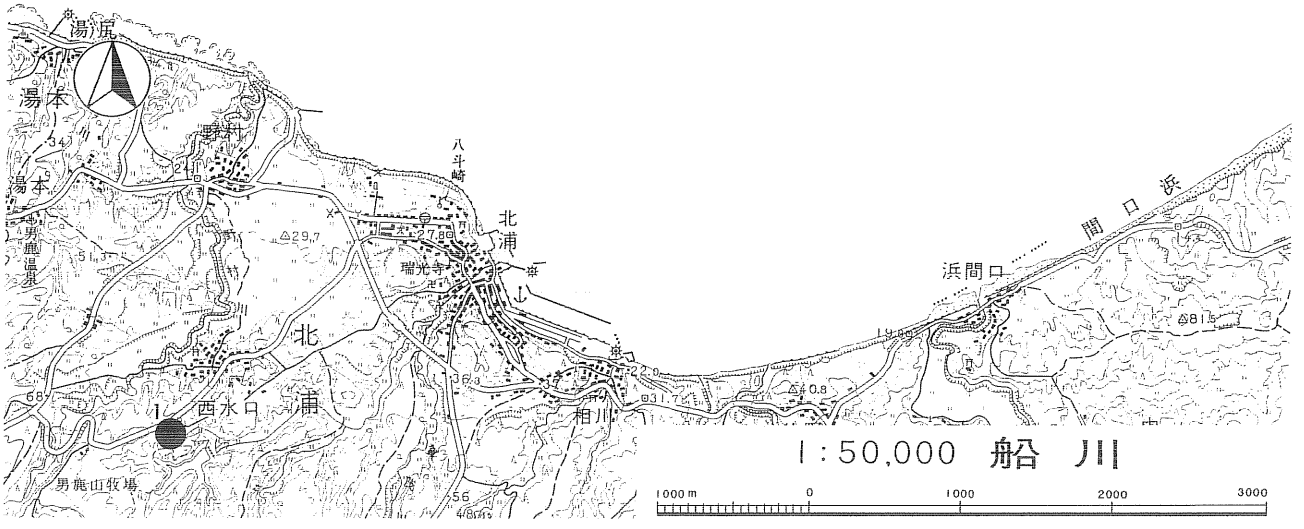
第12図　日本海沿岸東北自動車道建設事業（雄和・岩城間）地区内遺跡分布調査位置図

（７）男鹿山地区オートキャンプ場整備事業

男鹿市北浦男鹿山牧場地内の事業予定地について、踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなかった。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・・・・	男鹿市北浦男鹿山牧場	・・・	草地	なし	



第13図　男鹿山地区オートキャンプ場整備事業地区内遺跡分布調査位置図

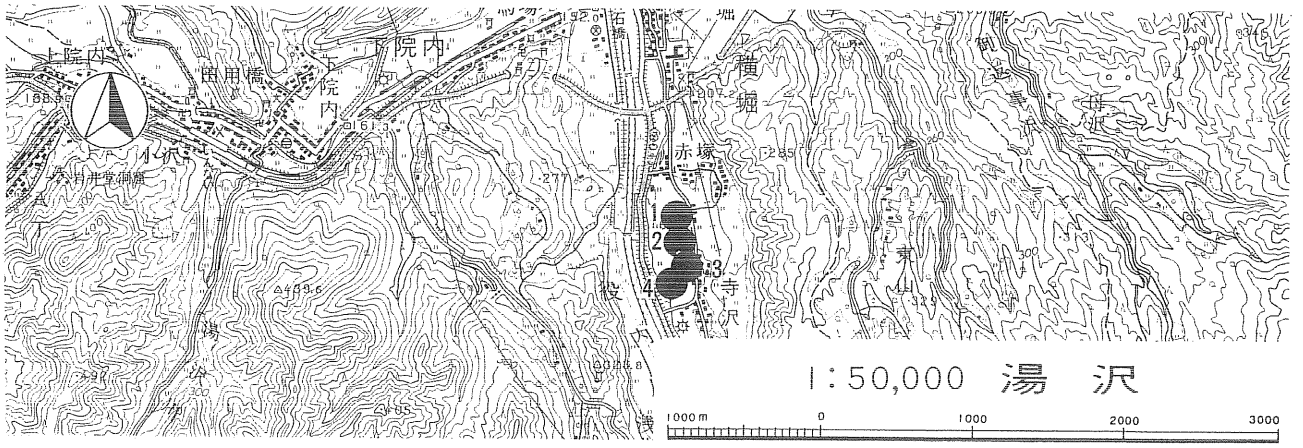
（８）県営ほ場整備事業寺沢地区

雄勝町寺沢地区における事業で、計画面積は50ha。平成13年度まで５カ年計画の事業である。この事業区域内には館堀城が含まれていることを昨年度の分布調査で確認しているが、本年度は館堀城に隣接する平成10年度工事予定区域について踏査及び試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物の発見はなかった。

平成11年度以降の工事区域については今後の調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	・・・・	雄勝町寺沢字館堀	・・・	水田	なし	
2	・・・・	雄勝町寺沢字館堀	・・・	水田	なし	
3	・・・・	雄勝町寺沢字館堀	・・・	水田	なし	
4	・・・・	雄勝町寺沢字館堀	・・・	水田	なし	



第14図　県営ほ場整備事業寺沢地区内遺跡分布調査位置図

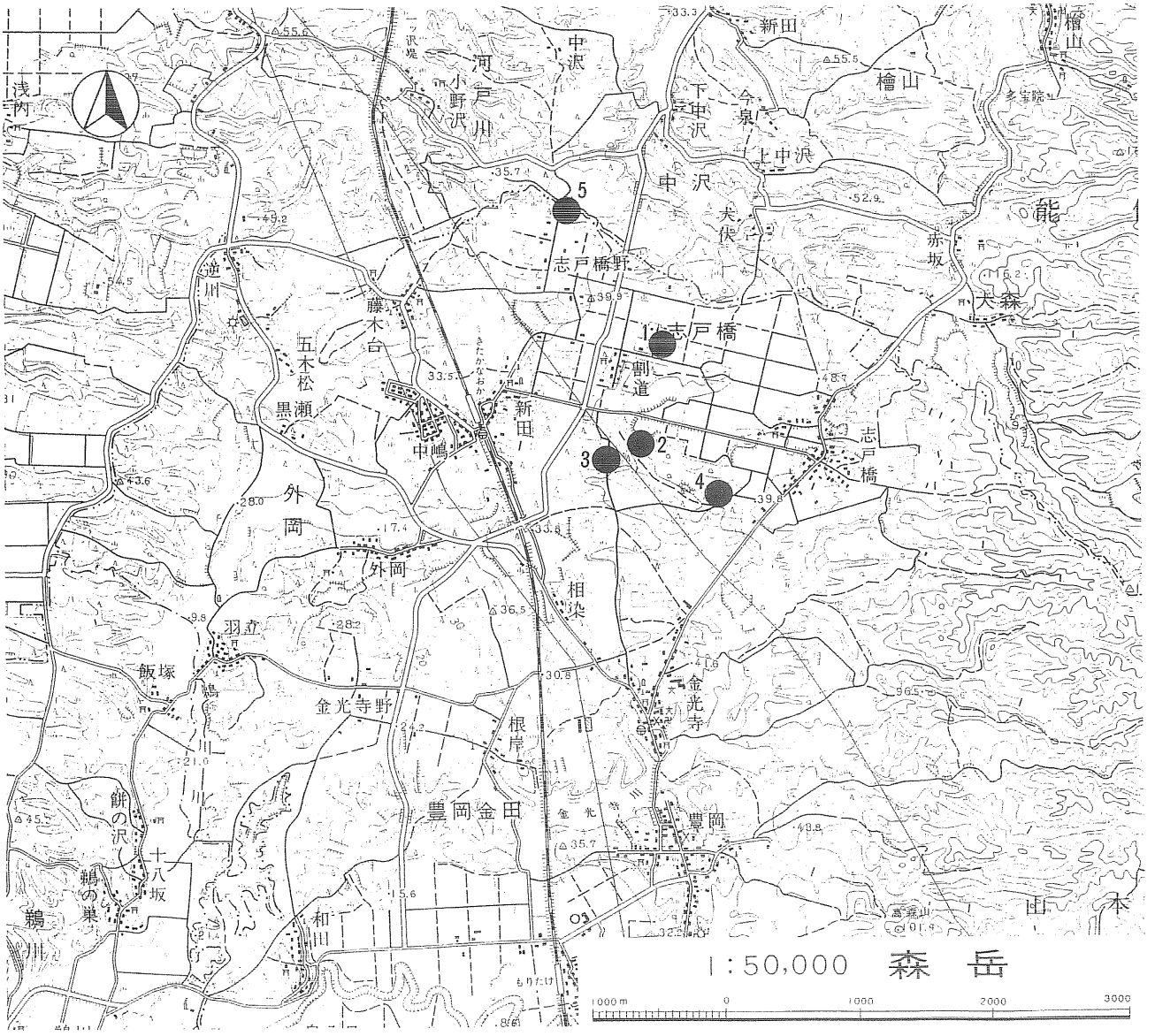
（９）県営ほ場整備事業金岡地区

山本町金岡地区のほ場整備事業で、計画面積546ha、平成13年度まで５カ年計画の事業である。このうち平成10～11年度予定地区について踏査した。

踏査の結果、事業予定地区内に周知の遺跡である大下Ⅰ・大下Ⅱ・霜谷地・高田遺跡が、また、近接地に周知の遺跡である割道遺跡があることを確認し、その周辺を含め40地点の試掘必要箇所を選定した。試掘必要箇所については、今後試掘する予定である。

なお、事業予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	大下Ⅰ遺跡	山本町志戸橋字大下	縄文時代･古代	水田		周知の遺跡
2	大下Ⅱ遺跡	山本町志戸橋字大下	縄文時代	畑・山林		周知の遺跡
3	霜谷地遺跡	山本町志戸橋字霜谷地	縄文時代	畑		周知の遺跡
4	高田遺跡	山本町志戸橋字高田	縄文時代	畑・原野		周知の遺跡
5	割道遺跡	山本町志戸橋字割道	縄文時代	畑・原野		周知の遺跡

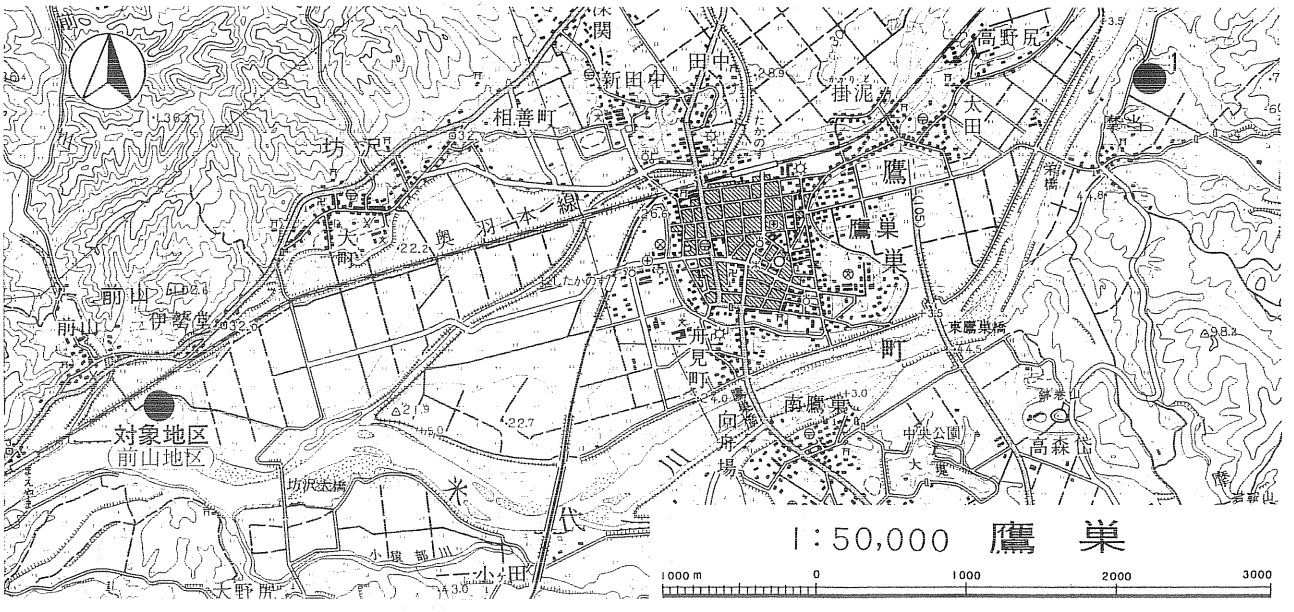


第15図　県営ほ場整備事業金岡地区内遺跡位置図

(10) 県営ほ場整備事業前山地区・摩当地区

鷹巣町に計画されている２事業である。前山地区については計画面積60haで、平成12年度までの５カ年計画の事業であり、平成10年度工事予定地区について踏査した。予定地域内に周知の遺跡はないが、地形を考慮して、試掘必要箇所13カ所を選定した。摩当地区については計画面積50haで、平成13年度までの５カ年計画事業である。踏査により、事業予定地内に周知の遺跡である碇岱遺跡があることを確認し、その周辺を含め36地点の試掘必要箇所を選定した。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	碇岱遺跡	鷹巣町摩当字碇岱	縄文時代中期	水田		周知の遺跡

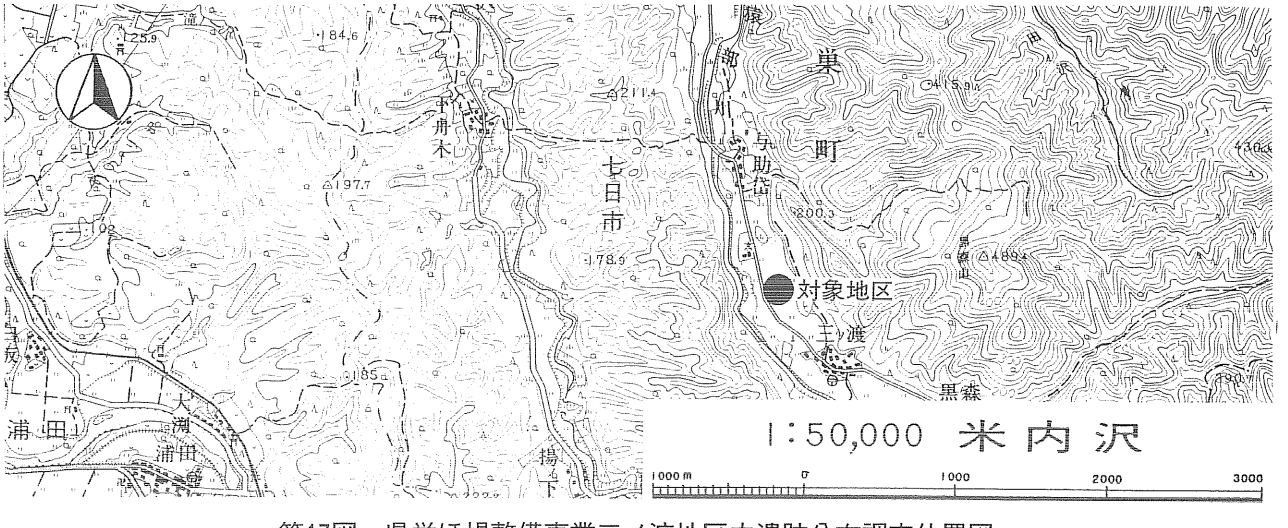


第16図　県営ほ場整備事業前山地区・摩当地区内遺跡位置及び遺跡分布調査位置図

(11) 県営ほ場整備事業三ノ渡地区

鷹巣町三ノ渡地区に計画されたほ場整備事業である。計画面積67haで、平成13年度までの５カ年計画である。事業予定地区について踏査した。

調査の結果、地区内に周知の遺跡はないものの、地形を考慮して、試掘必要箇所27カ所を選定した。試掘必要箇所については今後試掘する予定である。



第17図　県営ほ場整備事業三ノ渡地区内遺跡分布調査位置図

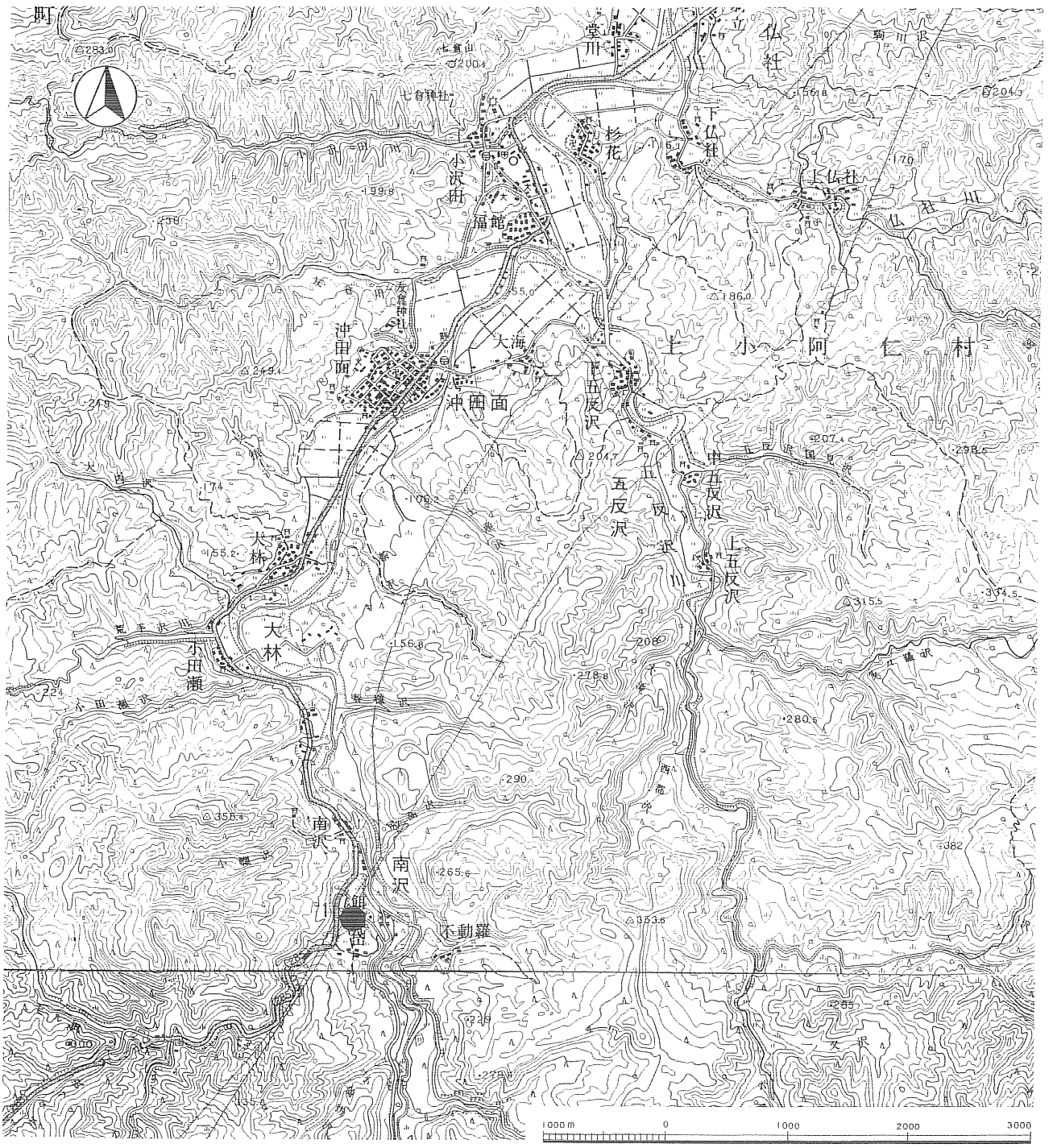
(12) 国道285号線南沢バイパス建設事業

上小阿仁村南沢字餌刺岱を起点に、上小阿仁村字大林を終点とする3.9km区間の内、平成14年度の供用を目指している南端部分について踏査した。

踏査の結果、計画路線が周知の遺跡である餌刺岱遺跡の近接地を通過していることを確認し、その付近を含め９カ所の試掘必要箇所を選定した。試掘必要箇所については今後の試掘を予定している。

なお、計画路線に今後踏査の必要な箇所を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	餌刺岱遺跡	上小阿仁村南沢字餌刺岱	縄文時代中期	畑		周知の遺跡



第18図　国道285号線南沢バイパス建設事業地区内遺跡位置図

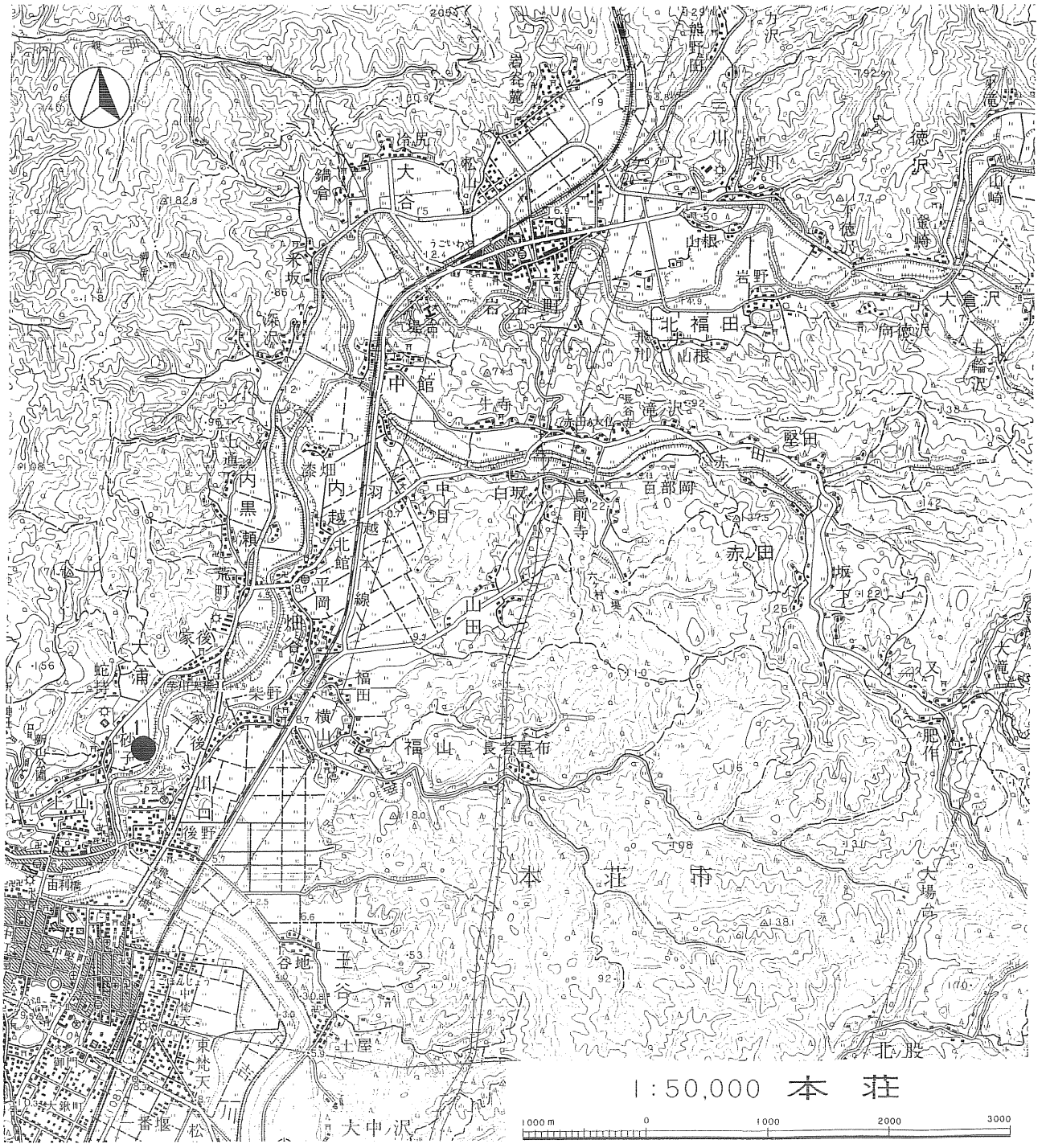
(13) 県営ほ場整備事業内越地区

本荘市内越地区のほ場整備で、計画面積350ha、平成13年度まで５カ年計画の事業である。このうち平成10年度予定地区について踏査した。

踏査の結果、事業予定地区内に周知の遺跡である大浦遺跡があることを確認し、その周辺を含め17地点の試掘必要箇所を選定した。試掘必要箇所については、今後試掘する予定である。

なお、予定地区内には今後踏査の必要な地区を残している。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	大浦遺跡	本荘市大浦字八走	縄文時代･古代	水田		周知の遺跡



第19図　県営ほ場整備事業内越地区内遺跡位置図

(14) ため池等整備事業待入地区

秋田市金足高岡字院内沢にあるため池の整備事業である。この事業に伴う堤体盛土の土取場用地について踏査及び試掘を実施した。

調査の結果、用地が周知の遺跡である高岡館跡にかかることを確認し、平成９年度工事予定部分について試掘した。試掘地点において、古代の竪穴状遺構１基を確認したが、遺構の遺存状況がきわめて悪く、遺物の散布も希薄であったことから、検出した遺構については調査を完了させ、事業計画については慎重工事の取り扱いとした。

なお、平成10年度事業予定地区については、今後の試掘調査が必要である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	高岡館跡	秋田市金足高岡字二本松	中世･古代	畑	竪穴状遺構	周知の遺跡

第20図　ため池等整備事業待入地区内遺跡位置図

第２節　遺跡範囲確認調査

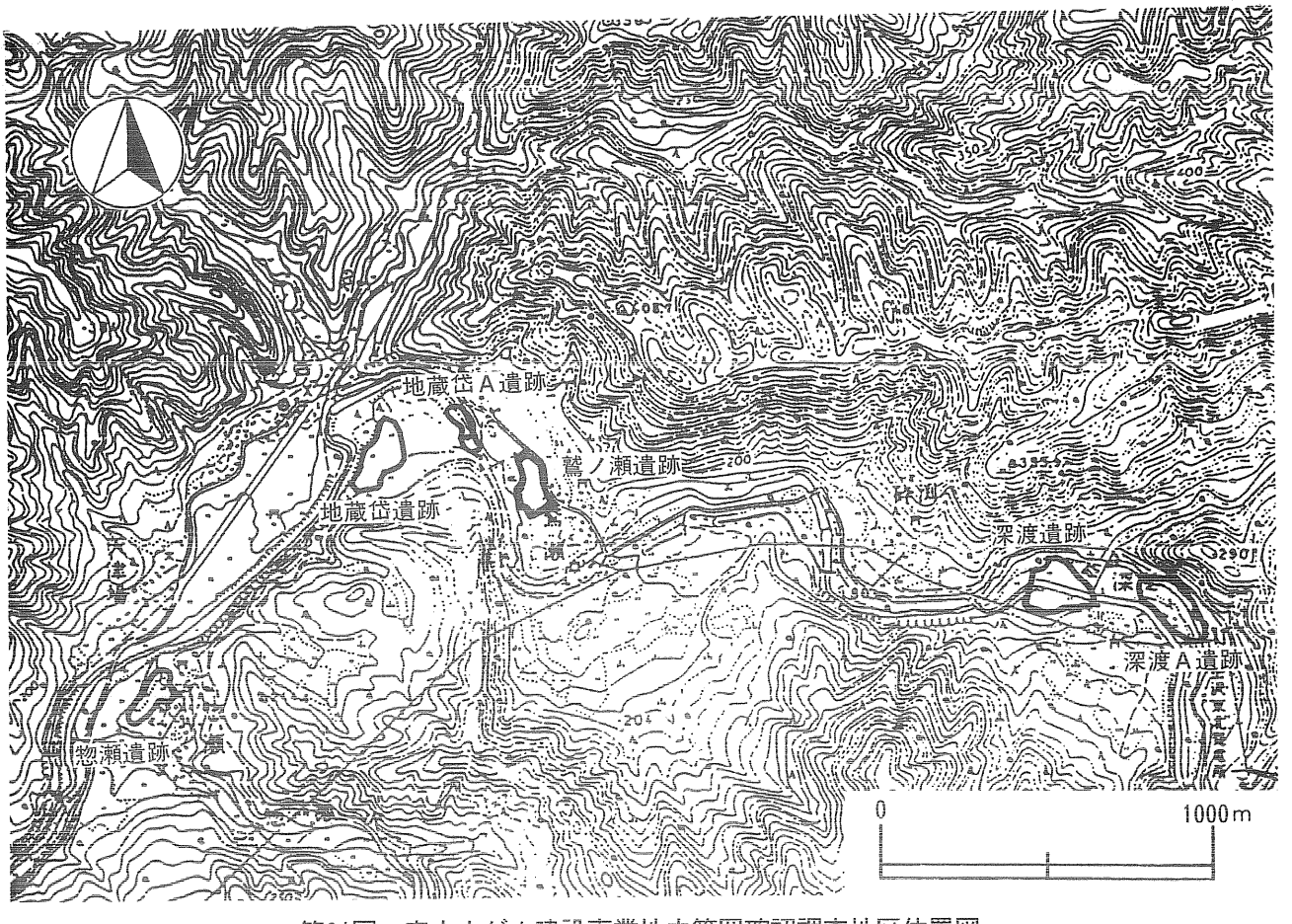
１　森吉山ダム建設事業

森吉山ダム建設事業に係る範囲確認調査について

森吉山ダム建設地は、森吉町と南に隣接する阿仁町にまたがる森吉山(標高1,454ｍ)の北側に位置している。そこは、小又川が太平湖を経由し蛇行しながら阿仁川に注ぐ中流域にあり、東西の直轄管理区間は約10㎞である。範囲確認調査は、ダム建設地および貯水池用地(湛水区域)、道路用地などを対象とした広範囲に及んでいる。ダム建設に伴う集落の移転はすでに終了しており、かつての集落や耕作地を中心とした1,200,000㎡が調査の対象になる。調査は平成６年度より開始され、本年度で４年目を迎える。

本年度の調査対象区域は、昨年度調査を実施した向様田地区の上流域にあたり、東より深渡地区・栩岱地区・鷲ノ瀬地区・地蔵岱地区・惣瀬地区・根森田地区である。対象範囲は６地区293,300㎡で、栩岱地区・根森田地区を除いた区域で６遺跡が確認され、その総面積は72,200㎡にのぼる(第21図)。したがって、平成６～８年度までに確認された51遺跡を併せると、現在までに57遺跡が見つかったことになる。

なお、深渡地区と地蔵岱地区では２遺跡ずつ確認されているが、これらの地区では、すでに工事用道路のために深渡遺跡・地蔵岱遺跡として調査・報告されている遺跡がある。そのため、新たに確認された遺跡のうち、調査済みの遺跡に隣接する遺跡は同じ遺跡名を用い、それ以外の遺跡では、それぞれ深渡Ａ遺跡・地蔵岱Ａ遺跡として扱うことにした。



第21図　森吉山ダム建設事業地内範囲確認調査地区位置図

（１）深渡遺跡・深渡Ａ遺跡

１　遺跡所在地

深渡遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字深渡104-1外
深渡Ａ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字深渡29外

２　範囲確認調査期間　平成９年５月12日～７月10日

３　範囲確認調査対象面積　74,000㎡

４　工事区域内遺跡面積

深渡遺跡	15,500㎡
深渡Ａ遺跡	9,200㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

深渡遺跡と深渡Ａ遺跡は、西に流れる小又川左岸の河岸段丘上にあり、標高は187～192ｍである。旧深渡集落の西側には、東西に通る県道比内森吉線から北に向かう丹瀬沢林道がある。林道の西側で県道の両側には深渡遺跡が、東側で県道の北側には小又川に面した深渡Ａ遺跡がある。深渡遺跡は、県道南側の広範な上位段丘面、同北側の中位段丘面、その北の低位段丘面と３つの段丘面を含み、深渡Ａ遺跡は上位と中位の２つの段丘面にわたる。なお、深渡遺跡の県道南側部分は、ジャンボリー道路建設事業に関わって平成８・９年度に発掘調査が行われ、竪穴住居跡の他に石組石棺墓や土器埋設遺構を含む縄文時代中期～晩期の集落跡が確認されている。

②現況

２つの遺跡はいずれもかつての水田で、現状は草地や柳の密集した区域も含む。深渡Ａ遺跡では、一部に旧畑地や旧宅地を含んでおり、コンクリートの土台が所々に認められる。また、県道で南北に二分されている深渡遺跡の南側は、県道改良工事（ジャンボリー道路建設事業）のために平成８・９年度発掘調査が実施され、当事業に係る部分によって結果的に北側・南東側・南西側の３つの区域に分断されている。

６　範囲確認調査方法

雑木の伐採や草刈りを済ませた後、水田や道路の区画に沿うように見通しによる測量を行う。幅約１ｍのトレンチを設定し重機を用いて掘削を行い、壁面や地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。なお、深渡遺跡の県道より南側では、ジャンボリー道路の調査成果および８年度の範囲確認調査成果を基にした。深渡地区の試掘面積は4,270㎡、調査対象面積の5.7％である。

７　範囲確認調査結果

Ａ：深渡遺跡

①層序

県道の南側中央では、Ⅰ層耕作土（30㎝前後）、Ⅱ層黒褐色土（20～30㎝）、Ⅲ層礫層および地山である。Ⅲ層の礫層は中央部に認められ、その東西は地山面となる。Ⅱ層は、縄文時代中期から晩期にかけての遺物包含層である。県道の北側は、低位段丘面と考えられる西端と北端を除くと、およそⅠ層耕作土（30～40㎝）、Ⅱ層黒褐色土（10～50㎝）、Ⅲ層礫層および砂層となり、中位段丘の北端には深さ約１ｍ程の所で岩盤が見られる。東側ではⅡ層が部分的にしか認められず、西側ほど深くなる。東端には深い沢が南東から北西にかけて延び、北側には東西方向の沢がある。北側沢の下位覆土より、縄文時代前期の遺物が出土している。北側低位段丘面では、Ⅰ層耕作土が厚さ1.5ｍ程あり、Ⅱ層の褐色砂質土より縄文時代後期の土器がまとまって

出土している。

②検出遺構と出土遺物(第22図)

遺跡範囲のうち、トレンチを入れたのは県道より北側である。ここでは土坑２基を確認した他、小規模ながら捨場の一部と考えられる場所を検出した。捨場と考えられる所では、繊維を含んだ縄文時代前期の円筒下層式土器が、その北の下位段丘では中期末葉の土器がまとまって出土した。

Ｂ：深渡Ａ遺跡

①層序

深渡Ａ遺跡は、県道と小又川に挟まれ南東から北西に細長い範囲をもち、県道側の高位段丘部と河川側の低位段丘部に二分される。高位段丘では、Ⅰ層耕作土(20～30cm)、Ⅱ層黒褐色土(10cm～１ｍ)、Ⅲ層地山土(砂質土)である。Ⅱ層は、縄文時代の遺物包含層と考えられるが、段丘崖端部のみに認められる。低位段丘では、Ⅰ層耕作土(20～30cm)、Ⅱ層暗褐色土(20cm前後)、Ⅲ層礫層および地山土で、Ⅱ層が縄文時代後期～晩期にかけての遺物包含層である。

②検出遺構と出土遺物(第22図)

陥し穴を含む土坑10基を確認したが、不明確な遺構も含んでいる。遺物は相対的に少なく、石器は数片出土したのみである。土器には縄文時代後期と晩期のものがあり、石器にはトランシェ様石器がある。

８　所見

Ａ：深渡遺跡

①遺跡の種類

県道の南側では、平成８年度に縄文時代中期から晩期にかけての竪穴住居跡や土坑(土坑墓・貯蔵穴)が検出されており(森吉町教委)、これらの広がりで捉えられる集落跡の一部であろう。また、縄文前期の捨場らしい場所もあり、複合遺跡の性格をもつ。

②遺跡の範囲(第23図)

小又川の上位から下位にかけての河岸段丘で、上位段丘面の西側を中心とする一画。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

県道より北側では、数基の土坑と捨場から縄文時代前期を中心とした土器が出土すると予想される。県道より南側では、中期から晩期の土坑がややまとまって検出される他、竪穴住居跡が見つかると考えられる。

Ｂ：深渡Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後・晩期を主体にした遺跡で、墓と考えられる土坑の存在から墓域が想定される。また、陥し穴の存在から狩猟場としての性格も考えられる。

②遺跡の範囲(第23図)

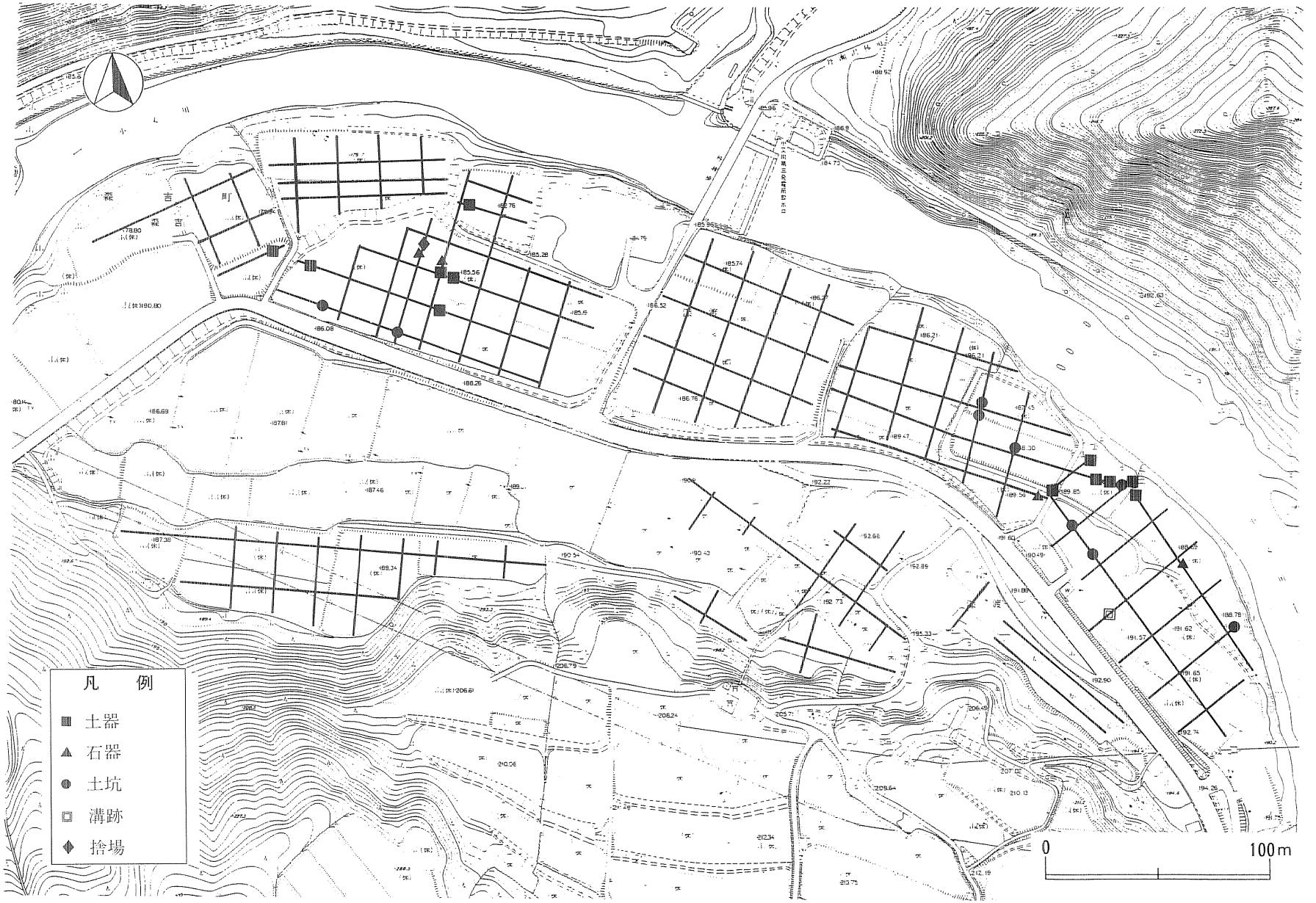
県道と小又川に挟まれた河岸段丘上の細長い範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

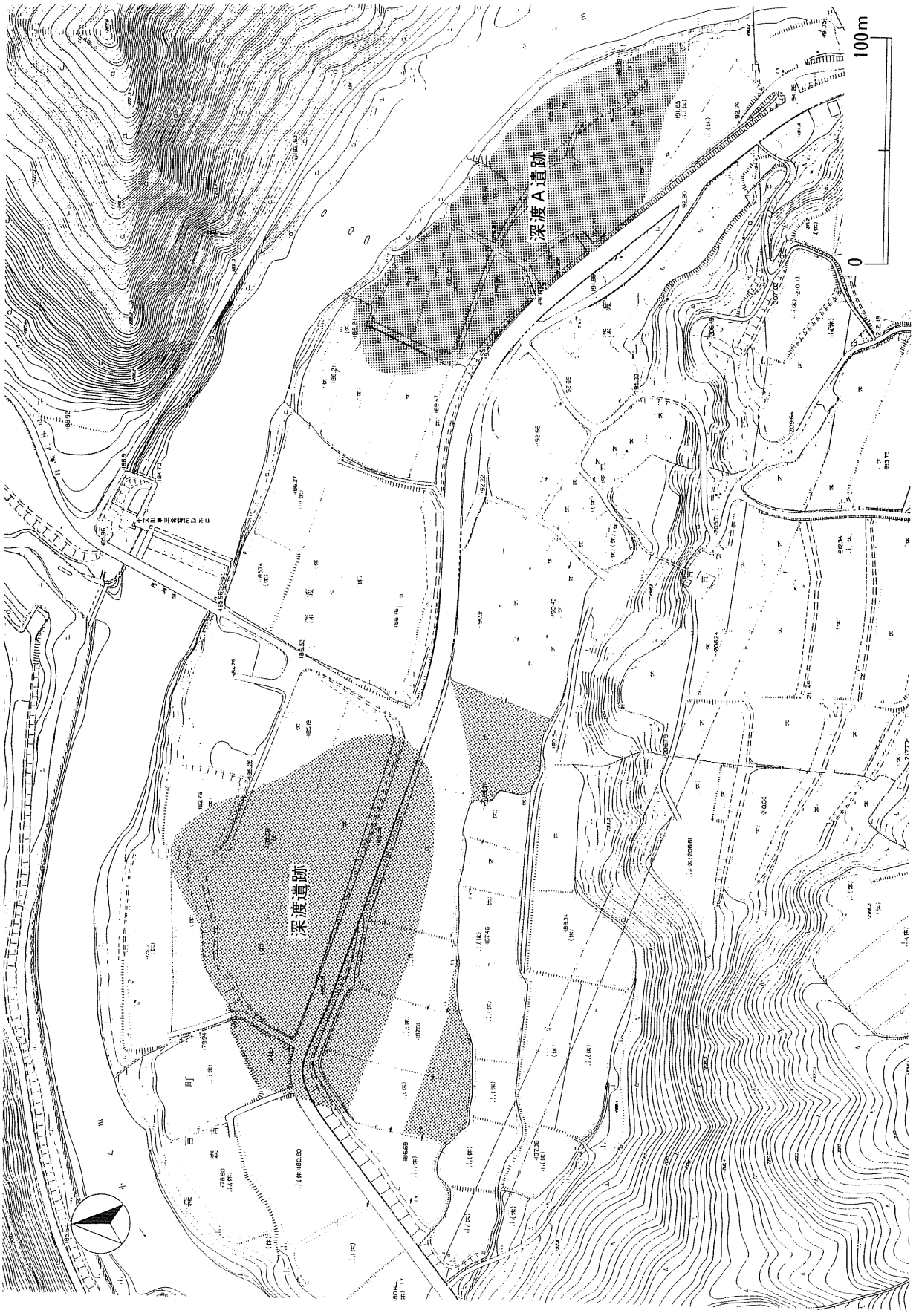
縄文時代後・晩期の土坑墓が予想されるが、遺物量は少ないと考えられる。トランシェ様石器の存在から、早期に関する遺構・遺物が検出される可能性もある。

９　その他

遺跡からは、近世以降の陶磁器も出土しているが、これに伴う遺構が検出されなかったため範囲図および結果図からは除いてある。



第22図　深渡・深渡Ａ遺跡範囲確認調査結果図



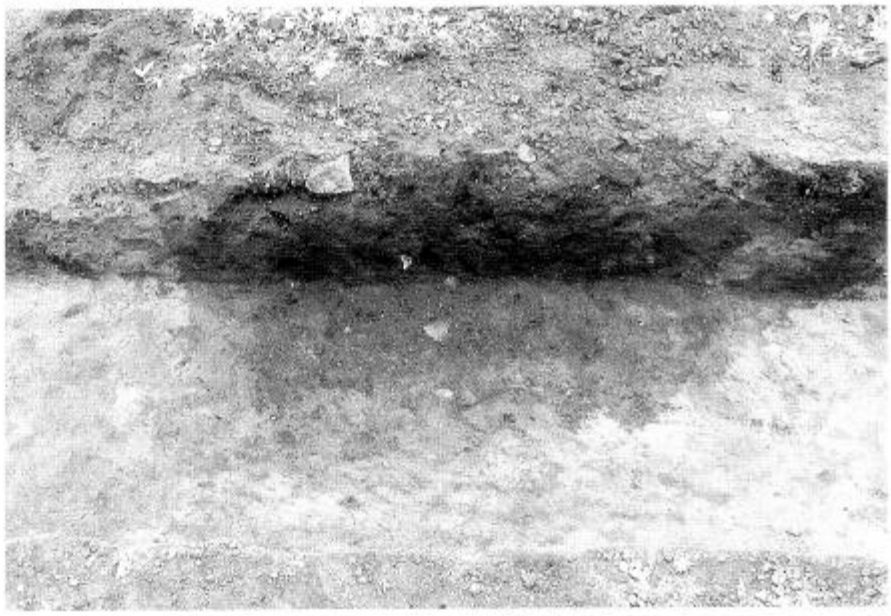
第23図　深渡・深渡Ａ遺跡範囲図

深渡遺跡
遠景(西から)

深渡遺跡
土器出土状況(南東から)

深渡遺跡
土器出土状況(北から)

深渡Ａ遺跡
遠景（東から）



深渡Ａ遺跡
土坑検出状況（西から）

深渡Ａ遺跡
土器埋設遺構検出状況
（南から）

（２）鷲ノ瀬遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字鷲ノ瀬80外

２　範囲確認調査期間　　平成９年７月14日～８月29日

３　範囲確認調査対象面積　　57,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　15,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、北東から南西に流れる小又川が直角に流路を変える右岸の河岸段丘上にあり、標高は161～165ｍである。北側には、県道比内森吉線が南東から北西に通じる。段丘面は南西方向に緩やかな傾斜を示し、その対岸は急峻な山塊で小又川の下刻作用で形成されたことが理解される。

②現況

遺跡はかつての水田で、大半は太い柳が密集し、部分的に笹や茅などの草木が生い茂っていた。平成10年度以降の調査対象区域になる遺跡の南側区域は、土盛りで厚く覆われ現在は荒地になっている。

６　範囲確認調査方法

雑木や雑草の伐採や草刈りを済ませ、水田の区画畦に沿わせて見通しによる測量を行った。次に、幅１ｍのトレンチを設定し重機を用いた掘削を行い、その後に壁面や地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。鷲ノ瀬地区の試掘面積は2,470㎡、調査対象面積の4.7％である。

７　範囲確認調査結果

①層序

遺跡の層序は、河川側に行くに従い旧河川の不整合によって新しい層が堆積する関係にある。遺跡北端の県道寄りでは、礫層までの深さは約2.5ｍでⅠ層表土を含む11層が確認できた。Ⅱ層は深さ30cm前後の褐色土で、縄文時代後期の土器が確認された。後期の土器は、遺跡の北東側を中心に広く出土する。遺跡の南西側では、Ⅰ層耕作土(20～30cm)、Ⅱ層黒褐色土(30cm前後)、Ⅲ層黄褐色砂質土(地山)となり、Ⅱ層では、縄文時代の遺構・遺物が確認される。

②検出遺構と出土遺物(第24図)

遺跡南西の縁辺には、縄文時代中期もしくは後期の竪穴住居跡２軒、土坑(フラスコ状土坑)７基が検出された。中央には土器埋設遺構１基が見つかり、その北東側では縄文時代後期の土器が数箇所でまとまって確認された。土器のまとまる箇所では、遺構を確認できなかったが、掘り込み面の存在する可能性がある。石器は住居跡付近で凹石が出土した他、石匙・スクレイパー・剝片がある。

８　所見

①遺跡の種類

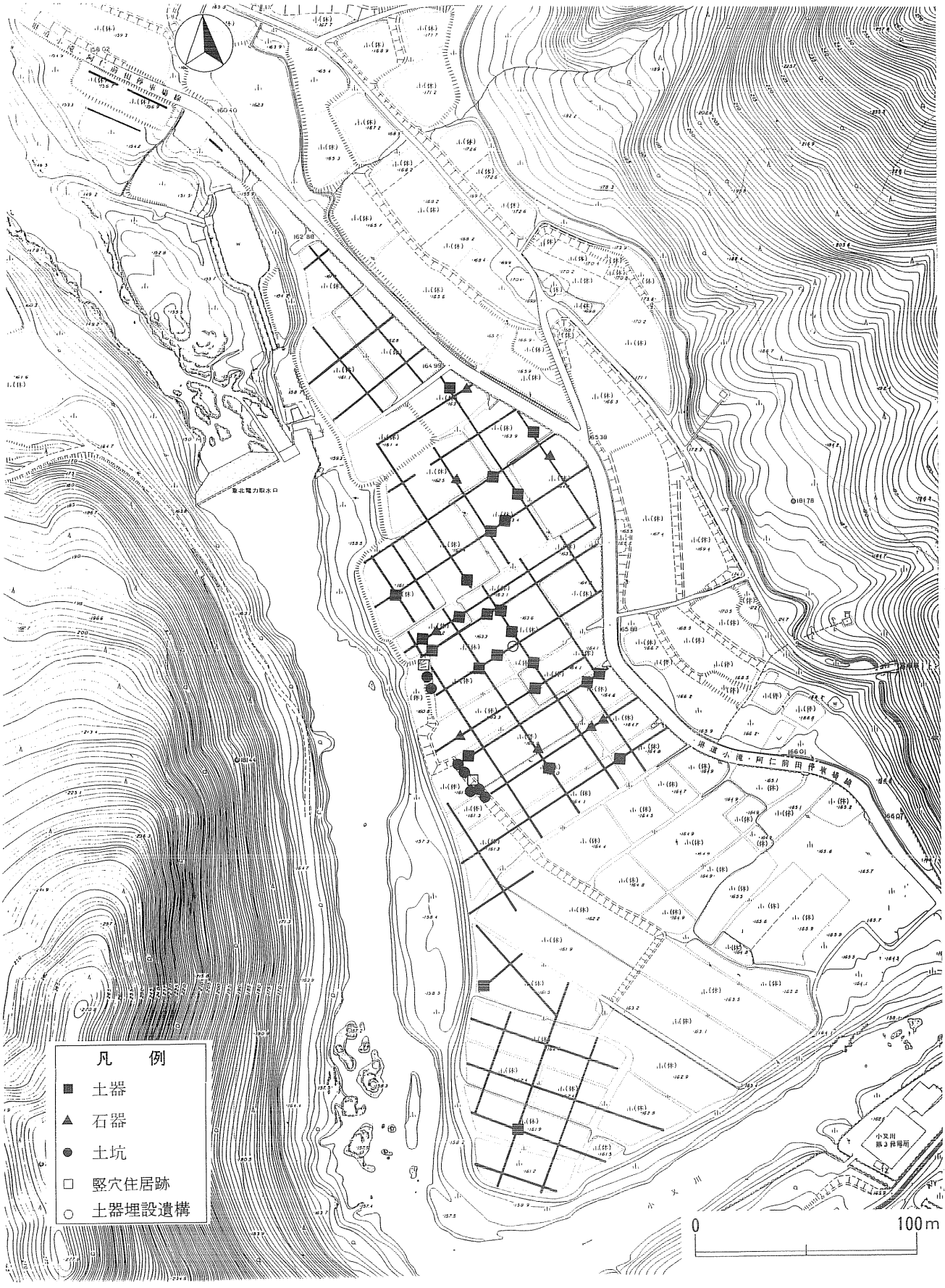
竪穴住居跡や土坑より、縄文時代後期を中心にした集落と考えられ、北東域では墓域が想定される。

②遺跡の範囲(第25図)

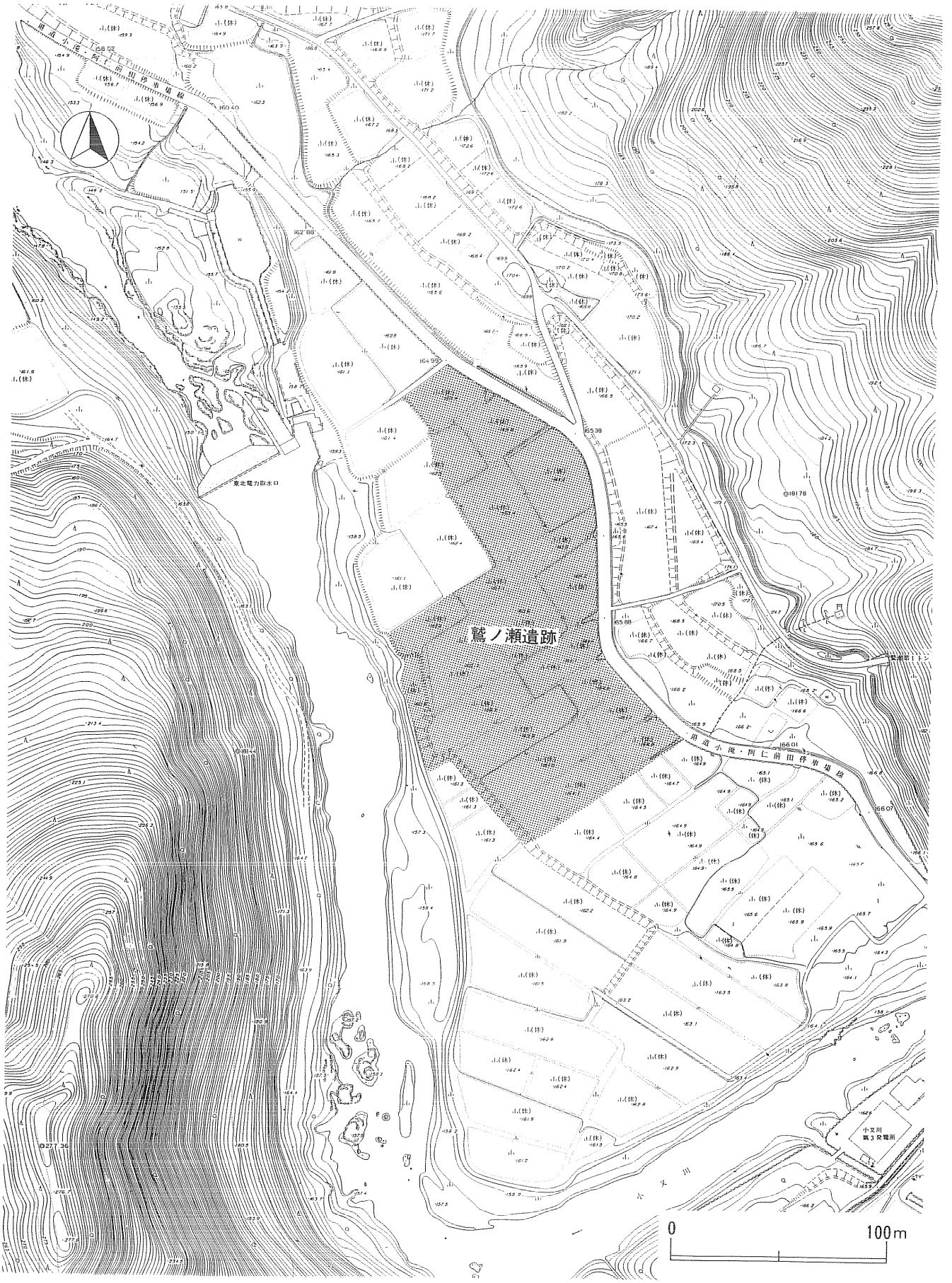
小又川と県道に挟まれ、比較的平坦な面が南北に続く範囲。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺跡の南西部には、縄文時代中期から後期の竪穴住居跡の存在が予想される他、フラスコ状土坑が密集している可能性が強い。また、北東部では縄文時代後期の土器が多量に出土するものと考えられる。



第24図　鷲ノ瀬遺跡範囲確認調査結果図

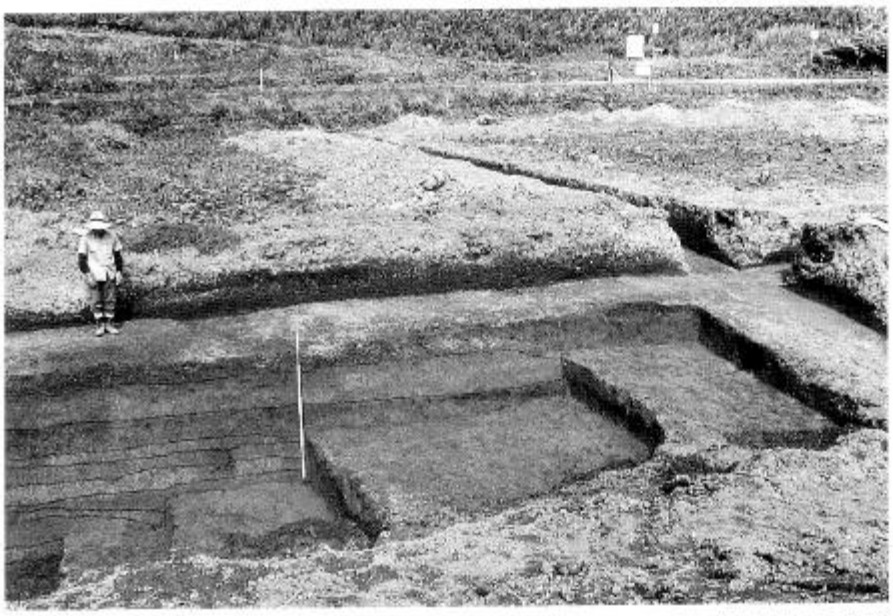


第25図　鷲ノ瀬遺跡範囲図

鷲ノ瀬遺跡
遠景（西から）

鷲ノ瀬遺跡
竪穴住居跡・土坑検出状況
（南から）

鷲ノ瀬遺跡
竪穴住居跡・土坑検出状況
（南東から）



鷲ノ瀬遺跡
土層断面(南東から)

鷲ノ瀬遺跡
遺物出土状況(西から)

鷲ノ瀬遺跡
遺物出土状況(南から)

（３）地蔵岱遺跡・地蔵岱Ａ遺跡

１　遺跡所在地

地蔵岱遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字地蔵岱74外
地蔵岱Ａ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字地蔵岱124外

２　範囲確認調査期間　平成９年９月１日～10月９日

３　範囲確認調査対象面積　98,000㎡

４　工事区域内遺跡面積

地蔵岱遺跡	21,000㎡
地蔵岱Ａ遺跡	3,700㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

地蔵岱遺跡と地蔵岱Ａ遺跡は、小又川が鷲ノ瀬地区から北上し、南に大きく蛇行して囲んだ所の河岸段丘上に立地している。半円状の段丘面は比較的平坦で広範囲に広がり、その北端より幅約３ｍの農道が南東方向に真直ぐ走っている。これに接して西側に地蔵岱遺跡が、東側の小又川沿いには地蔵岱Ａ遺跡がある。調査によって、平坦面の中央部は東西と比べて地山面が深く削平され、本来高い状態であったことが分かる。遺跡の高い所の標高は159ｍ、小又川との比高差は15ｍ前後である。遺跡の南側を除けば、小又川に沿って段丘崖を形成し、西側段丘崖と小又川との間に低い段丘面を作る。段丘面の北端部は、東西方向に通るジャンボリー道路建設事業に関わって平成８年度に森吉町教育委員会が発掘調査しており、縄文時代前期～晩期および平安時代にわたる複合遺跡であることが判明している。

②現況

遺跡はかつての水田で、中央の農道に沿って整然と区画されている。現状は茅や雑草が生い茂り、広範囲に径10㎝以上の柳や雑木が密集していた。遺跡外の南東山際は湿地で、斜面の水分が集まる地点と考えられる。段丘の北端部にはジャンボリー道路が通じている。

６　範囲確認調査方法

中央の農道より東側、次に西側へと調査を進めた。先に雑木の伐採や雑草の草刈りを済ませ、それらを重機によって搬出した。その後、農道や水田の畦に沿わせた見通しの測量を行い、重機を用いて幅約１ｍのトレンチの掘削を行った。そして、壁面や地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。地蔵岱地区の試掘面積は5,080㎡、調査対象面積の5.1％である。

７　範囲確認調査結果

Ａ：地蔵岱遺跡

①層序

遺跡は段丘の西側斜面に沿い、中央を北西－南東方向に走る畦の段で二分される。東側が高く西側では低い。東側の中央部は、Ⅰ層耕作土(20㎝)、Ⅱ層暗褐色土(５㎝)、Ⅲ層黒褐色土(30㎝)、この下が黄褐色土(地山)となる。北側ではⅢ層の下に褐色土が見られるが、Ⅲ層と地山土との間に見られる漸移層と考えられる。したがって漸移層をⅣ層に、地山土をⅤ層に考えておく。Ⅲ層では、縄文時代の遺物も含んだ平安時代の遺構や遺物が主に見つかっている。Ⅱ層は狭い範囲の広がりを持つ。東側から西側にかけては、削平が著しく耕作土の下がⅤ層になる。西側の中央部では、Ⅰ層耕作土(約20㎝)、Ⅲ層黒褐色土(10㎝)、Ⅳ層漸移層となる。ここでのⅠ層は、東側中央部のⅡ層に対応する。これより約20ｍ東ではⅢ層がなくなり、反対の約20ｍ

西側では厚さを増し20㎝を測る。

②検出遺構と出土遺物(第26図)

遺跡からは、全面的に遺構・遺物が出土している。遺構は、竪穴住居跡14軒、土坑20基、焼土遺構４基、溝跡16条である。遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・羽口・鉄滓が出土している。竪穴住居跡は、１軒が縄文時代中期もしくは後期と考えられ、13軒が平安時代である。前者は遺跡の北端にあり、その約30ｍ北にある捨場(森吉町教委調査)に近い。後者は全面的にあり、特に西側に集中している。土坑や焼土遺構は、これら平安時代の竪穴住居跡に付随するものが殆どであろう。溝跡のうち、幅約1.5～２ｍのものは４条確認できたが、遺物や土層などから平安時代の集落に伴うと判断される。縄文土器は中期と後期のもので、石器とともに量的には少ない。土師器は全面に出土しているが、須恵器は僅かである。

Ｂ：地蔵岱Ａ遺跡

①層序

遺跡は段丘の東端に細長く存在する。この中央では、Ⅰ層耕作土(約20㎝)、Ⅱ層黒褐色土(10㎝)、Ⅲ層暗褐色土(15㎝)、Ⅳ層褐色土－漸移土である。この北端側には砂質の地山土があり、反対の南側には黄褐色の地山土が見られる。

②検出遺構と出土遺物(第26図)

遺跡からは、縄文時代と考えられる土坑２基と焼土遺構１基を確認している。遺物は少なく、遺跡全体にまばらに点在する。隣接する地蔵岱遺跡の調査結果より、縄文時代でも中期か後期の時期と考えられる。

８　所見

Ａ：地蔵岱遺跡

①遺跡の種類

平安時代のまとまった集落である。遺跡から羽口・鉄滓が出土していること、森吉町教育委員会の段丘北端の調査で鉄滓の捨場が見つかっていることから、規模の大きい工房址を伴う可能性がある。さらに、縄文時代では、捨場の存在から中期・後期の集落も予想される。

②遺跡の範囲(第27図)

広大な河岸段丘の西側半分のうち、南側の斜面裾部付近を除いた範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

平安時代では50軒以上の、縄文時代でも10軒程度の竪穴住居跡が予想される。また、平安時代の工房址に伴う鍛冶遺構、縄文時代中期から後期の土坑等が多く見つかると考えられる。遺物では、縄文時代の土器・石器の他、多量の土師器や鉄滓が検出され、須恵器や鉄製品も比較的多く出土すると考えられる。

Ｂ：地蔵岱Ａ遺跡

①遺跡の種類

近接している地蔵岱遺跡と関連し、その縄文時代集落の一部を構成する可能性がある。

②遺跡の範囲(第27図)

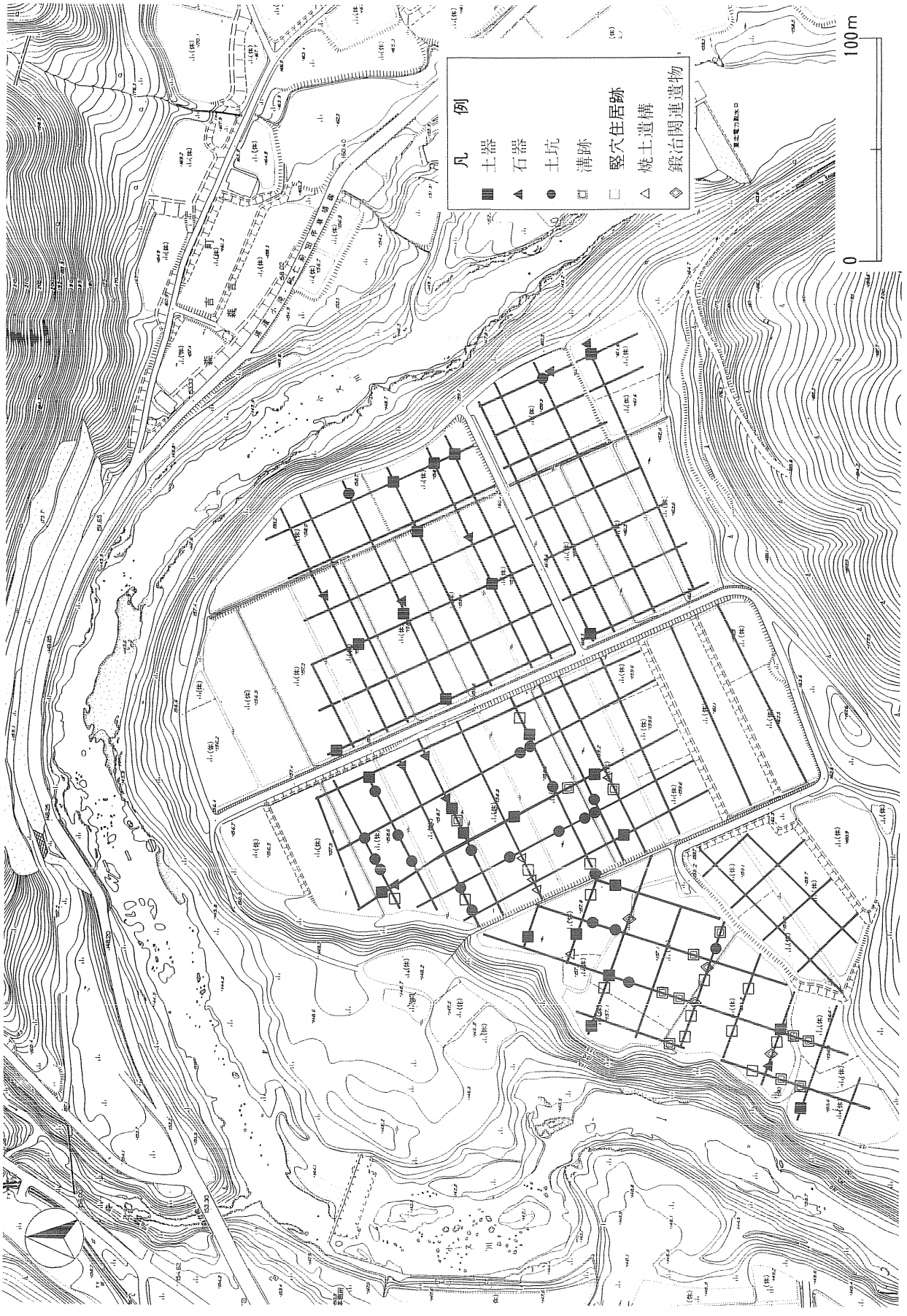
段丘の小又川沿いで、非常に細長い範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

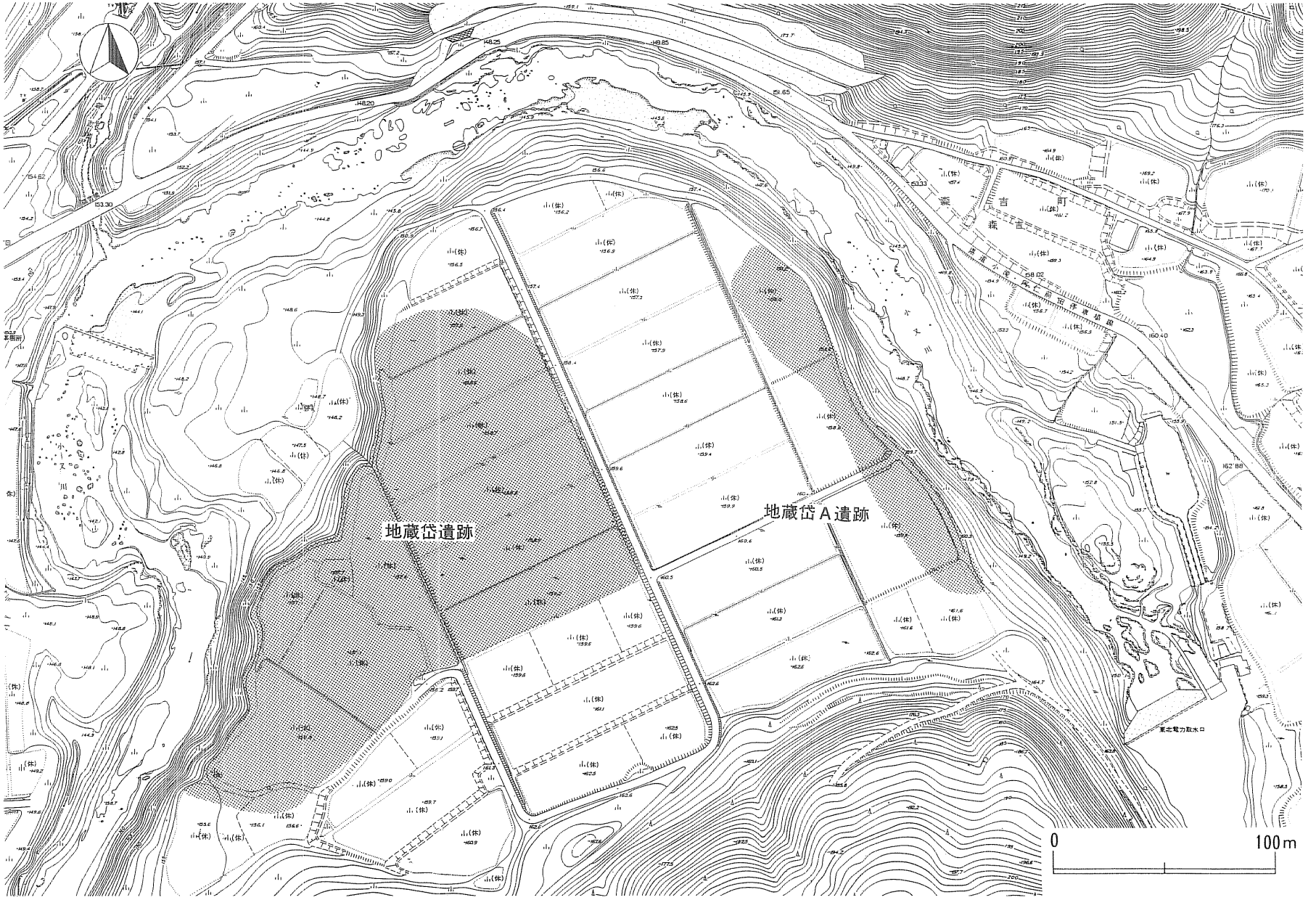
数基の土坑や焼土遺構が検出されると考えられる。

９　その他

近世以降の遺物も僅かに認められたが、遺構はなく結果図からは除いてある。

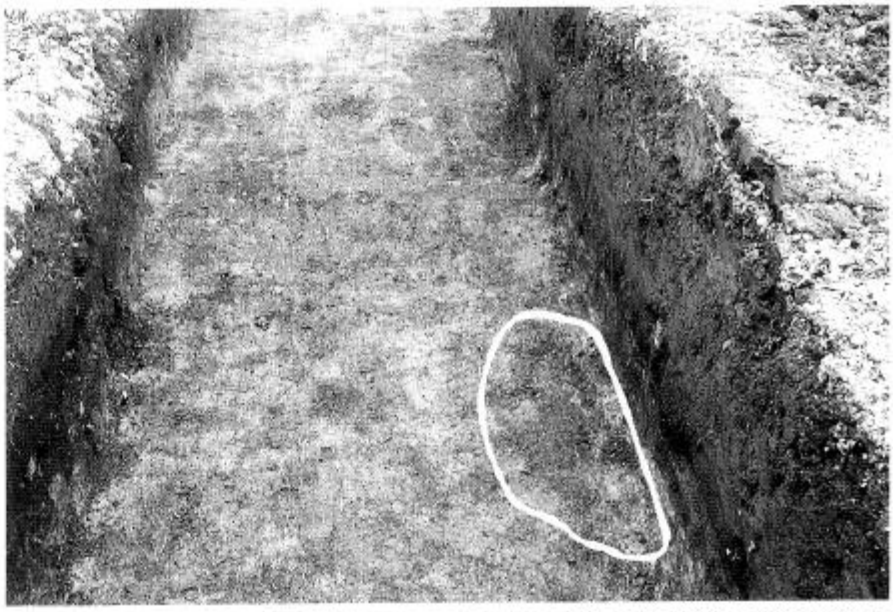


第26図　地蔵岱・地蔵岱Ａ遺跡範囲確認調査結果図



第27図　地蔵岱・地蔵岱Ａ遺跡範囲図

地蔵岱遺跡
近景(東から)



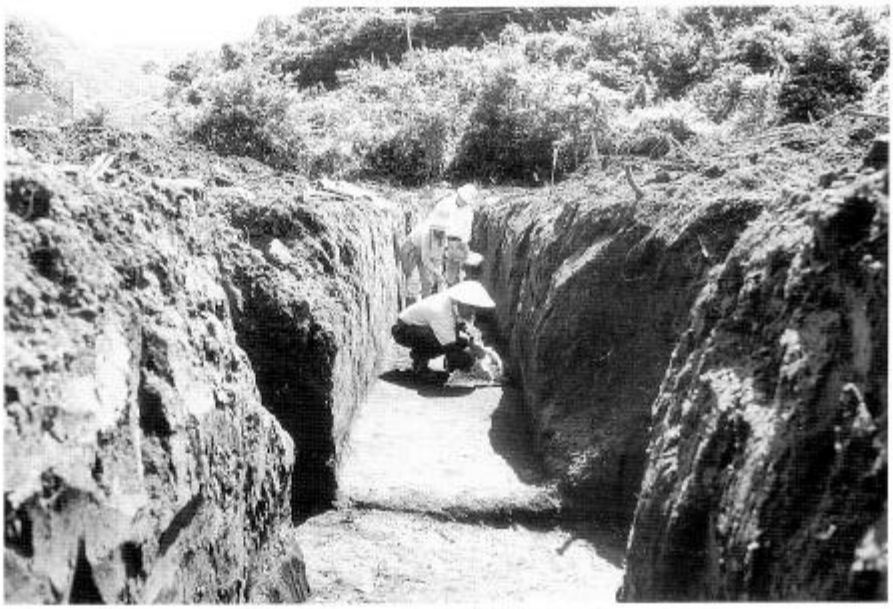
地蔵岱遺跡
焼土遺構検出状況
(南東から)

地蔵岱遺跡
竪穴住居跡検出状況
(南東から)

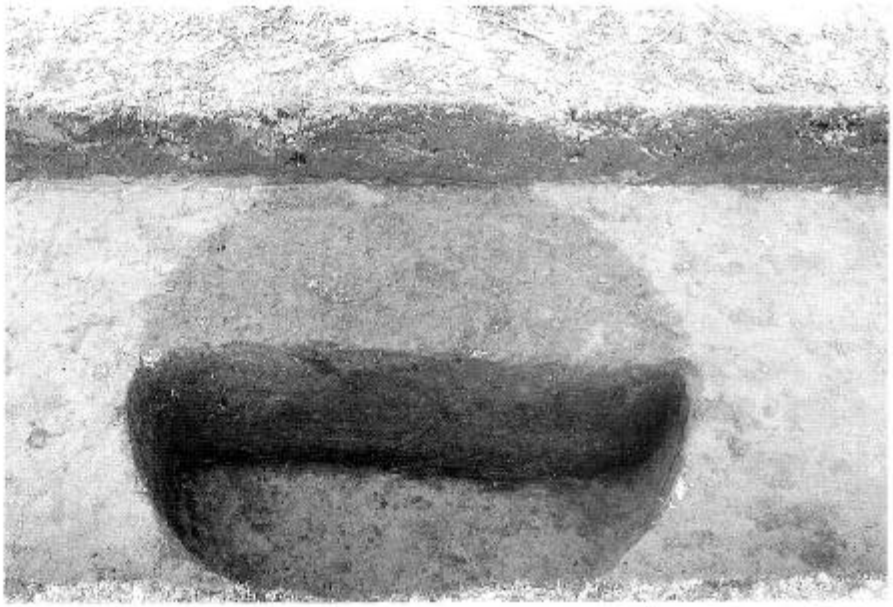
地蔵岱遺跡
近景（北東から）

地蔵岱遺跡
遺物出土状況（東から）

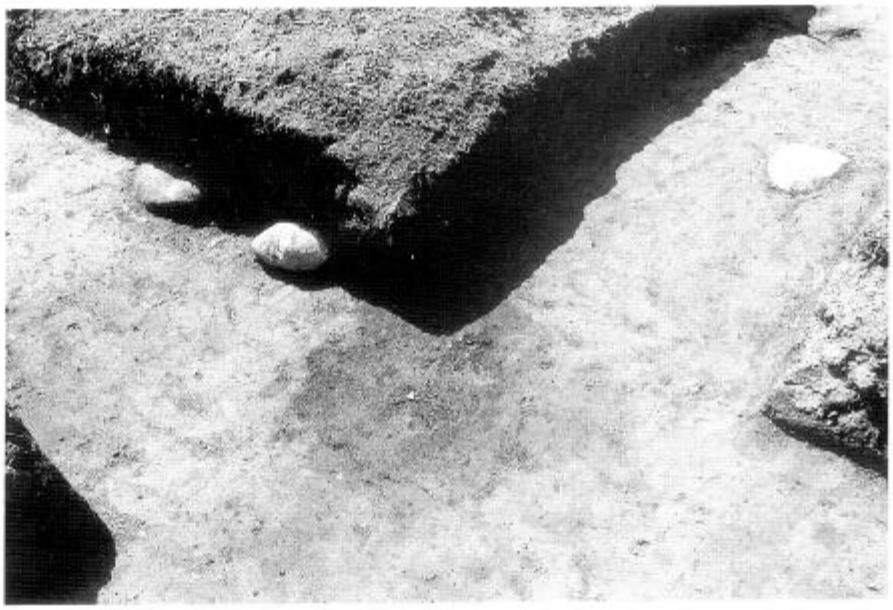
地蔵岱遺跡
焼土遺構検出状況
（北西から）



地蔵岱Ａ遺跡
作業風景（西から）



地蔵岱Ａ遺跡
土坑検出状況（東から）



地蔵岱Ａ遺跡
土坑検出状況（北西から）

（４）惣瀬遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字惣瀬86外

２　範囲確認調査期間　　平成９年９月16日～10月９日

３　範囲確認調査対象面積　　52,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　7,800㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

南西方向に流れる小又川と、それに惣瀬沢が直交する部分には、小又川に沿って尾根状地形が発達している。尾根に沿う細長い遺跡は、比高差約１ｍ前後の水田区画によって３つに区分された標高158～161ｍの平坦面に位置している。遺跡に立つと、西に小又川が、南には惣瀬沢が眼下に見える。

②現況

遺跡は、旧水田で北東から南西にかけての棚田であったが、北東側に工事用道路が通じ一部で分断されている。道路の両側は荒地で、それ以外では雑木が生い茂っていた。北西と南東斜面には、水田の造成時に盛られた土が厚く堆積している。南東斜面を僅かに下がった平坦部はかつての宅地だった所で、そのために沢の一部がすでに埋められていた。

６　範囲確認調査方法

遺跡には雑草と雑木が茂り、それらの伐採から始める。尾根状地形に沿って中央に基本ラインを作り、それに20ｍで直交する見通しの測量を行う。それらに沿って幅１ｍのトレンチを入れ、手掘りの粗掘りを行った。次に、壁面や地山面を精査して、遺構や遺物の有無を確認した。南東斜面の沢や宅地化された区域では、重機を用いて対応している。惣瀬地区の試掘面積は1,750㎡、調査対象面積の3.3％である。

７　範囲確認調査結果

①層序

尾根状地形の中軸線とその両側は、最も削平を強く受けた部分である。そのために、遺跡の大半は20～30cmの耕作土や盛土を除くと地山面になる。北西と南東側の斜面は盛土で埋められており、その下に黒褐色土－褐色土－地山の堆積層がある。平坦面の外側縁辺ほど層厚が増し、その端では現地表面より１ｍ以上の深さがある。黒褐色土中に縄文土器の包含層がある。

②検出遺構と出土遺物（第28図）

尾根状地形の南西端に、平安時代の竪穴住居跡１軒を検出した。その隣接地と遺跡の中央部からは時期不明の土坑３基が見つかっている。遺跡中央の南東斜面で、縄文後期の土器がややまとまって出土した。

８　所見

①遺跡の種類

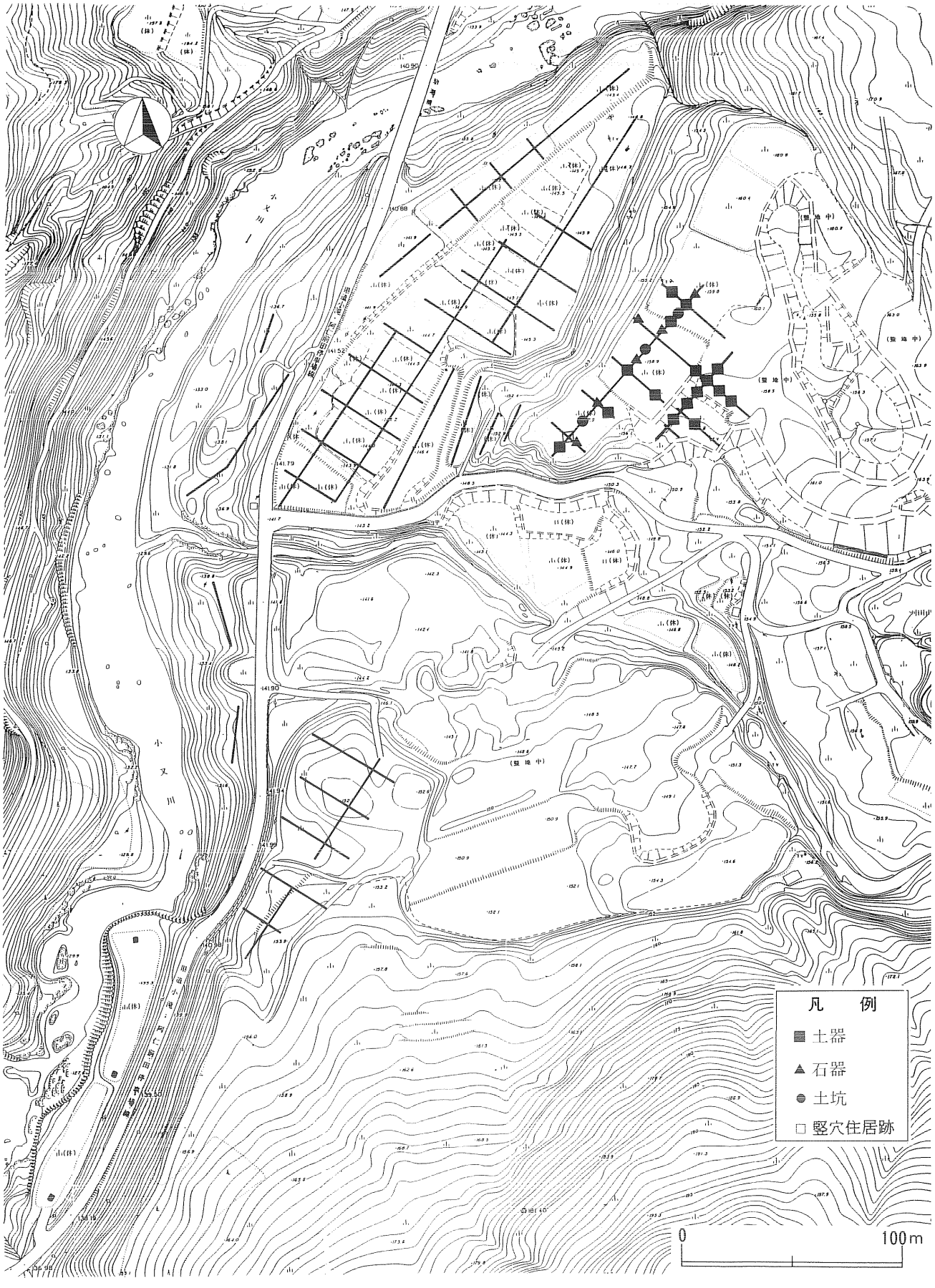
平安時代の集落と考えられるが、痩せ尾根状の地形からみて小規模である。

②遺跡の範囲（第29図）

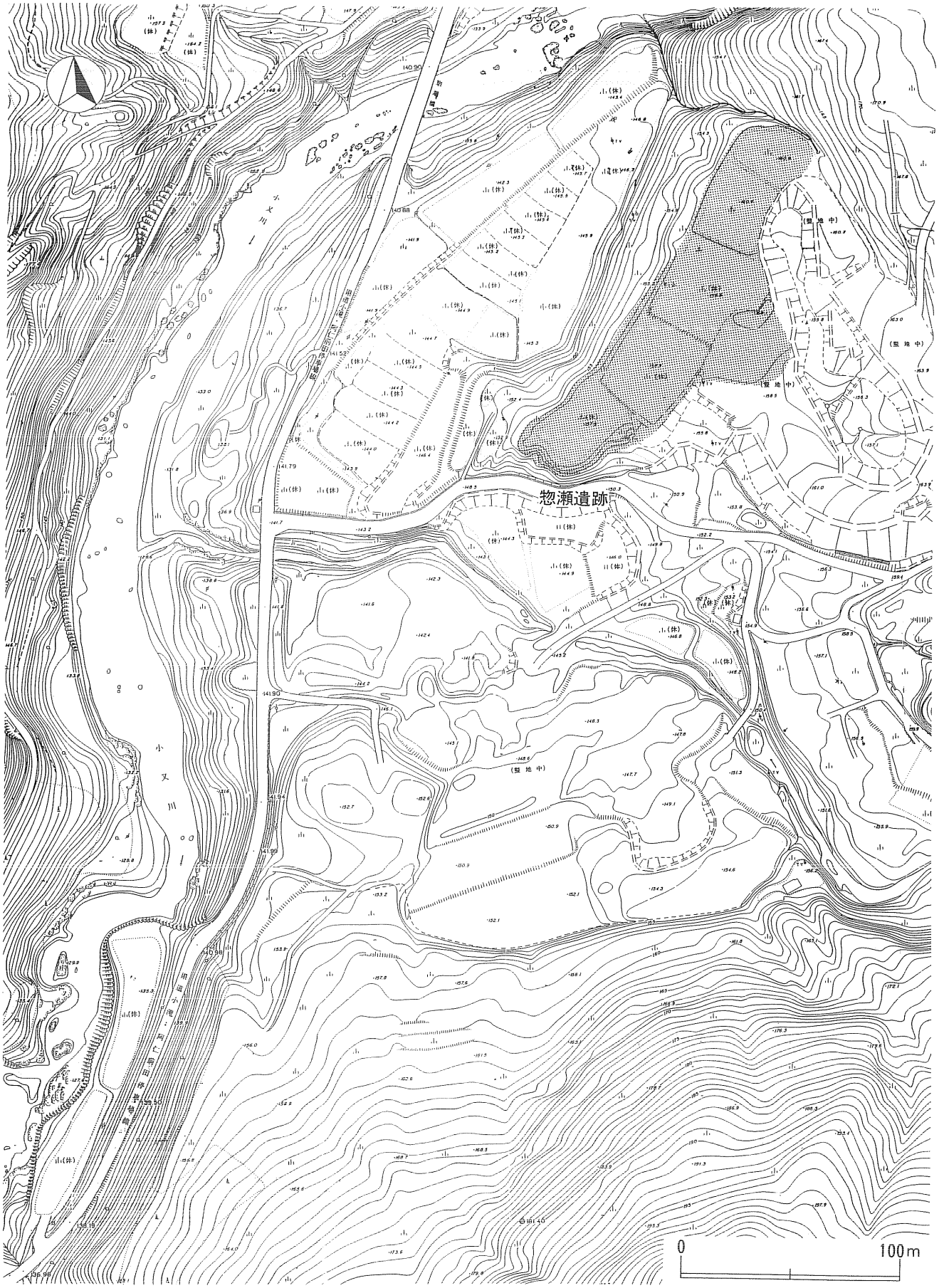
工事用道路より北東側は、当初対象外だったのでトレンチを入れていない。後に対象区が拡大することとなり、調査区も含め尾根状地形の平坦部として範囲を括っている。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構・遺物は少ないが、斜面の深い所から縄文時代後期の土器がまとまって出土するものと予想される。

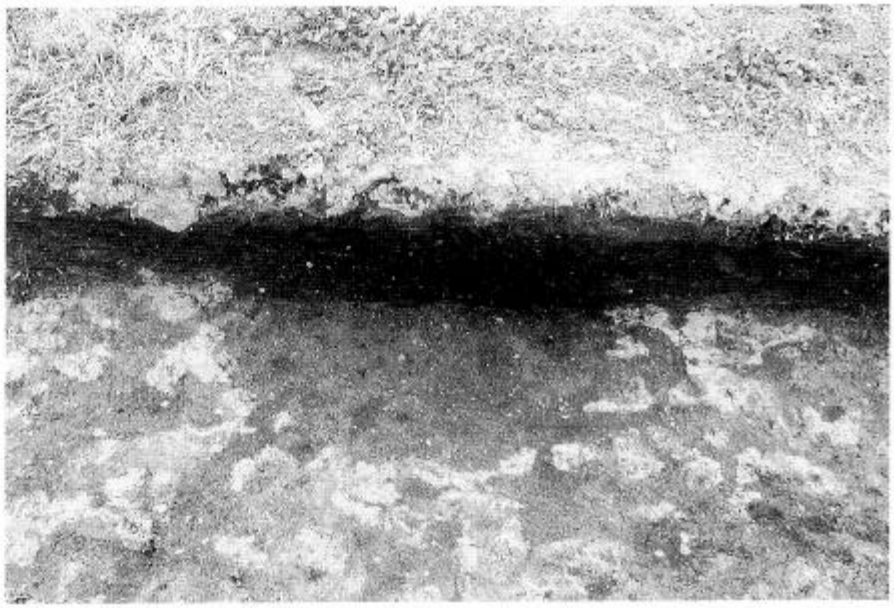


第28図　惣瀬遺跡範囲確認調査結果図



第29図　惣瀬遺跡範囲図

惣瀬遺跡
遠景（東から）



惣瀬遺跡
土坑検出状況（東から）

惣瀬遺跡
竪穴住居跡検出状況
（西から）

２　日本海沿岸東北自動車道建設事業琴丘地区

（１）兵ヶ沢遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字兵ヶ沢48外

２　範囲確認調査期間　　平成９年11月10日～11月27日

３　範囲確認調査対象面積　　24,100㎡

４　工事区域内遺跡面積　　10,500㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡のある琴丘町は、八郎潟残存湖の東岸および北東岸にあたり、出羽丘陵の北西辺に位置する。沖積平野は、八郎潟残存湖に沿って琴丘町西端部を南北方向に広がるものの極めて狭小である。西流していた旧来の沢の多くは水田化され、一部は堤・じゅんさい沼として残っている。

兵ヶ沢遺跡は、琴丘町の中央西寄り、町役場から南方約２㎞の地点に位置し、八郎潟湖岸平野に向かって舌状に張り出した標高15～20ｍの台地上に立地する。

なお、水田(旧沢地)をはさんで北側には狐森遺跡が立地し、その間の距離はおよそ150ｍである。

②現況

範囲確認調査対象区のほぼ中央で町道が交差しており、その北側が畑地、南側が水田となっている。畑地には南西部に２つの沼沢地(渇水時には荒蕪地となる)、西部に栗林がある。沼沢地はいずれも自然の沢を利用した堤として昭和30年代に築造されたものである。

６　範囲確認調査方法

地形を考慮してトレンチを設定し、南側水田は重機で表土を除去した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。北側畑地については、人力で表土除去後、遺構確認面・地山面の精査をおこなった。沼沢地は調査時には湿地になっており、人力で中央部を掘り下げた。

なお、北側畑地部分のうち№６・№７および№９トレンチに囲まれた未買収地については、範囲確認調査をおこなっていない。

範囲確認調査におけるトレンチ総延長は1,234ｍ、試掘面積は2,668㎡で範囲確認調査対象面積の11.1％にあたる。

７　範囲確認調査結果

①層序　－（　）内の数字は層厚－

北側畑地部分の北部(№３トレンチ)の層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層：耕作土(20～25cm)

第Ⅱ層：黒褐色土(５～10cm)　　遺物包含層

第Ⅲ層：黄褐色土〈地山〉　　遺構確認面

なお、№４トレンチでは耕作土の下25cm、№７トレンチでは耕作土の下10～15cmで地山面となる。したがって、№４トレンチより南側では包含層の存在が希薄である。

沼沢地の層序は、第Ⅰ層が灰白色粘土(30cm)、第Ⅱ層が黒褐色土(20cm)、第Ⅲ層が黄褐色土であり、第Ⅲ層が地山層となる。

南側水田部分中央部の層序は、第Ⅰ層が耕作土(20～30cm)、第Ⅱ層が褐色土(50～60cm)、第Ⅲ層がオリーブ褐色土(地山層)である。水田部分ではその全域で地山土が削平され、第Ⅱ層にあたる褐色土は水田造成の

際に対象区東方の鹿渡丘陵地の土を客土したものである。

②検出遺構と出土遺物(第31図)

検出した遺構は竪穴住居跡１軒、土坑５基、陥し穴１基、柱穴４基である。南側の水田部分と沼沢地からは遺構は検出されなかった。これらの遺構は、№.９トレンチから土坑１基、№.23トレンチから溝跡が検出されたほかはすべて№.３トレンチ以北に分布している。

出土遺物は、土器では縄文時代前期前葉のものが多く、№.１・№.11および№.18トレンチから出土しており、縄文時代中期後葉の土器片が№.２・№.12・№.18トレンチからわずかに出土している。出土地点はすべて、№.３トレンチ以北である。

石器も№.３トレンチ以北から多く出土したが、№.５・№.６・№.７・№.15・№.19・№.20・№.24・№.28トレンチなどからも出土しており、出土地点は沼沢地より北の畑地部分のほぼ全域にわたっている。水田、沼沢地およびその南側の畑地からは遺物は出土しなかった。出土した石器はその多くが剝片であるが、二次加工がなされているものもある。ほかに石匙・石錘・凹石・磨石・スクレイパーがあり、石剣の一部と思われる破片も１点出土している。

縄文時代以降の遺物としては江戸時代のものと考えられる陶器が１点出土している。

なお、№.２トレンチおよび№.３トレンチが№.13トレンチと交差する地点で地山(ローム層)から剝片が出土したため、畑地部分の29箇所の深掘りを行い、さらに地山からの石器出土地点２箇所については４ｍ四方のグリッドに拡張し、地山よりさらに50～60cm掘り下げた。しかし、全く遺物の出土がみられなかったため、工事区域には旧石器時代の遺構・遺物の存在はないものと判断した。

８　所見

①遺跡の種類

縄文時代前期・中期の集落跡である。

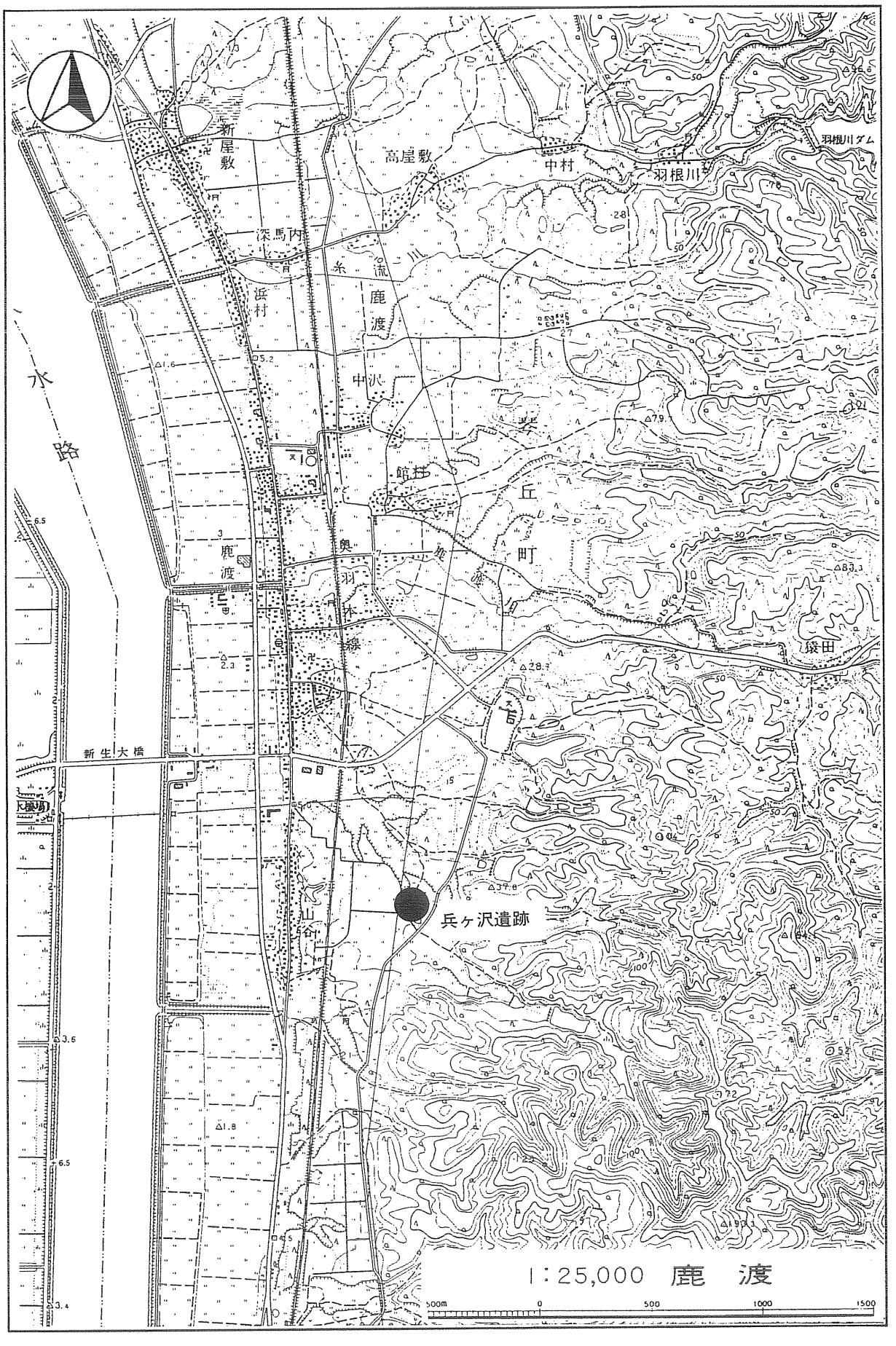
②遺跡の範囲と工事区域(第32図)

兵ヶ沢遺跡の範囲は、北側の水田に面した標高16～18ｍの台地先端部に広がっているものと考えられる。このうち工事区域内における発掘調査の必要な範囲は、遺跡全体のほぼ中央部に位置するものと考えられる。

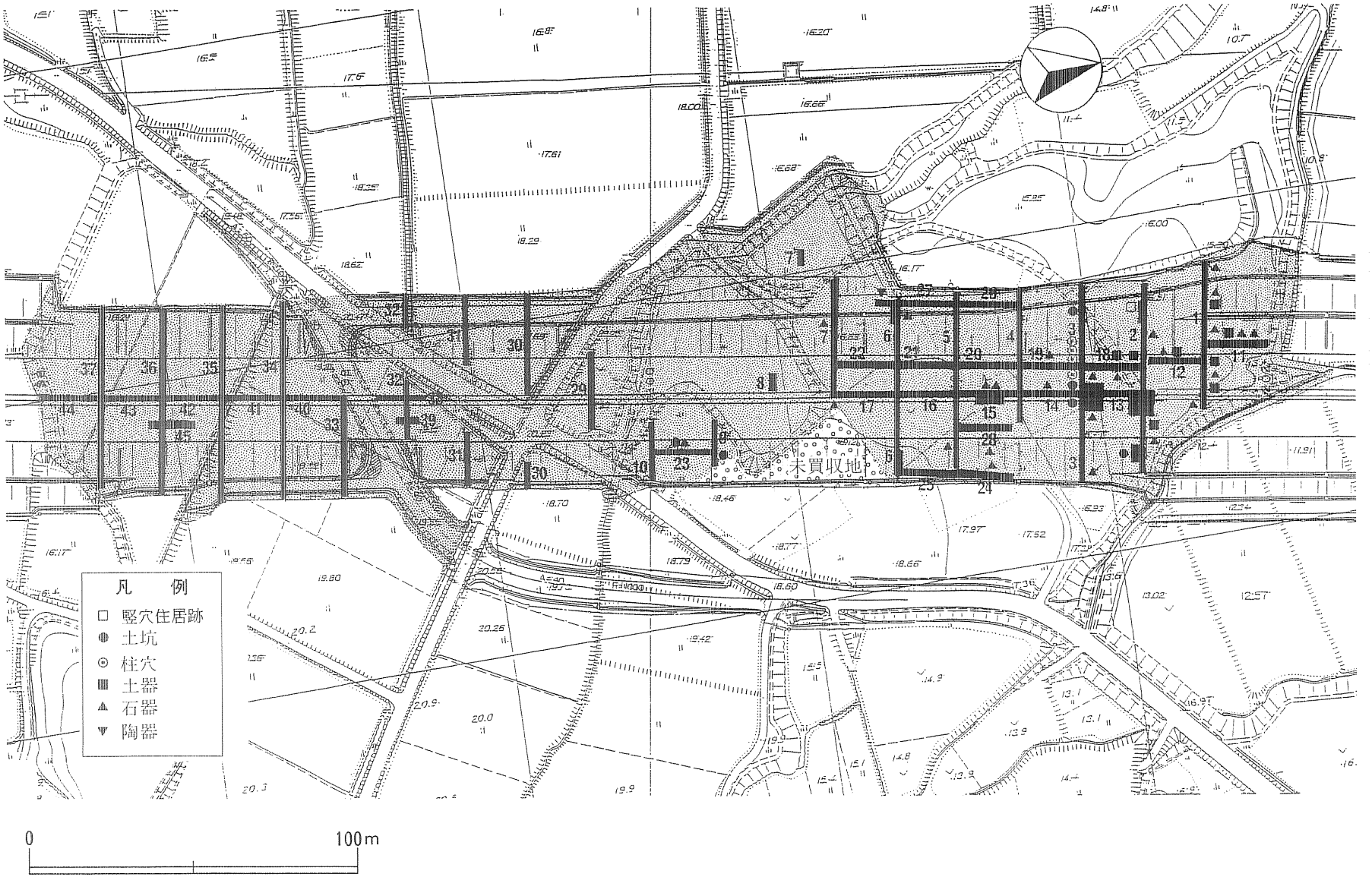
今回の範囲確認調査では、南側水田と沼沢地の全域、および北側畑地のうち沼沢地より南側の区域からは遺構の検出と遺物の出土がなかったため、遺跡範囲から除外した。したがって、工事区域内遺跡範囲は範囲確認調査対象区北側の畑地の大部分に相当する。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

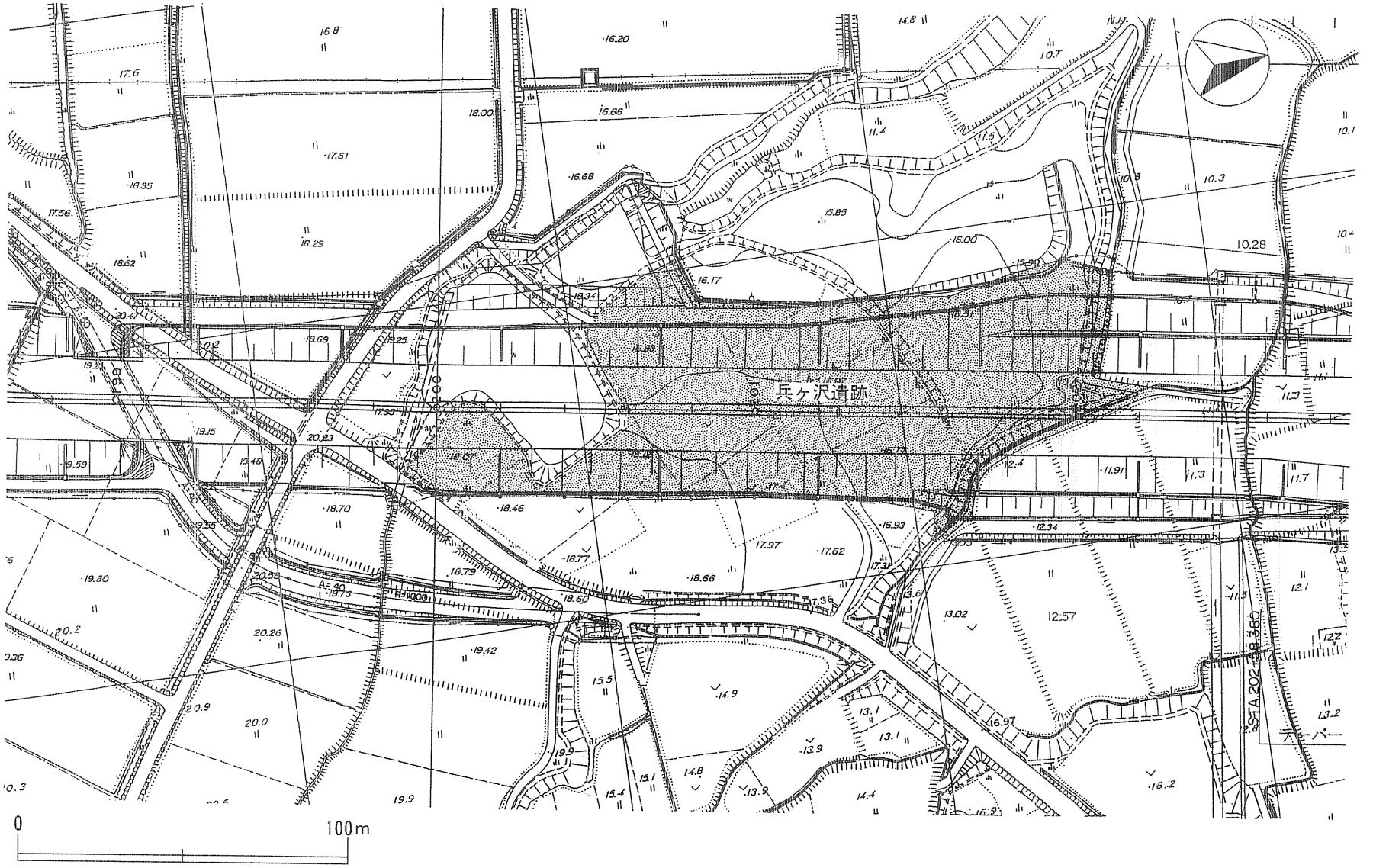
遺構は№.３トレンチよりも北側の部分および遺跡南東端の№.９トレンチ周辺に偏在していると思われ、中央部は遺物の出土はあっても遺構密度はかなり希薄と思われる。遺物は畑地の北側を中心にまとまった量が出土するものと予想される。



第30図　兵ヶ沢遺跡位置図

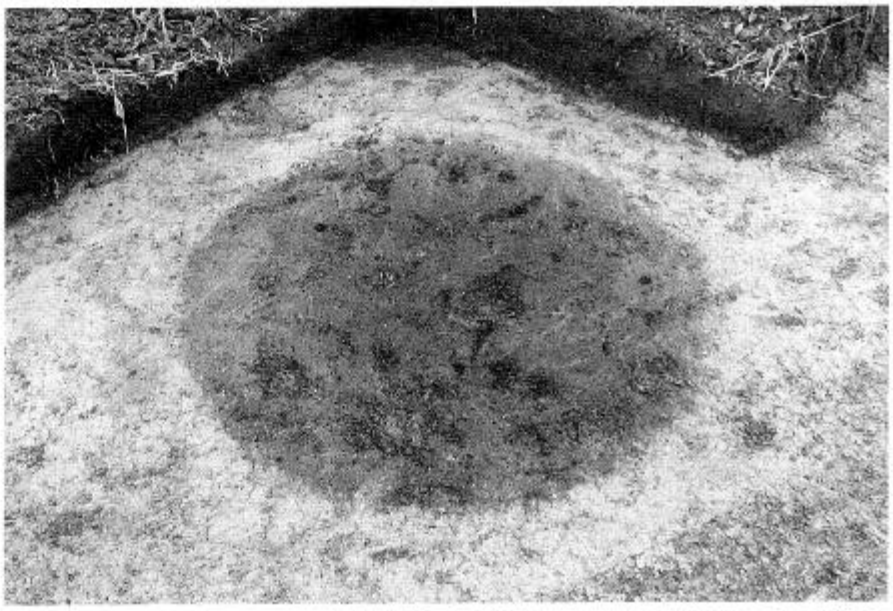


第31図　兵ヶ沢遺跡範囲確認調査結果図

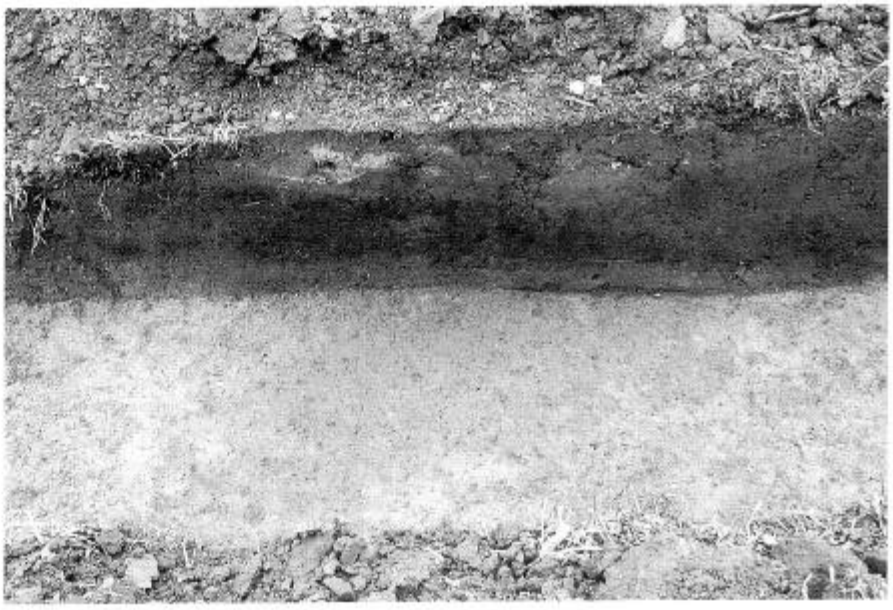


第32図　兵ヶ沢遺跡範囲図

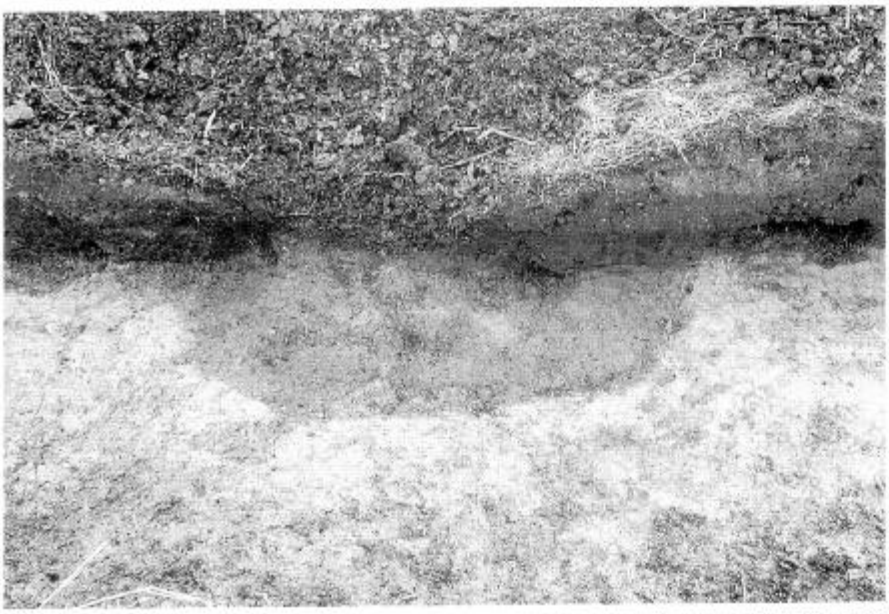
兵ヶ沢遺跡
調査状況
（No. 4 トレンチ付近）



兵ヶ沢遺跡
畑地北部No. 2 トレンチ
土坑検出状況



兵ヶ沢遺跡
畑地北部No. 3 トレンチ
土坑検出状況



兵ヶ沢遺跡
畑地北部No.3トレンチ
土坑検出状況

兵ヶ沢遺跡
畑地北部No.11トレンチ
深掘り状況

兵ヶ沢遺跡
畑地南東端No.9トレンチ
土坑検出状況

３　日本海沿岸東北自動車道建設事業河辺地区

（１）松木台Ⅲ遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県河辺郡河辺町松渕字松木台56-1外

２　範囲確認調査期間　　平成９年５月12日～７月10日

３　範囲確認調査対象面積　　66,500㎡

４　工事区域内遺跡面積　　10,850㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

松木台Ⅲ遺跡は、ＪＲ奥羽本線和田駅の南西方向1.5kmに位置する。岩見川の左岸には、東から南台・七曲台・井戸尻台・上野台と呼ばれる標高37～40mの河岸段丘が形成されている。本遺跡は、このうち七曲台の北西側縁辺部に立地しており、標高は約38mである。また、北側の崖下約27mには岩見川が西流する。遺跡中央やや北寄りに、西－東方向の小沢が入り込んでいる。

②現況

遺跡の現況は、大半が杉林となっており、一部松等の苗圃、リンゴの果樹園や畑地として利用されている。また、遺跡の中央やや東寄りを東北横断自動車道秋田線が、北西－南東方向に伸びている。

６　調査の方法

遺跡中央やや北寄りの西－東方向の小沢を境に、北をＡ区、南をＢ区とした。トレンチは、地形を考慮して８～10m間隔に設定した。その後重機による表土除去を行い、遺構確認面もしくは地山面を精査して、遺構・遺物の有無を確認し記録した。なお、昭和60年の東北横断自動車道秋田線建設に伴う緊急発掘調査の時に、旧石器時代の遺物が出土している。そのため各トレンチの２～３箇所を坪掘りして、地山上面からさらに50cm～60cm程掘り下げた。試掘した調査面積は6,500㎡で、対象面積の約10％である。

７　範囲確認調査の結果

①層序

杉林全域では、北側より南側の方が地山面まで若干深くなっているものの、地形的に大きな変化はなく、層序は以下のようになっている。

Ⅰ層：表土・黒褐色土(10～20cm)、Ⅱ層：黒褐色土(15～25cm)、Ⅲ層：地山漸移層・暗褐色土(15～20cm)、Ⅳ層：地山・黄褐色土

町道戸島・七曲線の北側の畑地は、耕作により攪乱されており、耕作土下のⅡ層・Ⅲ層がなく、地山までの深さは約50cmである。

松等の苗圃も、幾度となく植林・掘り起こしが繰り返され、Ⅰ層・Ⅱ層・Ⅲ層はもとより、地山までも攪乱を受けている。

②検出遺構と出土遺物(第34図)

遺構は竪穴住居跡５軒、土坑24基、焼土遺構３基、陥し穴３基、土器埋設遺構１基、溝跡１条を検出した。遺物は縄文時代中期後葉及び晩期の土器や石器、平安時代の土師器坏などが、合わせて中コンテナで35箱出土した。

8　所見

①遺跡の種類

検出遺構と出土遺物から、縄文時代中期後葉から末葉の集落跡、縄文時代晩期の墓域及び、平安時代の集落跡からなる複合遺跡と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域（第35図）

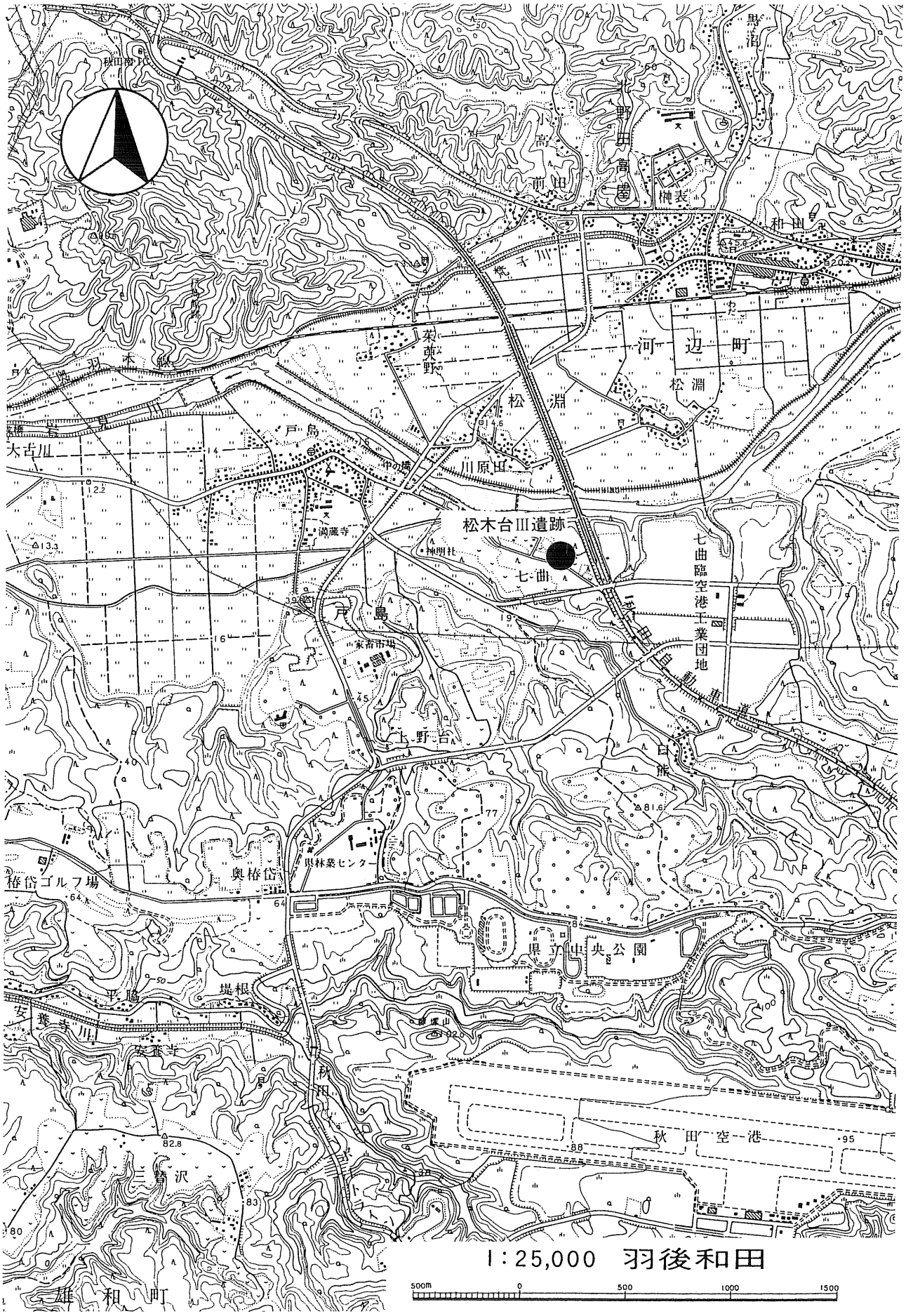
遺跡範囲は台地の全体に広がるものと思われる。この遺跡範囲のうち工事区域は、遺跡の西側を東西に横断し、東北横断自動車道秋田線と遺跡中央やや東側で接続する。工事区域内遺跡範囲はそのうち、接続地点北側半分にあたる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

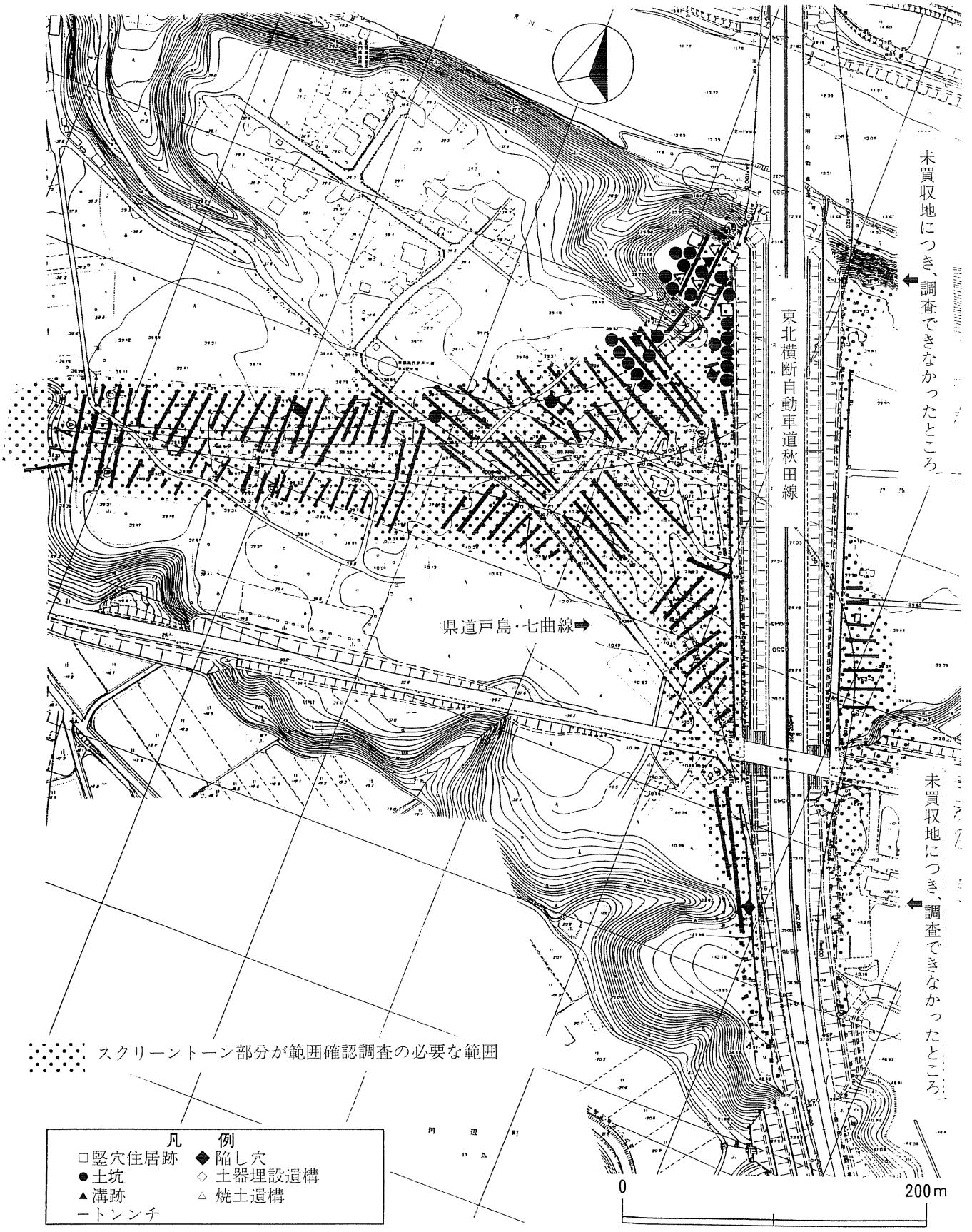
遺構では縄文時代中期後葉の竪穴住居跡、縄文時代晩期の土坑墓、及び平安時代の竪穴住居跡や土坑が検出されるものと予想される。遺物では当該期の土器・石器などが、Ａ区とＢ区を分けている小沢に近い北側に集中して出土するものと予想される。なお、南側は遺構・遺物が散在する程度であると思われる。

9　その他

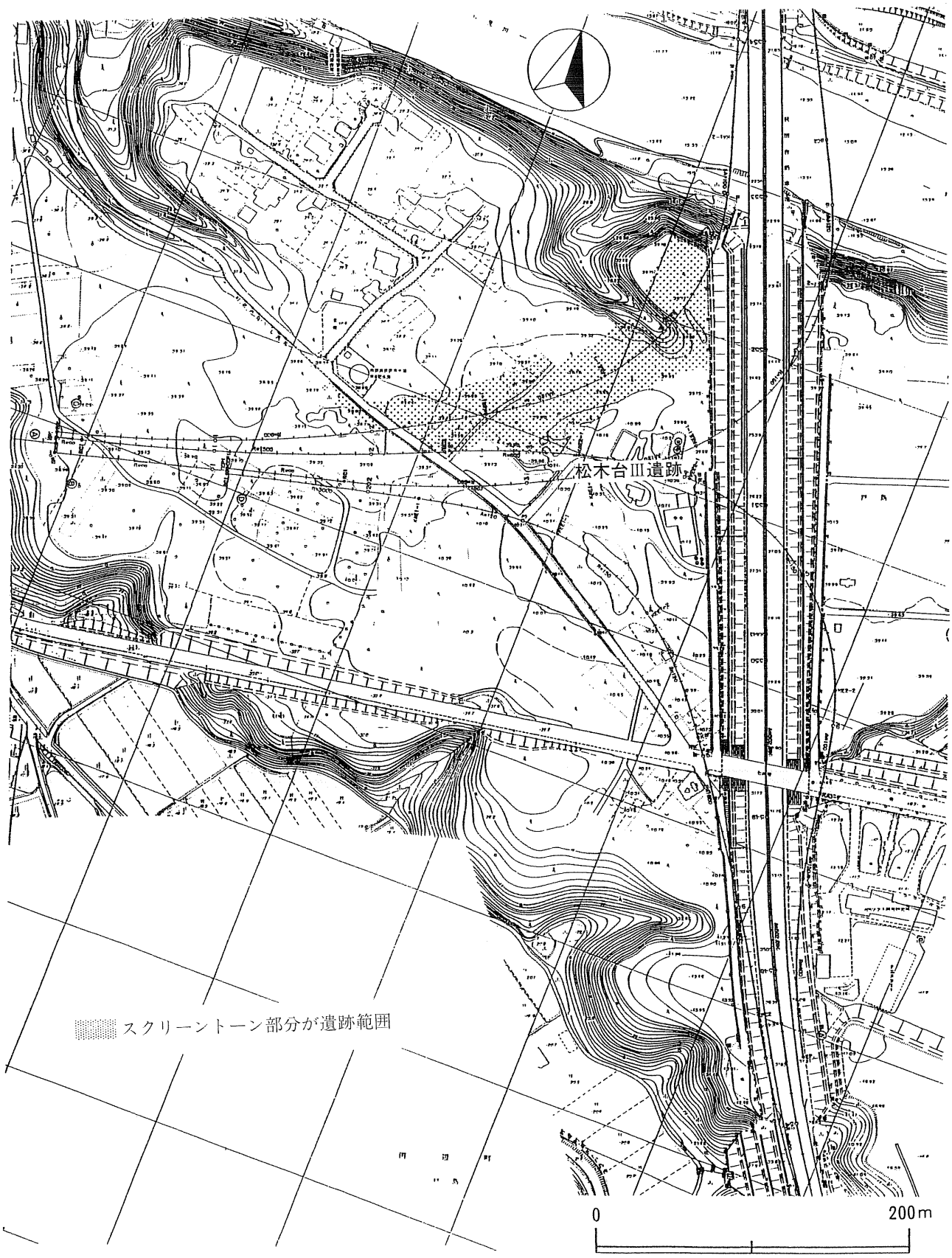
東北横断自動車道秋田線を挟んで北東側、及び南東側範囲確認調査区が未買収のため、今年度の範囲確認調査は実施しなかった。



第33図　松木台Ⅲ遺跡位置図



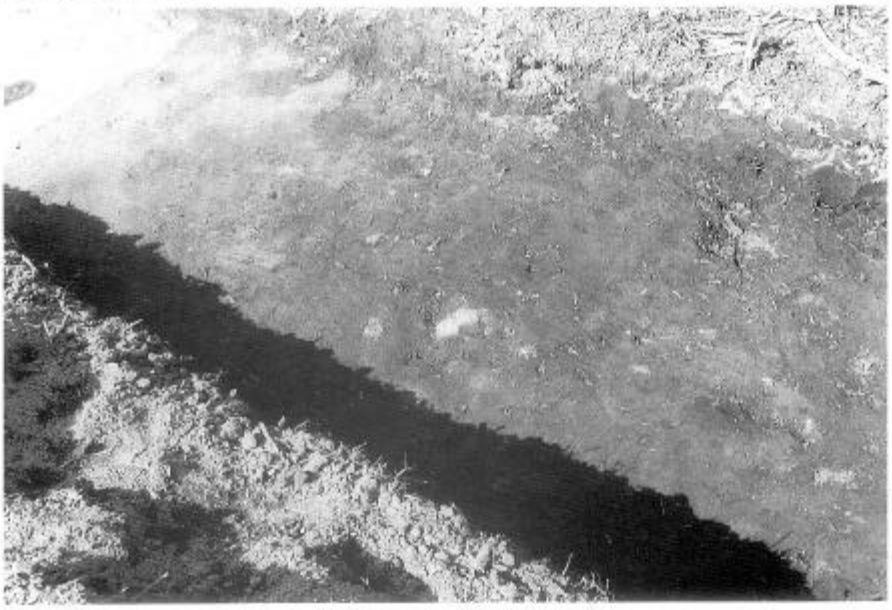
第34図　松木台Ⅲ遺跡範囲確認調査結果図



第35図　松木台Ⅲ遺跡工事区域内遺跡範囲図

松木台Ⅲ遺跡
遠景（東から）

松木台Ⅲ遺跡
小沢を挟んで手前がB区
向こうがA区（南から）



松木台Ⅲ遺跡
竪穴住居跡検出状況
（南から）

松木台Ⅲ遺跡
土器埋設遺構検出状況
（北から）

松木台Ⅲ遺跡
陥し穴検出状況（東から）

松木台Ⅲ遺跡
土坑検出状況（南から）

4　県営ほ場整備事業琴丘北地区・琴丘南地区

（１）鬼沢口（おにさわぐち）遺跡Ｂ地区

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字鬼沢口

2　範囲確認調査期間　　平成９年６月11日～６月13日

3　範囲確認調査対象面積　　10,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　6,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

鬼沢口遺跡Ｂ地区は、琴丘町の西部、ＪＲ奥羽本線の北方約１㎞にあり、八郎潟東岸に形成された標高26ｍ前後の海成段丘上に位置する。全体的に、東から西に緩やかに傾斜するが、東側はかつてのほ場整備で水田化しており、南側は農道で区画される。西北側は、東から西に入るＶ字状のかつての沢で区画され、西側は南東側より北西に入るかつての沢で区画される。沢を挟んで200ｍほど西には鬼沢口遺跡が位置する。

②現況

かつての水田と水田である。

6　範囲確認調査の方法

分布調査の結果、工事による掘削が及ぶと判断した範囲を対象に、地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定した。重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構・遺物の有無、層位、深さを確認した。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡東側、南側の高位部は削平したあと、上に50㎝前後の粘土混じりの黒色土を盛った状態であった。地山は灰褐色の粘土層である。東側と南側の大半が地山まで削平されているが、西北に行くにつれ、削平は少なくなる。北と西側は南東側からの盛土により、北側で120㎝前後、西側で60㎝前後の盛土をした状態で、また盛土の下には包含層と思われる黒褐色土層が認められた。

②検出遺構と出土遺物（第37図）

遺構は、調査区の広い範囲で土坑と柱穴を検出した。柱穴には列状に並ぶものがある。また、北側では東側からの盛土と思われる表土層と黒褐色土層より縄文土器・石器・剥片が出土している。

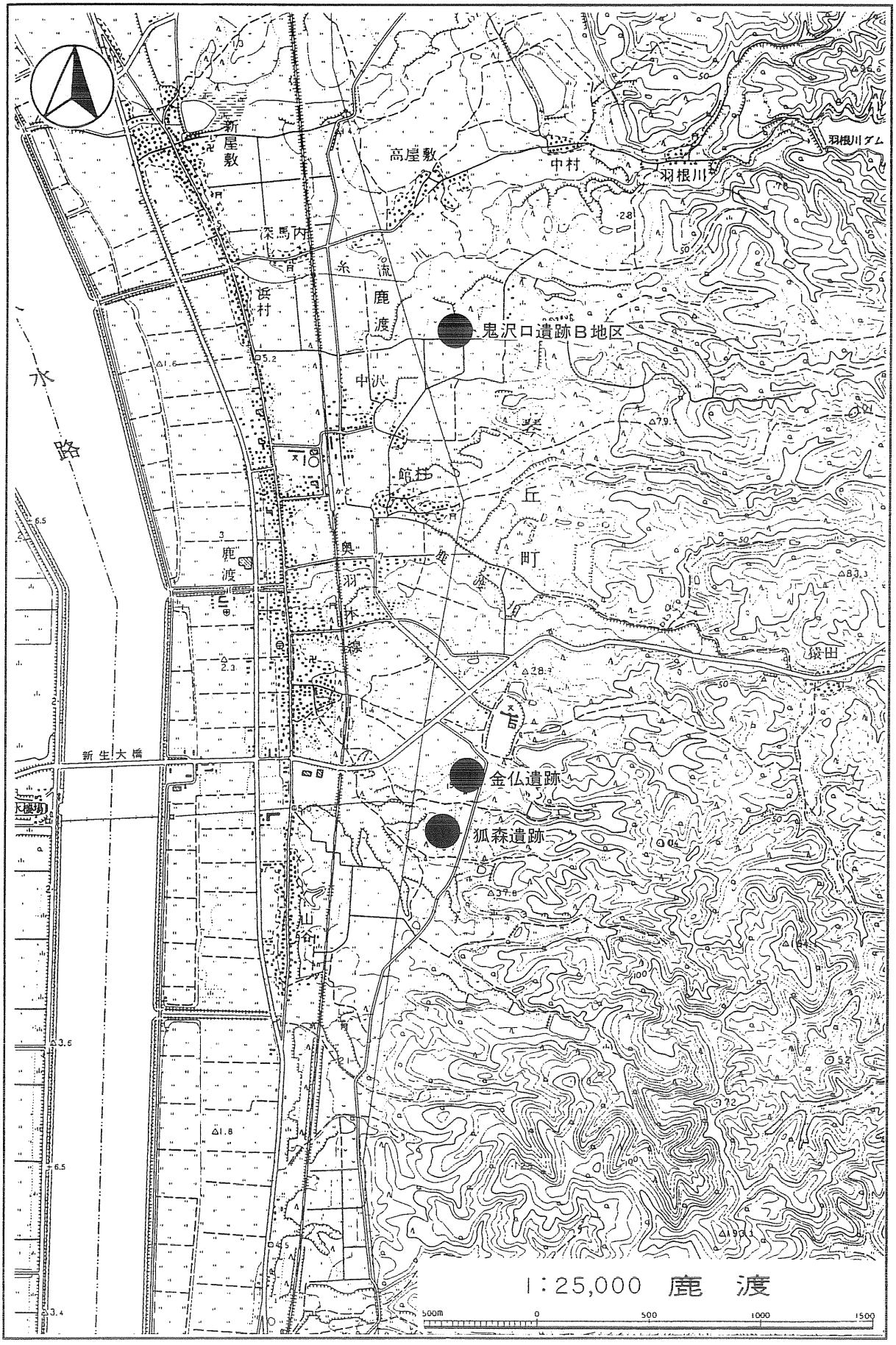
8　所見

①遺跡の種類

全体が縄文時代中期を中心とする遺跡である。遺物量は多くなく、土坑群がまとまって検出されると予想される。

②遺跡の範囲（第37図）

遺跡は南側の農道と西側、北側の沢で区画される6,000㎡を遺跡範囲とし、そのうち工事による影響がない部分、2,000㎡を調査対象区域外とした。



第36図　鬼沢口遺跡Ｂ地区・金仏遺跡・狐森遺跡位置図

第37図　鬼沢口遺跡Ｂ地区範囲確認調査結果及び遺跡範囲図

鬼沢口遺跡Ｂ地区
土坑検出状況（南から）

鬼沢口遺跡Ｂ地区
土坑検出状況（南西から）

鬼沢口遺跡Ｂ地区
柱穴列検出状況（北西から）

（２）金仏（かなぼとけ）遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字金仏34-1・34-2

２　範囲確認調査期間　　平成９年６月17日～19日

３　範囲確認調査対象面積　　8,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　1,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

金仏遺跡は、鹿渡地区東側の丘陵上、琴丘中学校のグラウンドより西に位置する。

南側はＶ字状の沢状地形で、沢を挟んで南側に周知の遺跡である狐森遺跡がある。

②現況

遺跡は南側が畑地、北側は水田である。

６　範囲確認調査の方法

分布調査の結果、工事による掘削が及ぶと判断した範囲を対象に、地形を考慮して、任意にトレンチ箇所を設定した。重機により表土を除去した後、地山面を精査して遺構の有無、層位、深さを確認した。

７　範囲確認調査の結果

①層序

南側の畑地は、表土が耕作土で、明黄褐色の地山粒が混じる。深さ20cmほど掘り下げると、遺物包含層と思われる黒褐色土が認められた。厚さは10cm程度で上部は削平されて盛土されている。

北側は水田化の際削平されており、畑地より50cmほど低い。削平したあと、上に50cm前後の粘土混じりの黒色土を盛った状態であった。地山は灰褐色の粘土層である

②検出遺構と出土遺物（第38図）

水田部分は削平が著しく、まとまった遺構の検出はなく、遺物は出土しなかった。

畑地部分では、調査区の広い範囲で土坑の落ち込みと、焼土遺構１基、溝跡１条を検出した。このうち、焼土遺構は平安時代の土師器焼成遺構の可能性が高い。また、黒褐色土層より縄文土器片１点・石器・剥片が出土している。

８　所見

①遺跡の種類

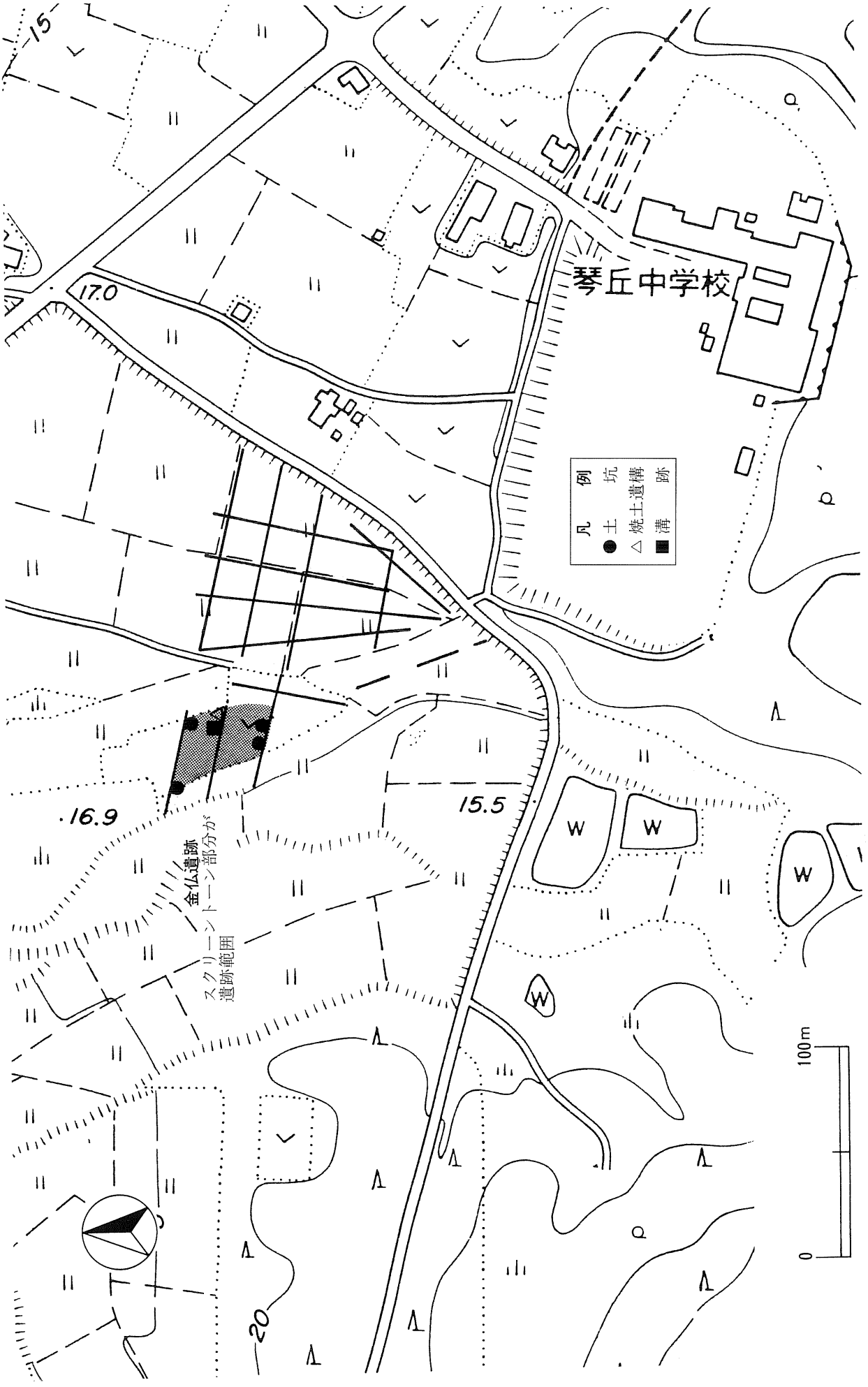
縄文時代及び中世の集落

②遺跡の範囲（第38図）

削平されていない畑地部分1,000㎡を遺跡範囲とした。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

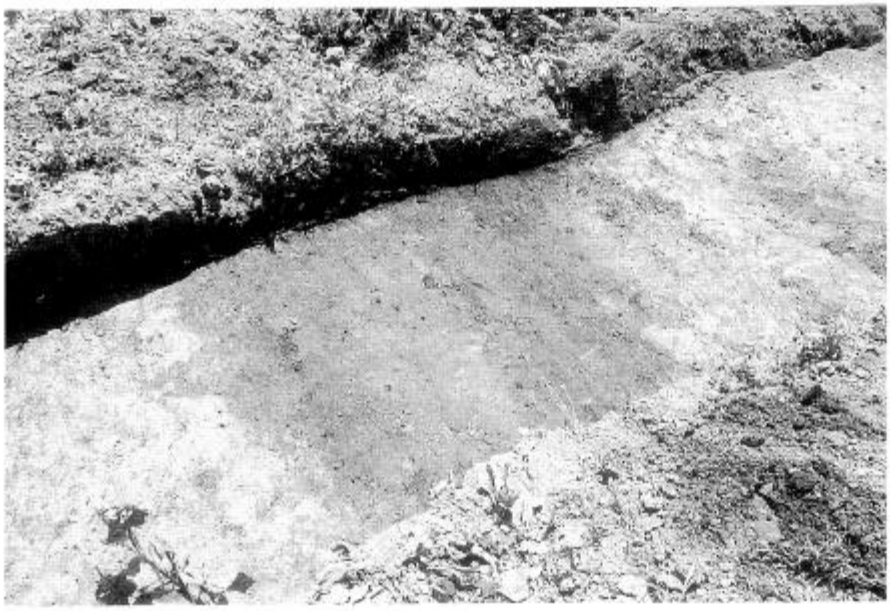
縄文時代の土坑及び平安時代の土師器焼成遺構や土坑などが検出されると思われる。



第38図　金仏遺跡範囲確認調査結果及び遺跡範囲図

金仏遺跡
土坑検出状況(北から)

金仏遺跡
焼土遺構・溝跡検出状況
(北から)



金仏遺跡
土坑検出状況(西から)

（3）狐森（きつねもり）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県山本郡琴丘町鹿渡字狐森11外

2　範囲確認調査期間　　平成9年11月10日～11月27日

3　範囲確認調査対象面積　　21,200㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,800㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡のある琴丘町は、八郎潟残存湖の東岸および北東岸にあたり、出羽丘陵の北西辺に位置する。沖積平野は、八郎潟残存湖に沿って琴丘町西端部を南北方向に広がるが、極めて狭小である。西流していた旧来の沢の多くは水田化され、一部は堤・じゅんさい沼として残っている。

狐森遺跡は、琴丘町の中央西寄り、町役場から南南東約1.9㎞の地点に位置し、八郎潟湖岸平野に向かって舌状に張り出した標高16～20ｍの台地上に立地する。なお、水田(旧沢地)をはさんで南側には兵ヶ沢遺跡が立地し、その間の距離はおよそ150ｍである。

②現況

範囲確認調査対象区の現況は、旧沢地に造られた水田(南側水田)と台地上の畑地・水田(北側水田)から成っており、畑地と南側水田との間は開田工事により比高約4ｍの急崖となっている。対象区の東側は町道鹿渡鯉川線に、西側は日本海沿岸東北自動車道建設予定地に接している。

6　範囲確認調査方法

地形を考慮してトレンチを設定し、北側水田は重機により表土を除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認した。南側水田と畑地は人力で表土除去をおこなったが、水田については水の湧出があるため3ｍ四方のグリッドを設定して遺構確認作業をおこなった。

範囲確認調査におけるトレンチ総延長は340m、試掘面積は760㎡で範囲確認調査対象面積の3.6％にあたる。

7　範囲確認調査結果

①層序　－（　）内の数字は層厚－

北部水田中央部の層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層：耕作土(15cm)

第Ⅱ層：褐色土(60cm)　　遺物包含層

第Ⅲ層：黄褐色土〈地山〉　　遺構確認面

水田部は北ほど第Ⅱ層が厚くなる傾向がある。また、№17トレンチと№20トレンチの南端部では第Ⅱ層の遺物包含層は褐色から黄褐色に変色している。

また、畑地北端の層序は以下のとおりである。

第Ⅰ層：耕作土(15cm)

第Ⅱ層：褐色土(30cm)　　遺物包含層

第Ⅲ層：黄褐色土(15cm)　　遺物包含層

第Ⅳ層：黄褐色土〈地山〉　　遺構確認面

遺物包含層のうち、遺物の出土量が多いのは第Ⅱ層である。畑地縁辺部は比較的包含層が厚いのに対し、中央部では耕作土の直下が地山という部分も多い。また、耕作による攪乱などのため、層序が異なる場所も

ある。

南側水田の層序は、第Ⅰ層が耕作土(15cm)、第Ⅱ層が黒褐色土(30cm)、第Ⅲ層が黄褐色土(地山層)であり、その全域で第Ⅱ層が攪乱土になっている。

②検出遺構と出土遺物(第39図)

検出した遺構は、水田では竪穴住居跡２軒、土坑７基、柱穴７基、畑地では土坑３基である。また、畑地南端の№.１および№.３トレンチでは南に向かって第Ⅱ層が厚くなり、縄文時代の多くの遺物を含んでいた。このことから、斜面を利用した捨場であった可能性も考えられる。

土器は、縄文時代前期中葉のものを中心にコンテナ１箱分出土しているが、ほとんどが畑地から出土しており、特に№.１および№.８トレンチが多く、№.４トレンチがそれに次ぐ。水田から出土した土器はごくわずかである。

石器も畑地から多く出土しており、ほとんどが頁岩を材料とするもので、コンテナ３箱分出土している。その内訳は大部分が剝片、ほかに石匙・篦状石器・石錘等十数点がある。水田からは№.16トレンチから石錘が出土しているほか、№.17トレンチと№.23トレンチから剝片が出土している。

８　所見

①遺跡の種類

縄文時代前期の集落跡である。

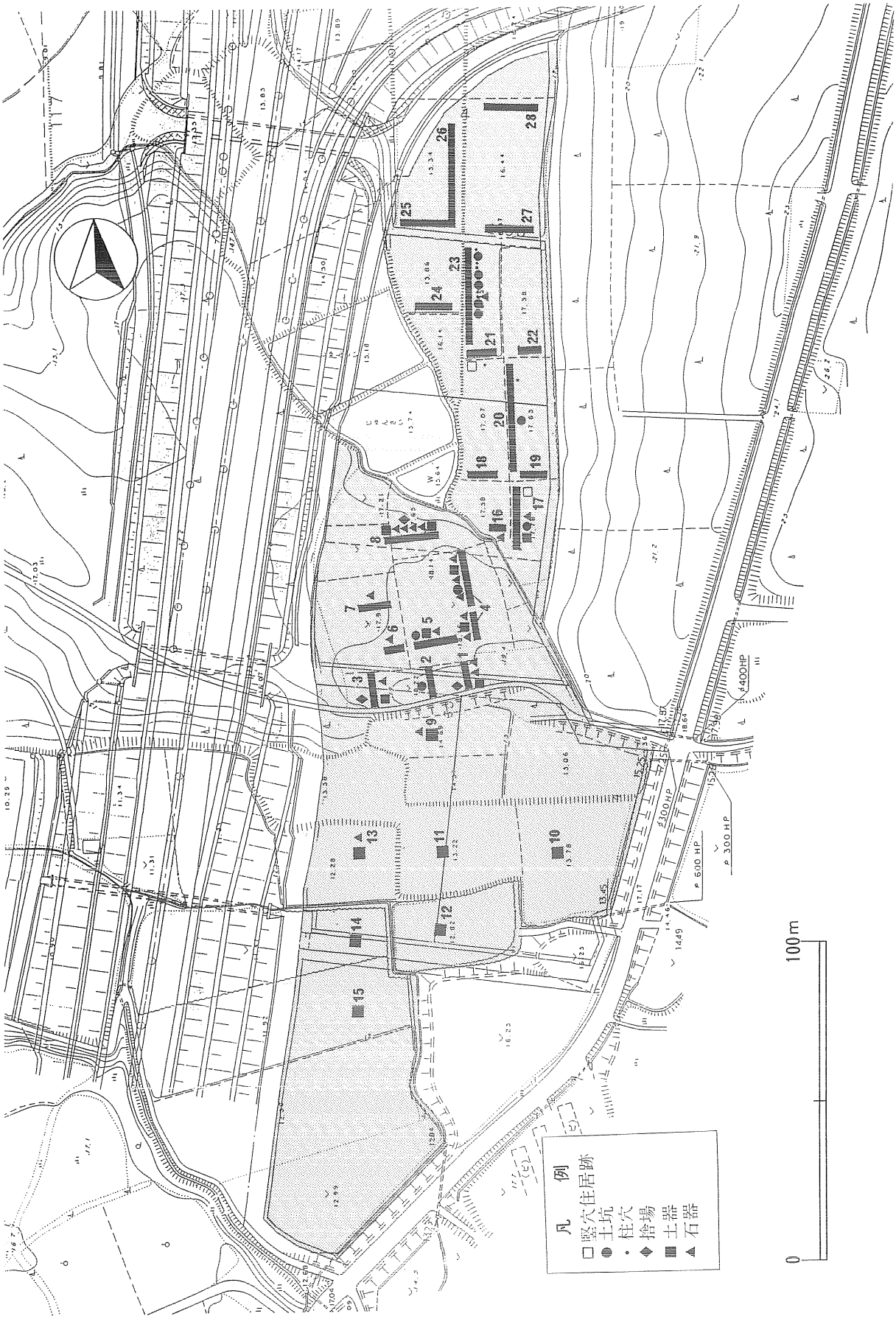
②遺跡の範囲と工事区域(第40図)

狐森遺跡の範囲は、舌状台地先端部から調査区東側の杉林に広がっているものと考えられる。このうち工事区域内における発掘調査の必要な範囲は、遺跡全体からみて中央やや北東よりに位置するものと考えられる。

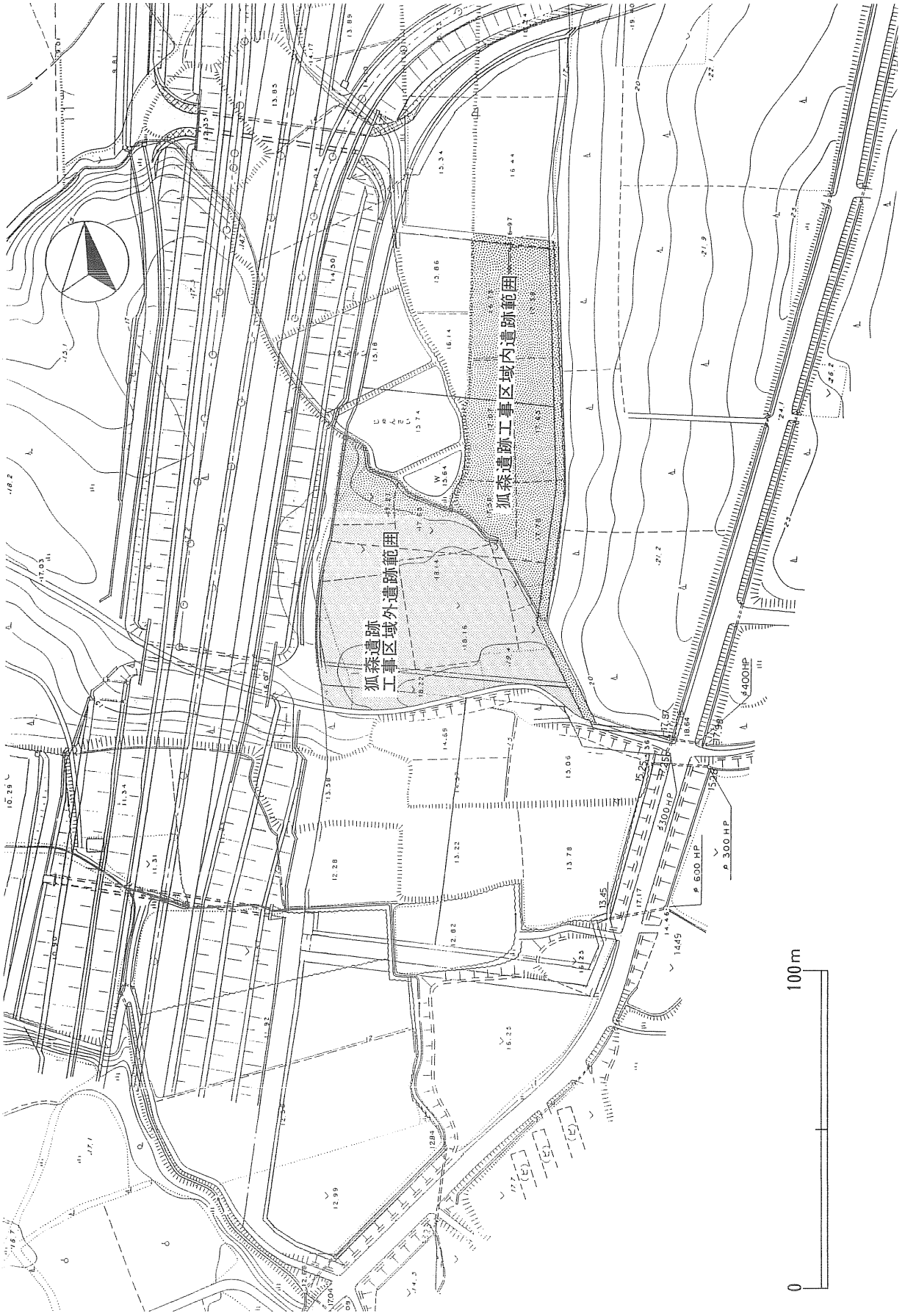
今回の範囲確認調査では北側水田の北端部と西部から遺構の検出や遺物の出土がなかったため、工事区域内遺跡範囲から除外した。また、南側水田からはわずかに石器が出土したが、全域が耕作による攪乱を受けており、遺物は畑地からの流れ込みによるものと判断した。したがって工事区域における遺跡範囲は北側水田の中央部東寄りから南部にかけてと畑地であり、その総面積は8,050㎡である。このうち、畑地中央部から南部にかけての大部分が範囲確認調査後に当事業から除外されたため、発掘調査の必要な面積は、北側水田の中央部東側・南部とそれに隣接する畑地北部(水路造成部分含む)の計3,800㎡となった。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は畑地よりもむしろ水田部に密であり、縄文時代前期の竪穴住居跡・土坑が多数検出される可能性がある。また、№.８トレンチ付近の畑地北部には捨場遺構の存在も考えられることから、遺物は畑地を中心にまとまった量が出土するものと予想される。

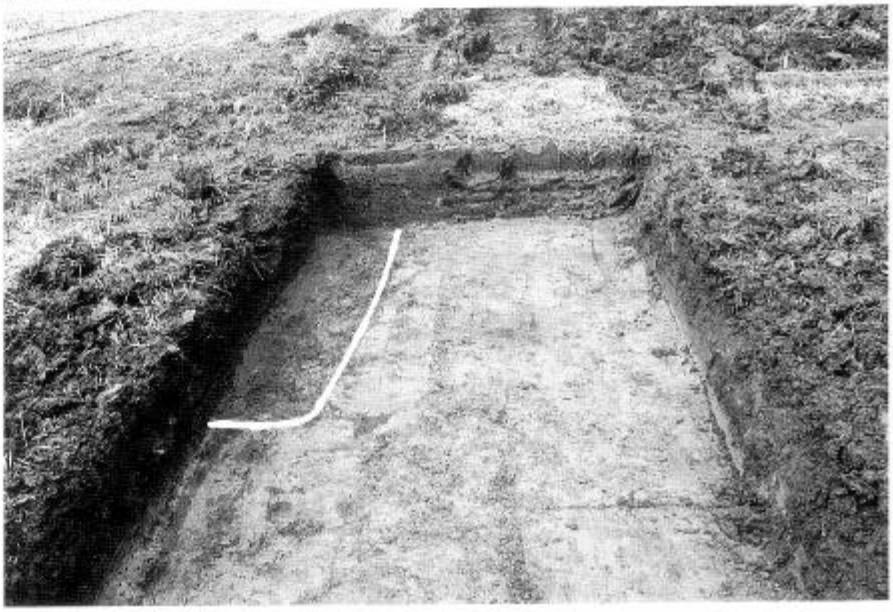


第39図　狐森遺跡範囲確認調査結果図

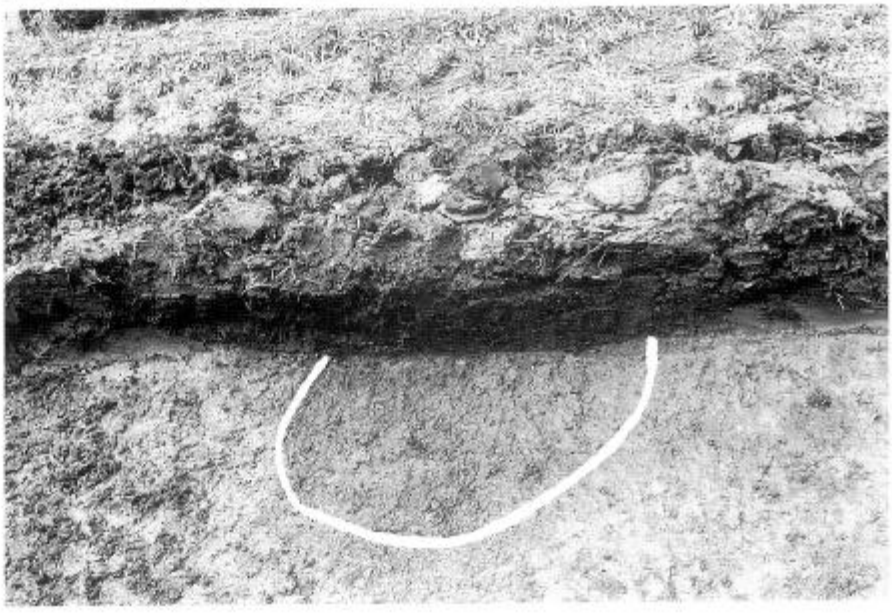


第40図　狐森遺跡範囲図

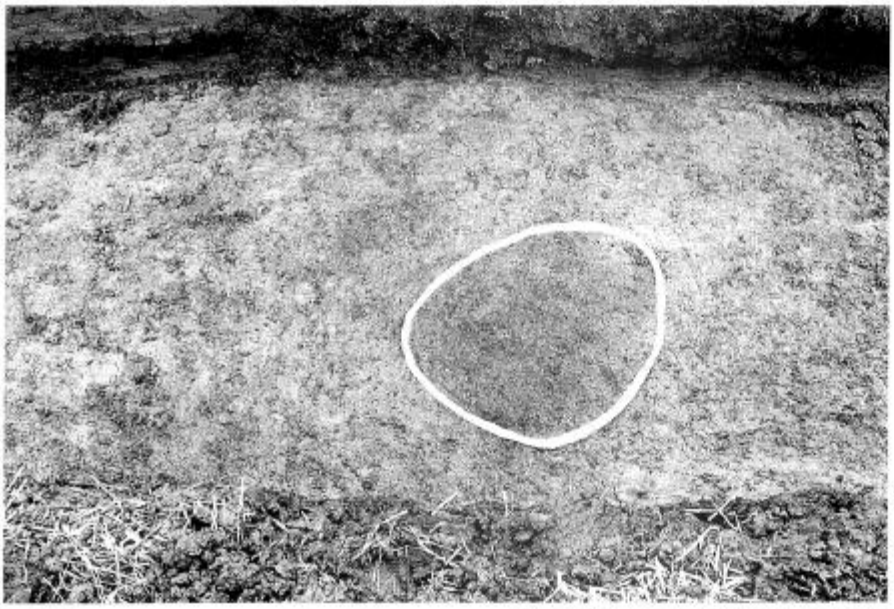
狐森遺跡
北側水田近景（南から）



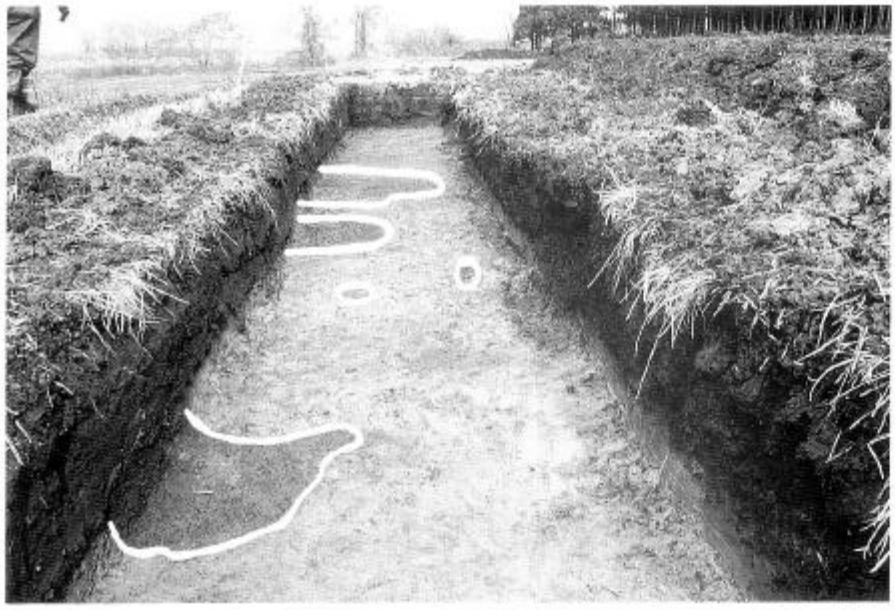
狐森遺跡
北側水田No.17トレンチ
遺構検出状況



狐森遺跡
北側水田No.17トレンチ
土坑検出状況



狐森遺跡
北側水田№20トレンチ
土坑検出状況



狐森遺跡
北側水田№23トレンチ
遺構検出状況

狐森遺跡
畑地南端№１トレンチ
遺物出土状況

５　県営ほ場整備事業浜井川地区

（１）洲崎（すざき）遺跡

１　遺跡所在地　　秋田県南秋田郡井川町浜井川字洲崎271外

２　範囲確認調査期間　　平成９年11月17日～12月５日

３　範囲確認調査対象面積　　62,000㎡

４　工事区域内遺跡面積　　25,000㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

洲崎遺跡は、ＪＲ奥羽本線井川さくら駅から北西約１㎞、井川町の新屋敷集落西側に隣接して位置する。遺跡は八郎潟に注ぐ井川河口域左岸の沖積低地に立地しており、標高は0.8～1.6ｍである。八郎潟湖岸に広がる沖積低地は、ほぼ平坦な地勢を示すが、遺跡地はわずかにその周囲より高まりをもっている。

遺跡の周辺、井川両岸の集落内には、数多くの板碑・五輪塔が周知されている。遺跡東側にも新屋敷板碑、新屋敷五輪塔として２つの遺跡が位置している。

②現況

遺跡の現況は、大部分が水田であり、一部に畑地が認められる。

６　範囲確認調査の方法

現況での水田の区画(畦)に沿うように幅１ｍないしは1.8ｍ幅のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。調査対象範囲が広大であり、一部のトレンチ表土除去に際し、重機を使用した。1.8ｍ幅のトレンチは、重機バケット幅に規定されているものである。またボーリング棒を用いた探査も合わせて実施した。実質調査面積は3,200㎡で対象面積の5.2％である。

７　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡内の層序は、泥炭層や砂層形成の有無、削平・撹乱等に伴い、各所で様相を異にする。ここでは遺跡ほぼ中央部(水田)での層序を代表して示す。

Ⅰ層：表土・耕作土(15～20㎝)、Ⅱ層：黒～暗褐色砂質シルト層(15～20㎝)、Ⅲ層：砂層(５～10㎝)、Ⅳ層：黒色泥炭層(20～40㎝)、Ⅴ層：砂礫層(地山)である。Ⅳ層泥炭層中に薄い砂層が２～３枚が入り込む箇所もある。遺物包含層はⅣ層、遺構確認面はⅤ層となる。

上記は泥炭層・砂層が認められるものであり、Ⅱ～Ⅳ層の全てあるいは一部が欠落する箇所も存在する。

②検出遺構と出土遺物(第42図)

検出した遺構は、竪穴遺構３基、土坑110基、溝跡26条、井戸跡32基にのぼる。またⅢ層上面では地割れ跡を確認しており、地震に伴う痕跡と思われる。さらにボーリング探査により南北方向の旧河川(旧井川)の存在(一部推定、第42図参照)も確かめている。

井戸跡は１基が径約1.3ｍ程の円形、他は一辺が0.7～0.9ｍの方形の木枠をもつ。井戸枠の中央部に径50㎝程の曲物を埋設する例も確認できた。

遺物は主にⅣ層の泥炭層内より、多量の木製品・自然木(木片)をはじめ、土器・土製品・陶器・銅製品・鉄製品・石製品・銭貨等が出土している。木製品には箸・下駄・鳥形・浮木・曲物・簸(ささら、桶などを洗うたわし状のもの)・杷(さらい＝えぶり、地均しの農具)・板状木製品等があり、板状木製品の１枚には判読はできないが、墨書が認められる。その他井戸に関連した部材も多い。土器は縄文時代晩期～弥生時代

前期の破片資料が、土製品は土錘が出土している。陶器には擂鉢、甕・壺類が見られ、擂鉢は珠洲系と越前系が得られている。銅製品は刀装具である切羽と火箸があり、いずれも遺存状態が良く緑青等の錆は見られない。鉄製品は少なく釘と思われるもの１点のみ、石製品は砥石である。銭貨は10枚ほど発見されており、開元通寶・元豊通寶・寛永通寶の銭銘が確認できる。

8　所見

①遺跡の種類

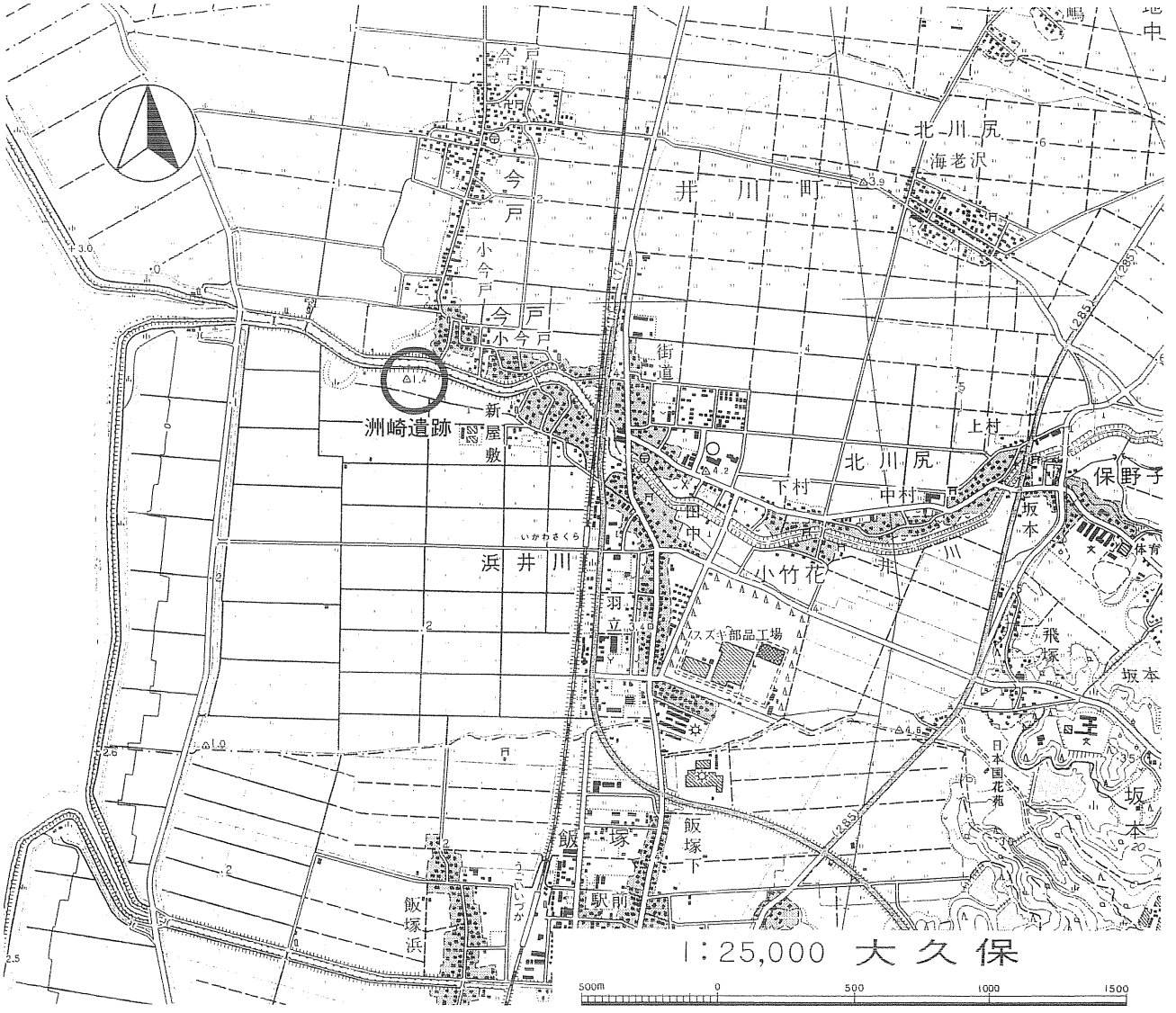
遺跡は検出遺構と遺物から主に中世の集落跡と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域（第43図）

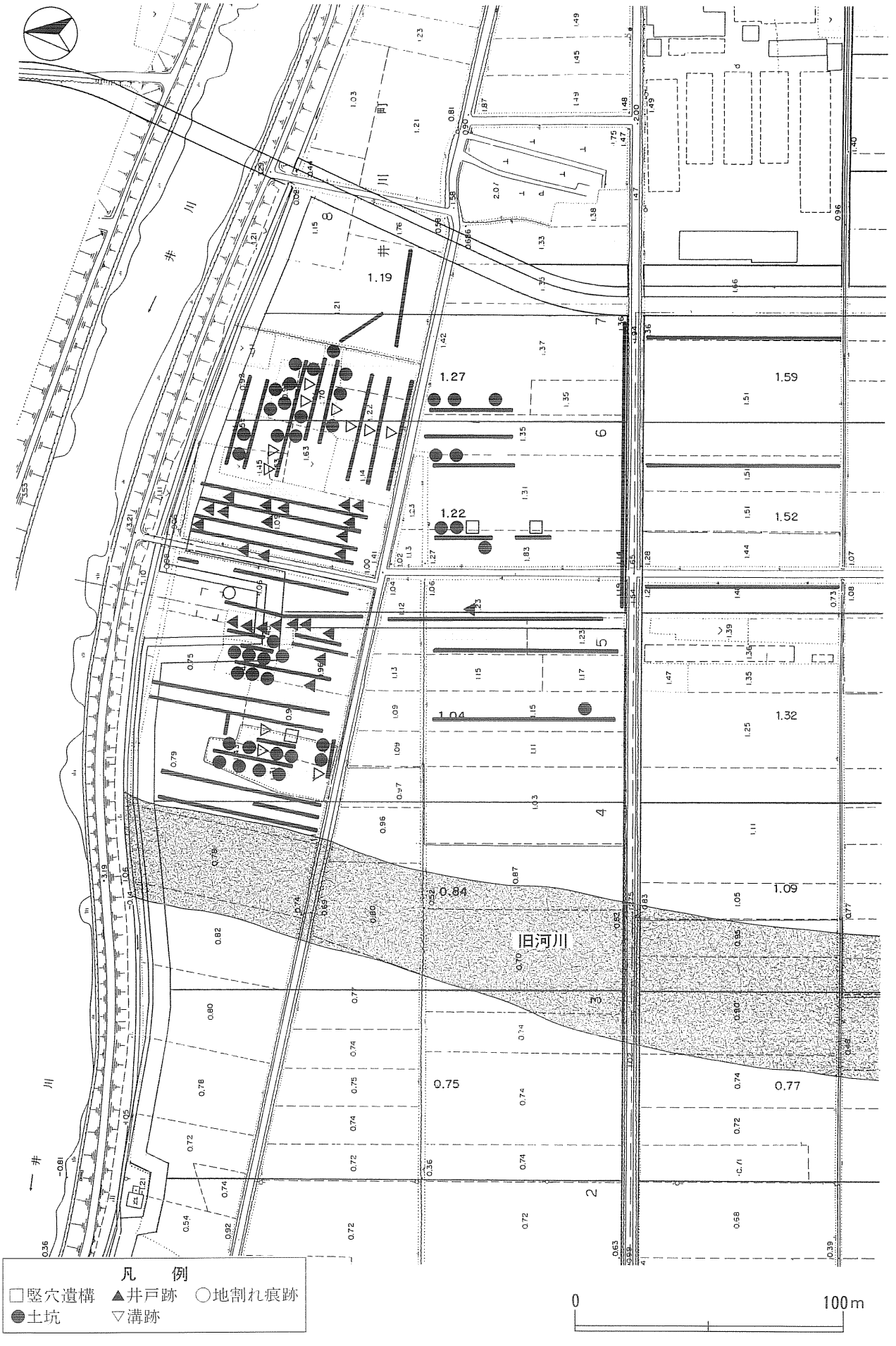
遺跡は今回のボーリング探査で確かめた旧河川を西限とする東西200m以上、南北160m以上の広大な範囲を推定できる。このうち、工事区域内で削平を免れ得ない範囲は25,000㎡となる。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は中世の建物跡、竪穴遺構とそれに伴う井戸跡、土坑、溝・柵跡等の検出が予想される。遺物は陶器、銅・鉄製品に加え、大量の木製品・自然木の出土が見込まれる。



第41図　洲崎遺跡位置図

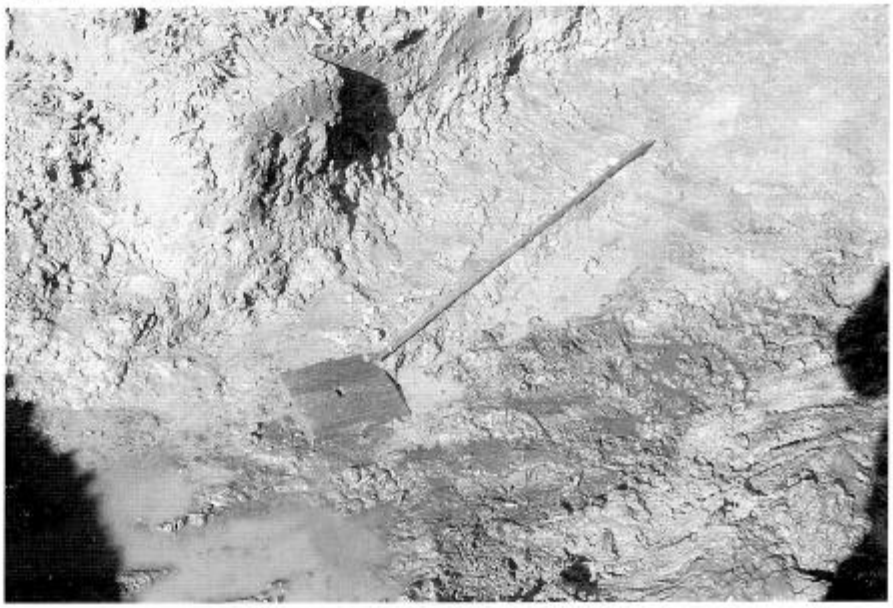


第42図　洲崎遺跡範囲確認調査結果図

第43図　洲崎遺跡範囲図

洲崎遺跡
作業風景（遺跡西端部）

洲崎遺跡
遺構検出状況（井戸跡）



洲崎遺跡
遺物出土状況（木製品）

6　県営ほ場整備事業金沢地区

（１）十二牲（じゅうにしょう）Ｂ遺跡・金沢柵木（かねざわさくぼく）Ⅰ遺跡の関連遺跡

1　遺跡所在地

十二牲Ｂ遺跡　　秋田県横手市金沢中野字下矢来沢223外

金沢柵木Ⅰ遺跡の関連遺跡　秋田県横手市金沢中野字湯森・青葉田

2　範囲確認調査期間　　平成９年11月17日～12月５日

3　範囲確認調査対象面積　　128,000㎡

4　事業区域内遺跡面積

十二牲Ｂ遺跡　　7,000㎡

金沢柵木Ⅰ遺跡の関連遺跡　　0㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

十二牲Ｂ遺跡は、横手市北部の金沢中野地区に所在し、北緯39°22′15″、東経140°33′26″、ＪＲ東日本奥羽本線後三年駅の北東方約1.6㎞に位置する。同地区の北西部は、仙北郡仙南村に隣接しており、東方の奥羽山脈中に源を発して西流する厨川が北境となっている。

遺跡は、厨川左岸の湯森山(標高92.4ｍ)と十二牲山(標高90.6ｍ)と呼ばれている分離丘陵(残丘)に挟まれた沖積地に立地している

なお、本遺跡から南東方約１㎞の沖積地には、金沢柵木Ⅰ遺跡が立地している。

②現況

水田である。

6　範囲確認調査の方法

現在区画されている各水田の長軸(主に東西方向)に、幅１ｍのトレンチ(試掘溝)を設定して、重機で表土(耕作土)を除去した後、人力で遺構・遺物の有無を確認しながら地山面まで掘り下げを行った。

トレンチの総延長は3,593ｍ、試掘面積は3,593㎡で、範囲確認調査対象面積の2.8％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

遺跡の基本層序は、各トレンチの土層観察から以下の通りに分層した。

第Ⅰ層暗褐色土(10ＹＲ３/３)：耕作土(表土層)、層厚20～25㎝

第Ⅱ層黒褐色土(10ＹＲ３/１)：遺物包含層、層厚30～40㎝

第Ⅲ層青灰色粘土(５Ｇ５/１)：地山

②検出遺構と出土遺物(第45図)

遺構は、時期不明の溝跡を１条検出した。遺物は縄文時代晩期の土器、平安時代の須恵器・土師器のほか、陶磁器、古銭(寛永通寶)、木製品などが出土したが、その主たる遺物は須恵器・土師器である。

8　所見

①遺跡の種類

縄文時代、平安時代、近世の複合遺跡であり、主に平安時代の集落跡と推測される。

②遺跡の範囲と工事区域(第46図)

遺跡の範囲は、湯森山の南側の水田部分である。事業区域は、金沢中野地区の水田全域であり、１期目の

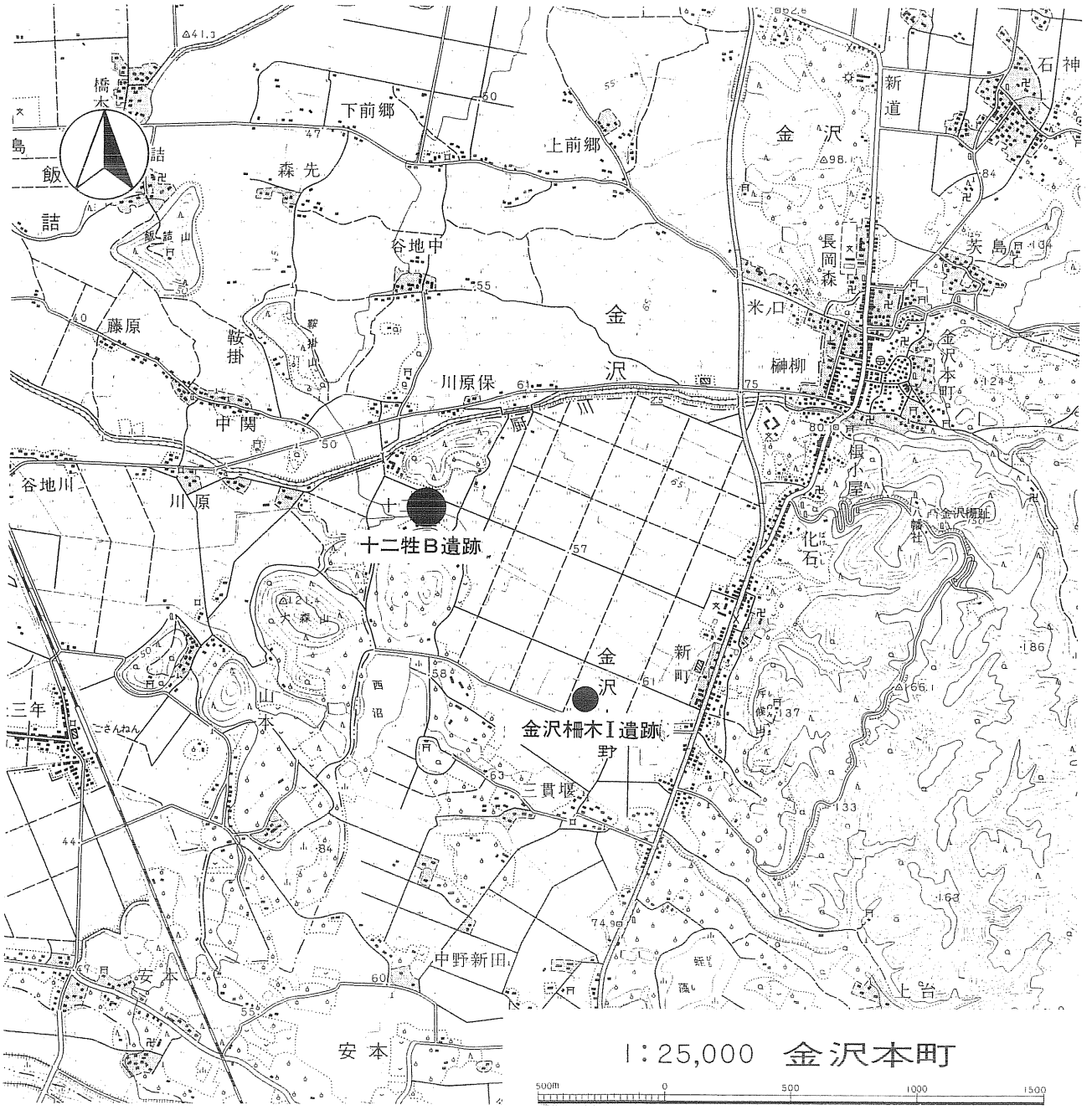
事業予定地は十二牲Ｂ遺跡を含む北部地域である。

③発掘調査時に予想される遺構と遺物

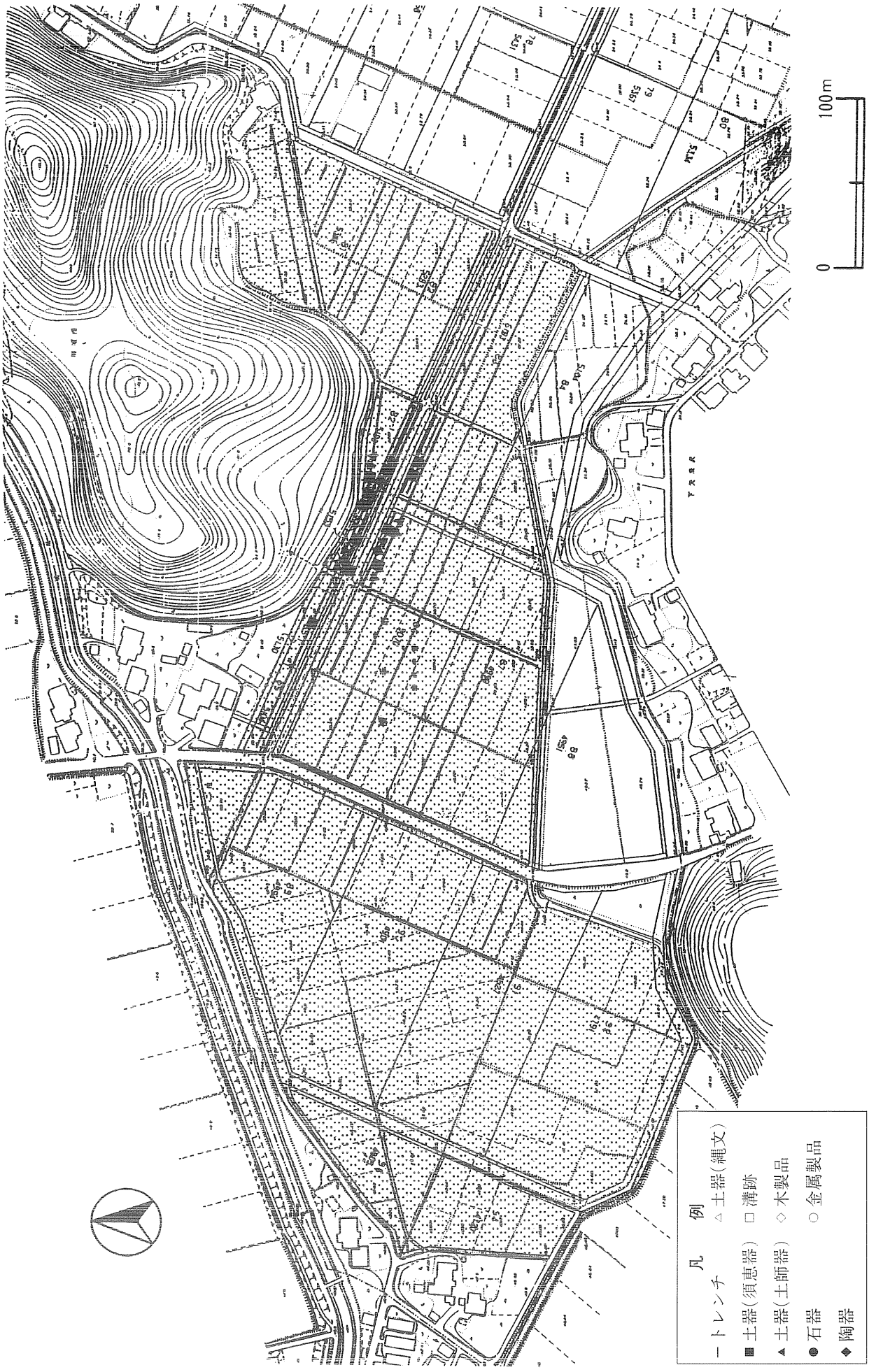
遺構は縄文時代の土坑と、平安時代の竪穴住居跡などで、遺物は主に平安時代の須恵器・土師器が出土するものと予想される。

9　その他

十二牲Ｂ遺跡の範囲確認調査と並行して、金沢柵木Ｉ遺跡に関連する柵木等が、１期目の事業区に及んでいるか否かの調査も合わせて行った。調査は幅１ｍ・東西約１kmのトレンチを設定、深さ１～1.5ｍほど掘り下げて調査した。その結果、遺構は検出されず、須恵器破片などが耕作土から若干出土したにとどまった。したがって、金沢柵木Ｉ遺跡に関連する柵木の発掘調査は、必要なしと判断した。



第44図　十二牲Ｂ遺跡・金沢柵木Ｉ遺跡位置図

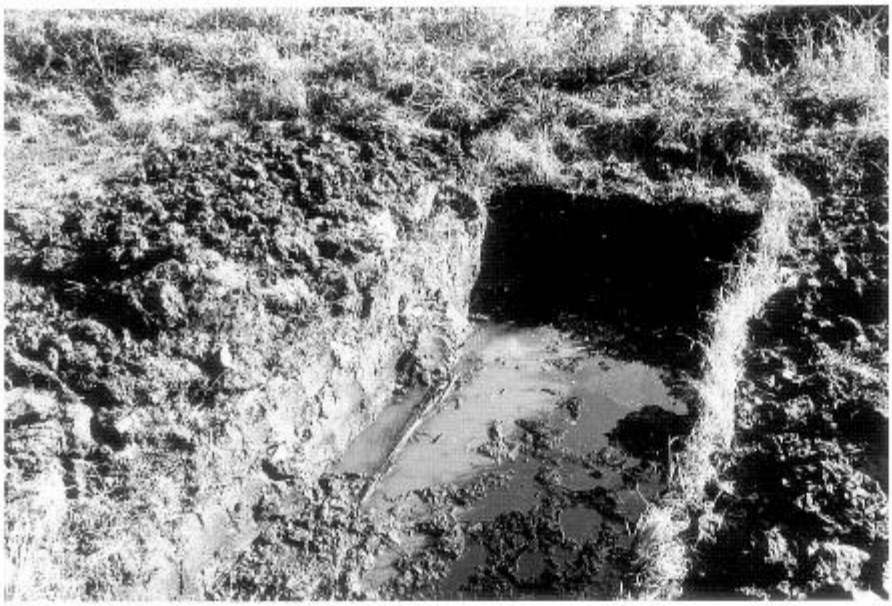


第45図　十二性Ｂ遺跡範囲確認調査結果図

第46図　十二性Ｂ遺跡範囲図

十二牲Ｂ遺跡
遺跡遠景（東から）

十二牲Ｂ遺跡
調査状況（東から）



十二牲Ｂ遺跡
須恵器片出土状況（西から）

7　県営ほ場整備事業北阿気地区

（１）江原嶋（えばらじま）１遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県平鹿郡大雄村東阿気132外

2　範囲確認調査期間　　平成９年11月19日～12月５日

3　範囲確認調査対象面積　　170,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　59,600㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

江原嶋１遺跡は大雄村役場の北西約1.5kmに位置する。遺跡が立地する標高約35ｍの沖積地（最低位段丘構成面）は、横手盆地東縁部から西側にかけて発達している扇状地の末端部にあたる。調査区の西側を雄物川の支流である油川幹線排水路が北流している。

②現況

水田である。水田面の標高は旧地形に即し異なるが、調査区域内の比高差は２ｍ以内に収まる。昭和30年代に人力による耕地整理がおこなわれたが、大幅な地形の改変はなかったと考えられる。しかし、蛇行し、遺跡の形成に影響を与えたと考えられる旧油川は、油川幹線排水路として昭和40年代後半に、大幅に改修されている。

6　範囲確認調査の方法

油川幹線排水路に沿ったトレンチを４本設定し旧地形復元及び遺構検出・遺物出土範囲をおおよそ確定した。さらに、詳細把握のために水田の畦に沿ってトレンチを設定した。掘り下げはすべて重機で行い、遺構の検出地点・遺物の出土地点・包含層及び遺構検出面までの深さを記録した。

試掘した調査面積は6,630㎡で対象面積の約４％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

Ⅰ層：表土（20～30cm）

Ⅱ層：遺物包含層・暗褐色土（５～10cm）

Ⅲ層：黄褐色土（10～80cm）

Ⅳ層：遺物包含層・黒色土（30～60cm）

Ⅴ層：緑灰色土

Ⅵ層：暗褐色土

Ⅰ層は水田の耕作土、Ⅱ層は北部で部分的に確認される平安時代・江戸時代の遺物包含層である。Ⅲ・Ⅳ層は水田の基盤を構成する層であり、調査区全域に存在し北側が厚い。Ⅲ層上面は平安時代・江戸時代の遺構遺物確認面、中央部のⅣ層は縄文時代の良好な遺物包含層である。Ⅴ・Ⅵ層上面は縄文時代の遺構確認面で、中央部はⅤ層上面・南端部はⅤ・Ⅵ層上面で遺構が確認できる。

Ⅱ～Ⅴ層は非常に粘性が強く、Ⅵ層は砂礫を含む層である。

②検出遺構と出土遺物（第48・49図）

遺構は中央部・南端部で縄文時代中期後半から後期の土坑がかなり密な状態で検出され、土器埋設遺構１基も中央部で検出された。北部では平安時代の竪穴住居跡４軒、平安時代か江戸時代と考えられる柱穴２基・溝跡２条が検出された。

遺物は中コンテナで76箱出土した。中央部・南端部のⅣ層黒色土中からは縄文時代中期後半・後期の遺物が中コンテナで69箱出土した。中には石棒・石皿・土偶・耳飾り等が含まれている。北部からは平安時代の土師器や須恵器、江戸時代の陶磁器が中コンテナで７箱出土した。特に、「財」と刻印された石製の古印が出土したことが特筆される。

8　所見

①遺跡の種類

縄文時代中期後半から後期にかけての大規模な墓域、平安時代及び江戸時代の集落跡などの複合遺跡である。

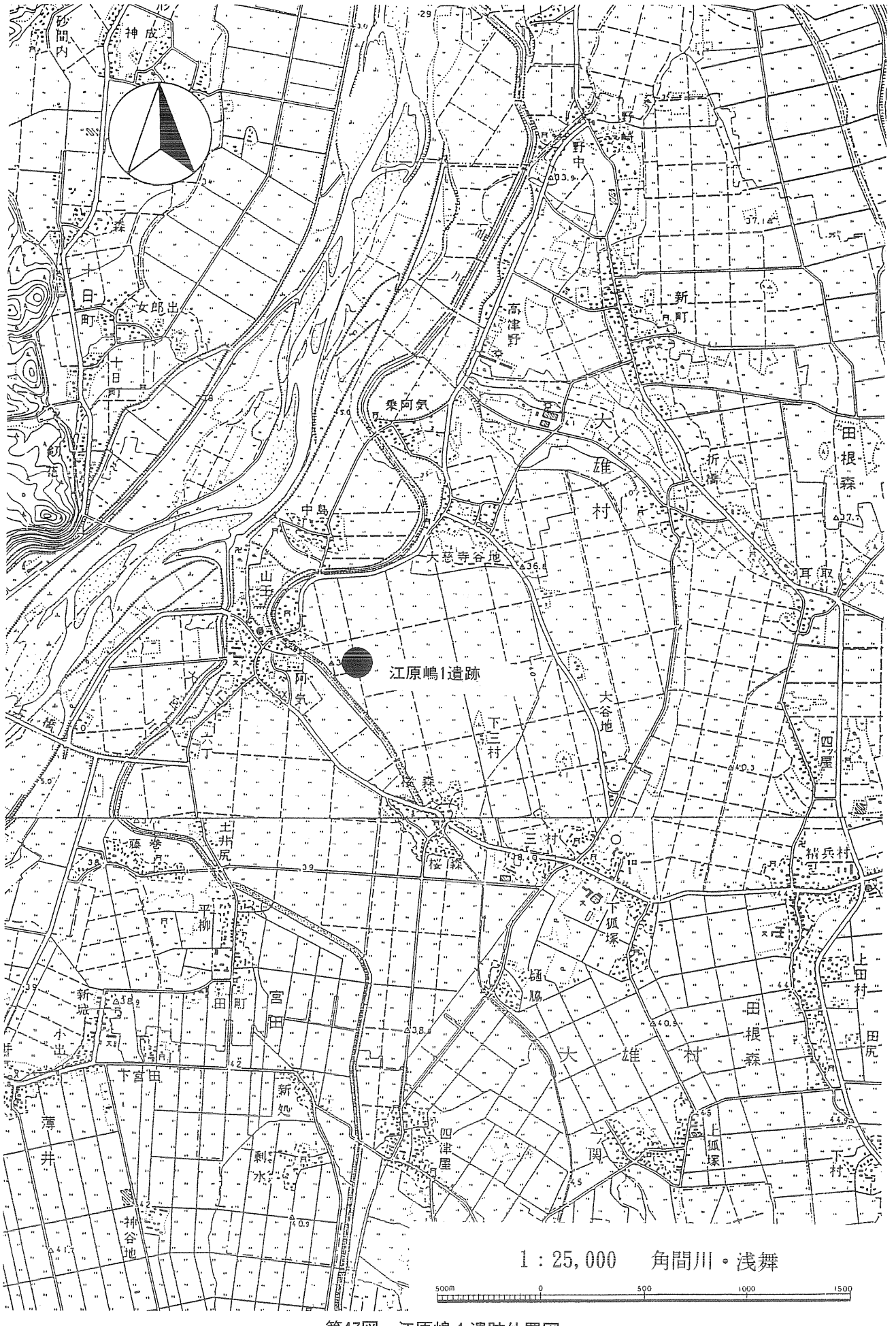
②遺跡の範囲と工事区域(第50図)

北部の平安・江戸時代の遺跡範囲は15,000㎡、中央部の縄文時代の遺跡範囲は42,000㎡あり、すべて工事区域内である。南端部の縄文時代の遺跡範囲は2,600㎡であるが、さらに工事区域外の南側に広がるものと考えられる。

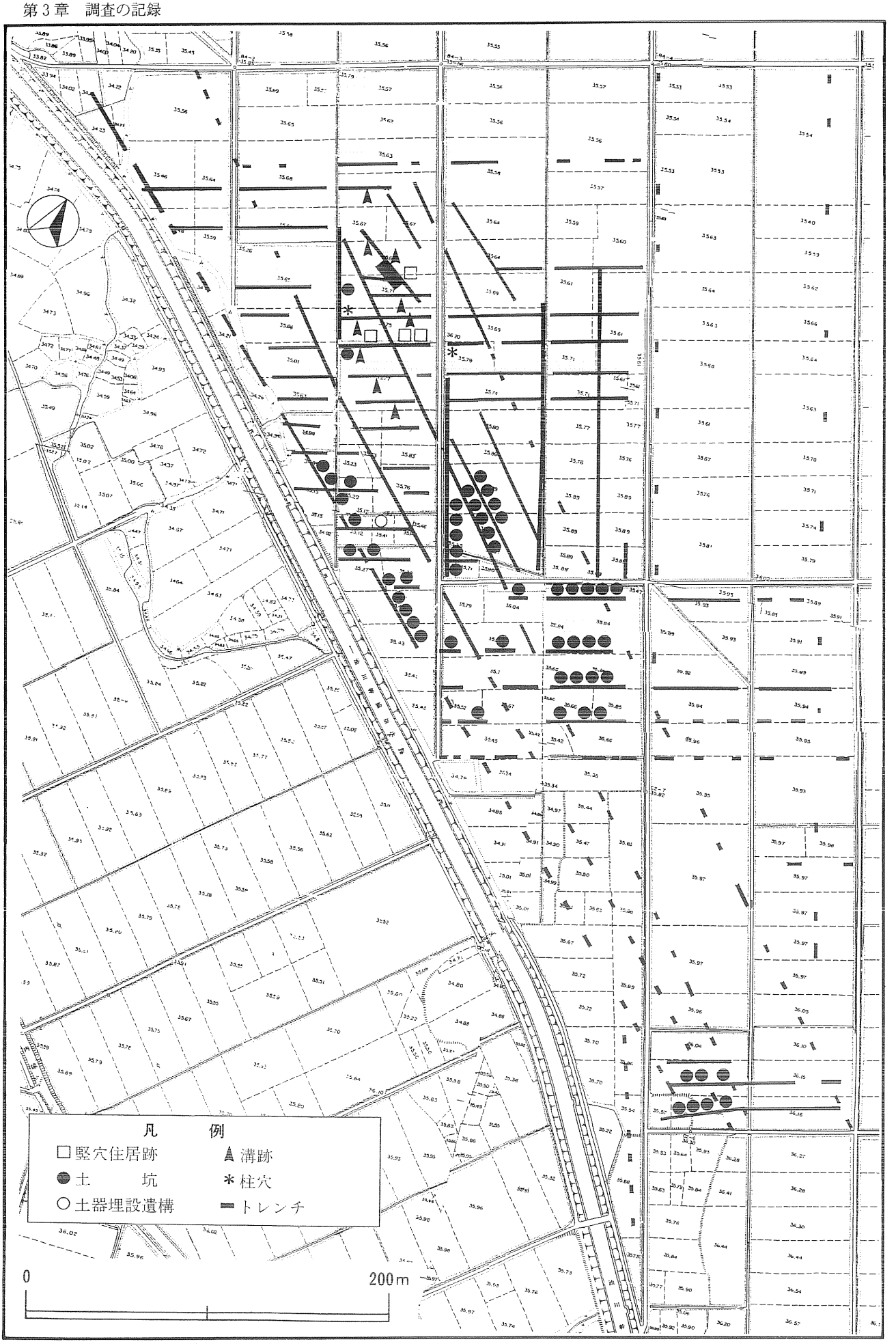
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、北部では平安時代や江戸時代の集落を構成する建物跡などが、中央部・南側では縄文時代中期後半から後期にかけての土坑墓がかなり密な状態で検出されるものと予想される。

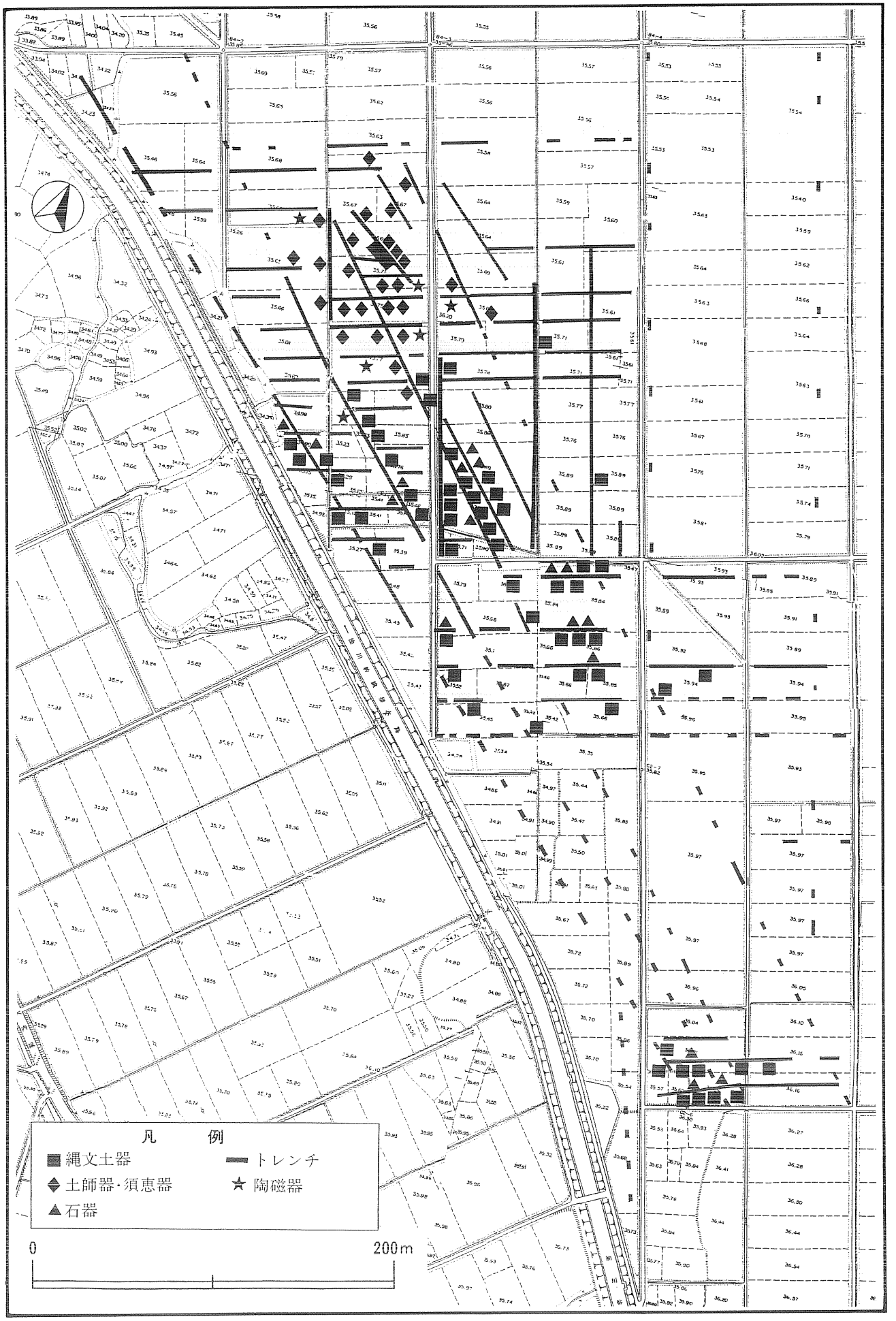
遺物は、縄文時代・平安時代の包含層から土器が多量に出土するものと思われる。また、黒色土包含層からは有機質の遺物が出土する可能性が大きい。



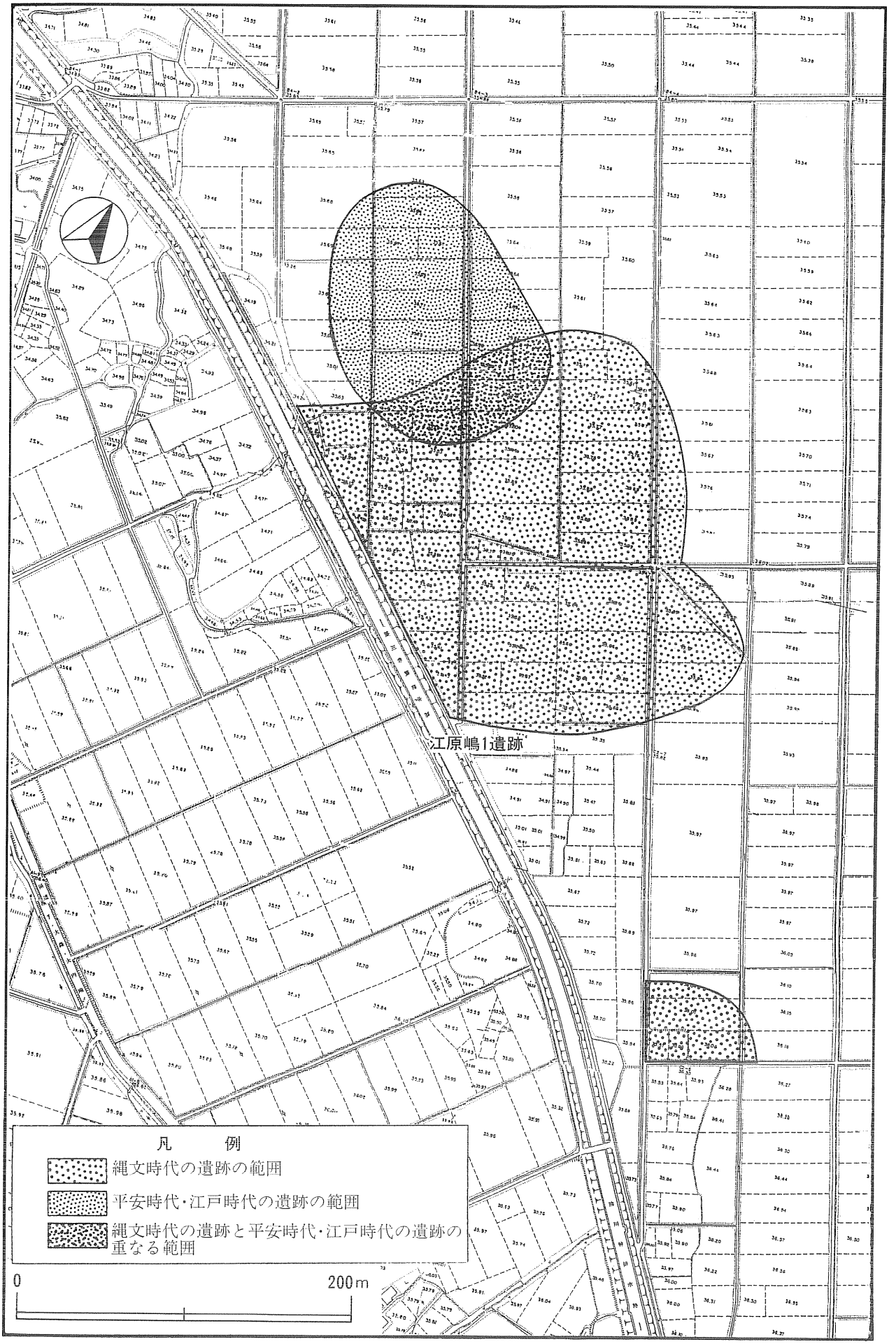
第47図　江原嶋１遺跡位置図



第48図　江原嶋１遺跡範囲確認調査結果図（遺構検出地点）



第49図　江原嶋１遺跡範囲確認調査結果図（遺物出土地点）

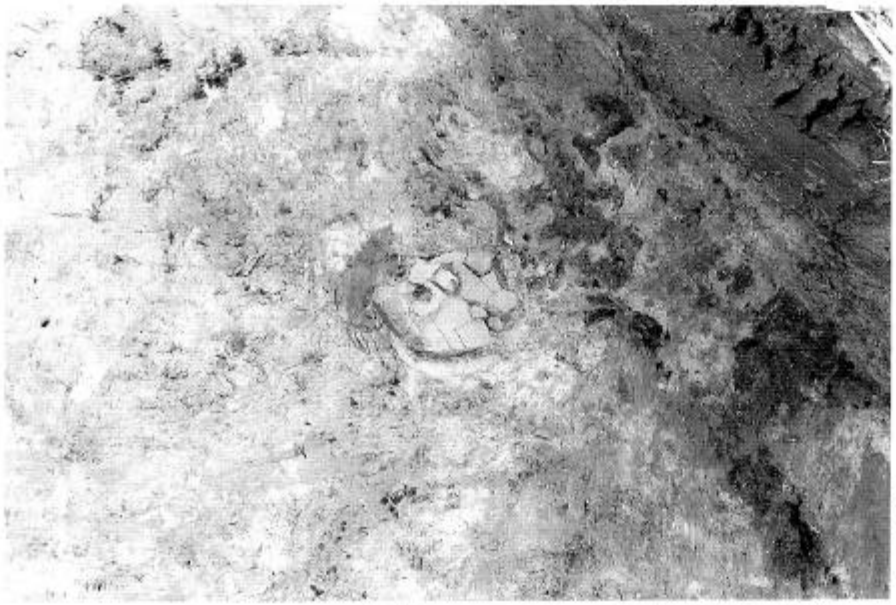


第50図　江原嶋１遺跡範囲図

江原嶋１遺跡
遺跡遠景（西から）

江原嶋１遺跡
平安時代　竪穴住居跡検出状況（西から）

江原嶋１遺跡
平安時代　土器検出状況（西から）



江原嶋1遺跡
平安時代　土器検出状況
（西から）

江原嶋1遺跡
縄文時代　土坑検出状況
（西から）

江原嶋1遺跡
縄文時代　土坑検出状況
（南から）

8　主要地方道入道崎寒風山線緊急地方道路整備事業

（１）泉野冷水遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県男鹿市北浦相川字泉野10-3外

2　範囲確認調査期間　　平成９年11月４日～12月５日

3　範囲確認調査対象面積　　14,400㎡

4　工事区域内遺跡面積　　5,000㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡は、男鹿市北浦集落と相川集落のほぼ中間地点、東西に通る主要地方道入道崎寒風山線の両側に位置する。この地は、男鹿半島の北斜面中央に位置する北浦・安全寺台地の北端部にあたり、北浦・相川付近では大地震時の地割れ谷の発達がみられる。遺跡は、開析しながら日本海に北東流する東側の相川と西側の賀茂川に挟まれた標高40ｍ程の侵蝕段丘上に立地している。相川が開析した沖積地を挟んだ東側の侵蝕段丘には中野遺跡が存在する。

②現況

遺跡の現況は、宅地・畑地・杉林・原野・休耕田である。

6　範囲確認調査の方法

道路計画図に示された測量杭を利用してトレンチ調査を実施した。トレンチは、原則として、南北方向は幅杭と中心杭を結ぶ線の西側に、東西方向は中心杭の南側に設定し、さらに、調査が必要と思われる箇所に設定して調査した。表土は重機で除去し、その後に遺構確認面もしくは地山まで人手で掘り下げ、遺物包含層、遺構の有無などの確認作業を行った。

範囲確認調査面積は880㎡、調査対象面積の6.1％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

畑地として使用されている場所の層序は、調査地域中央付近で、Ⅰ層が厚さ20cm程の黒褐色の表土・耕作土層、Ⅱ層が黄褐色ローム層（地山）であり、遺物はⅠ層から出土する。調査地域西側付近では、Ⅰ層が厚さ15cm程の暗褐色の表土・耕作土層、Ⅱ層が厚さ15cm程の暗褐色土層、Ⅲ層が褐色のローム層（地山）となっており、遺物はⅠ層下部からⅡ層にかけて出土する。水田として利用されている場所の層序は、Ⅰ層が厚さ45cm程の盛土でローム混じりの褐色の表土・耕作土層、Ⅱ層が厚さ30cm程の粘土質の暗褐色土層、Ⅲ層が厚さ40cm程の粘土質の黒褐色土層、Ⅳ層が地山の青灰色粘土層である。遺物は、Ⅰ層下部とⅡ層上部から検出されたが、流れ込んだ状態での出土である。

②検出遺構と出土遺物（第52図）

遺構は、調査地域の東側寄りの段丘上に見られる。竪穴住居跡４軒、土器埋設遺構１基、焼土遺構１基、土坑５基が検出された。遺構の確認面は、地山上面である。いずれも正確な時期は不明であるが、周辺から出土している土器と同じ縄文時代中期末葉の遺構と推測される。

遺物は、段丘上から縄文時代中期末の大木10式を中心とした土器が出土している。水田部分からは、近世の磁器数点と縄文時代の石匙１点が出土している。

8　所見

①遺跡の種類

検出された遺構や出土遺物から、遺跡は縄文時代中期末葉の集落跡と考えられる。

②遺跡の範囲と工事区域(第53図)

泉野冷水遺跡は、昭和49年に男鹿市教育委員会によって発掘調査された。その結果、縄文中期末葉の土器と共に８軒の竪穴住居跡と９基の炉跡が検出されている。工事区域は、昭和49年に調査した遺跡の南端部にあたると思われる。

工事区域内における発掘調査が必要な部分は、縄文時代中期末葉と推測される遺構が検出された段丘上の5,000㎡である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は、縄文時代中期末葉の竪穴住居跡、土器埋設遺構、土坑等が、遺物は遺構に伴ってまとまった量の土器・石器が出土するものと予測される。

（２）中野(なかの)遺跡

1	遺跡所在地	秋田県男鹿市北浦相川字中野11外
2	範囲確認調査期間	平成９年11月４日～12月５日
3	範囲確認調査対象面積	11,500㎡
4	工事区域内遺跡面積	1,600㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

遺跡はＪＲ男鹿駅の北東約９㎞、相川集落の南約0.3㎞に位置する。男鹿半島の北斜面中央に位置する北浦・安全寺台地の北端部、大地震時の地割れ谷が発達しているところである。遺跡は、開析しながら日本海に北東流する西側の相川と東側の大増川に挟まれた標高40ｍ程の侵蝕段丘上に立地する。相川が開析した沖積地の西側の侵蝕段丘には、泉野冷水遺跡が存在する。

②現況

遺跡の中央部を市道冷水１号線が北東方向に通っている。市道の東側に接する土地は、畑として耕作されていたが、杉が植林された。現況は、遺跡一帯が杉林である。

6　範囲確認調査の方法

道路計画図に示された測量杭を利用してトレンチ調査を実施した。トレンチは、南北方向は幅杭と中心杭を結ぶ線の西側に、東西方向は中心杭の南側に、さらに、平坦部分で必要と思われる箇所に適宜に設定して調査した。表土及び切り株は重機で除去し、その後で遺構確認面もしくは地山まで人手で掘り下げ、遺物包含層、遺構の有無などの確認作業を行った。

範囲確認調査面積は1,089㎡、調査対象面積の9.5％である。

7　範囲確認調査の結果

①層序

Ⅰ層は、黒褐色の表土層である。地形に沿って表土が流出しており、厚さは、調査地域中央部南側では30㎝程度であるが、北側の斜面となっている低地では80㎝程になる。なお、杉の根が入り込んでいるⅠ層の下部は、レンズ状の黒色土に変化している。Ⅱ層は、地山で黄褐色のローム層である。

②検出遺構と出土遺物(第54図)

遺構は、調査地域中央部付近から陥し穴１基、土坑１基が検出された。遺構確認面は、地山上面である。他に、Ⅰ層から薄い焼土も検出されている。遺物は、陥し穴確認面から縄文土器１片、調査地域中央部のⅠ層から近世の磁器が数点出土している。陥し穴と土坑は、縄文時代の遺構と思われる。

8　所見

①遺跡の種類

遺跡は、検出された遺構から、縄文時代の小規模な狩猟のための遺跡と考えられる。

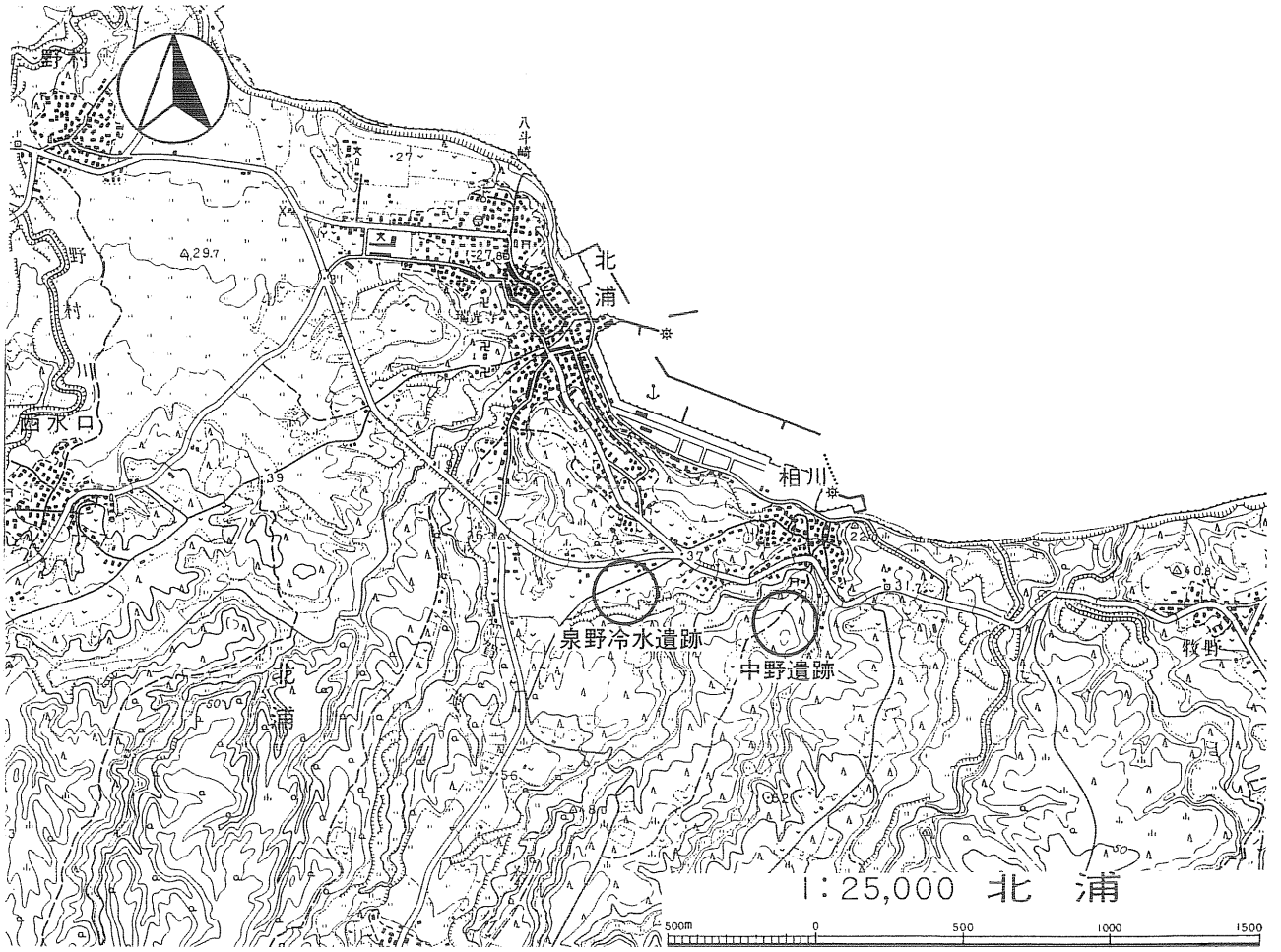
②遺跡の範囲と工事区域(第55図)

中野遺跡は、土師器を出土する遺跡として報告されているが、今回の調査では、古代の遺物・遺構は検出されず、縄文時代の遺構が検出された。古代の遺跡は、調査地の南側の平坦地の可能性がある。

工事区域内における発掘調査が必要な範囲は、標高43ｍの等高線付近、陥し穴と土坑および焼土遺構が検出された1,600㎡の部分である。

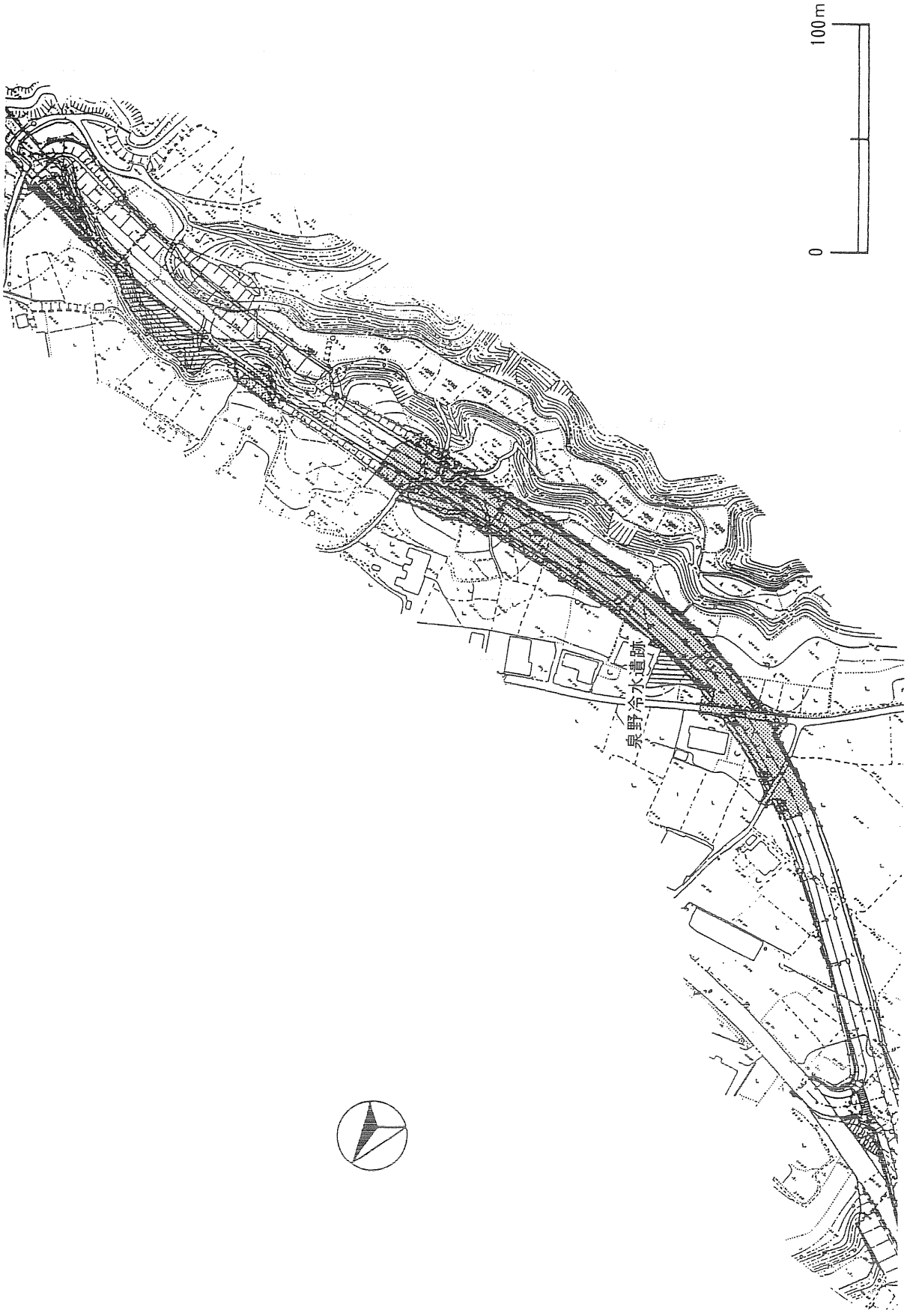
③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺物の出土は稀薄であり、遺構の出土も数基程度と予測される。調査が必要とされる範囲内には、切り株や伐採されて放置されたままの木も多く、表土および切り株の除去に重機の活用を検討する必要がある。

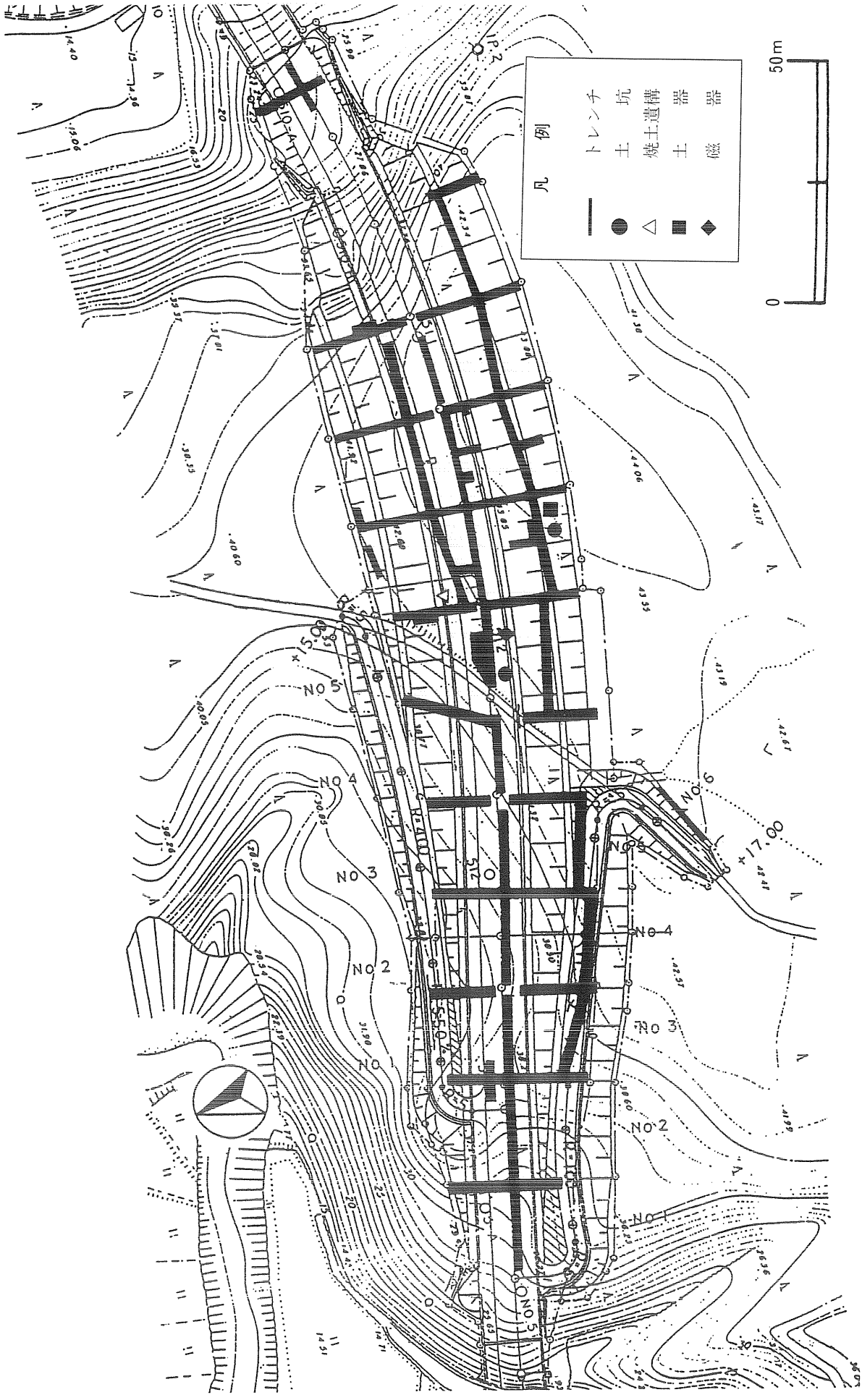


第51図　泉野冷水遺跡・中野遺跡位置図

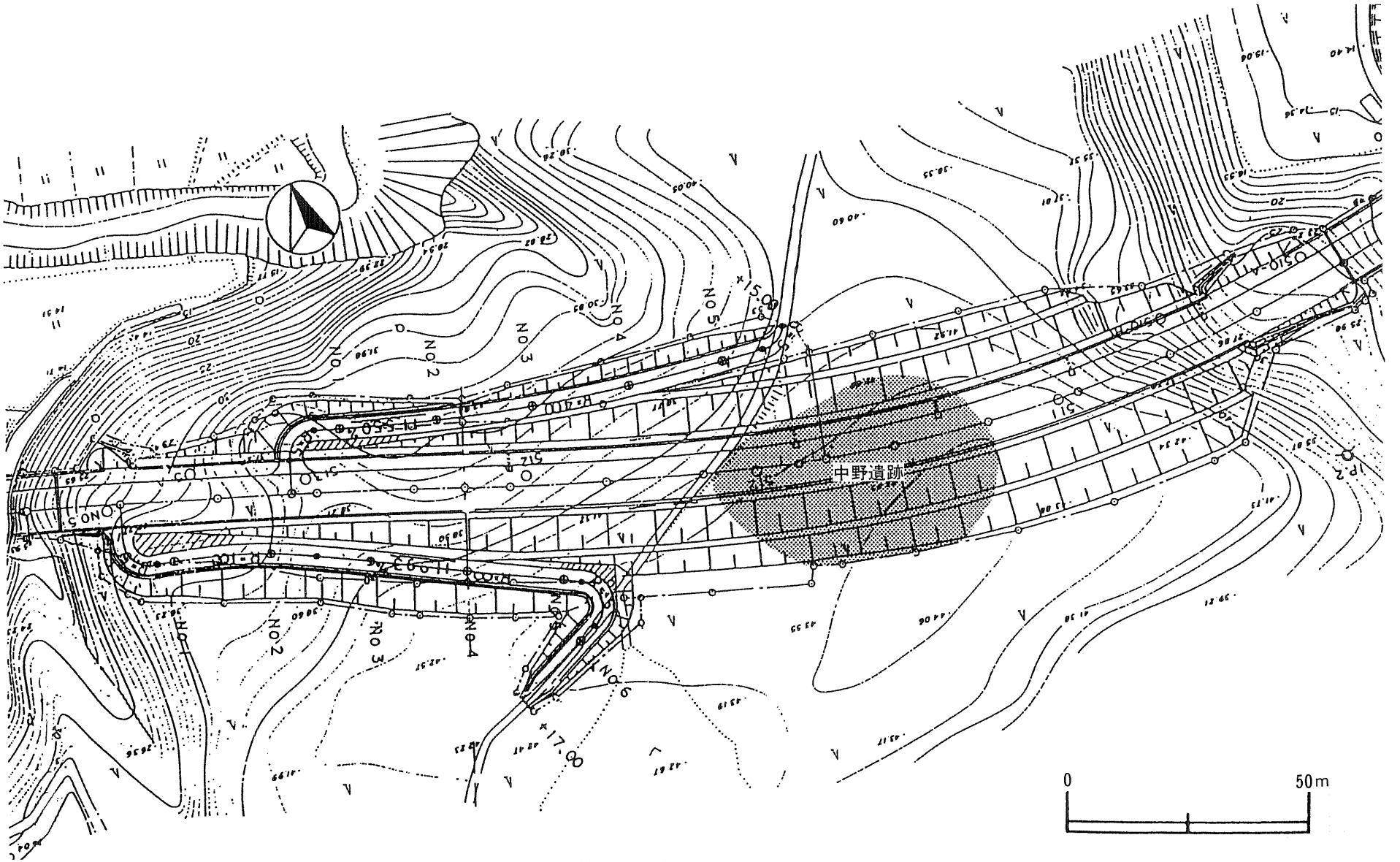
第52図　泉野冷水遺跡範囲確認調査結果図



第53図　泉野冷水遺跡範囲図

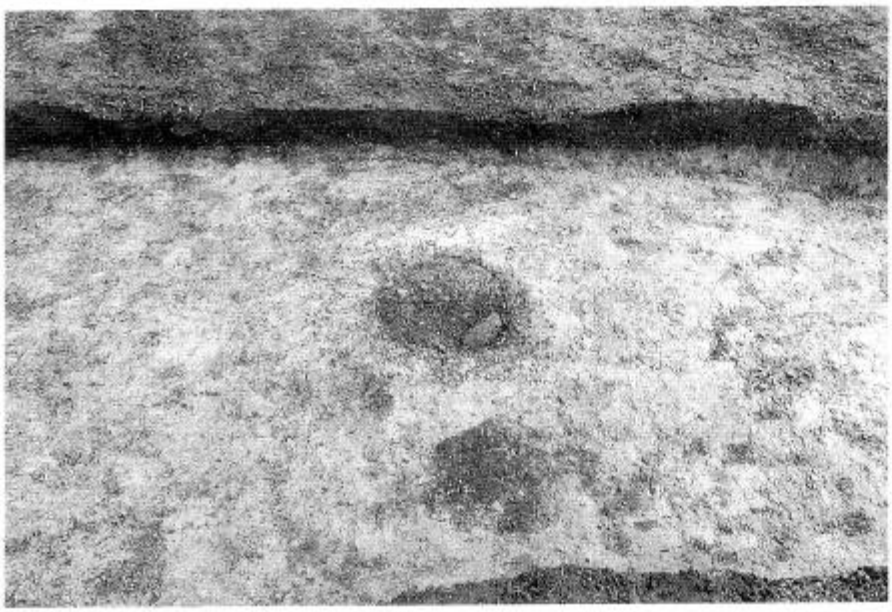


第54図　中野遺跡範囲確認調査結果図

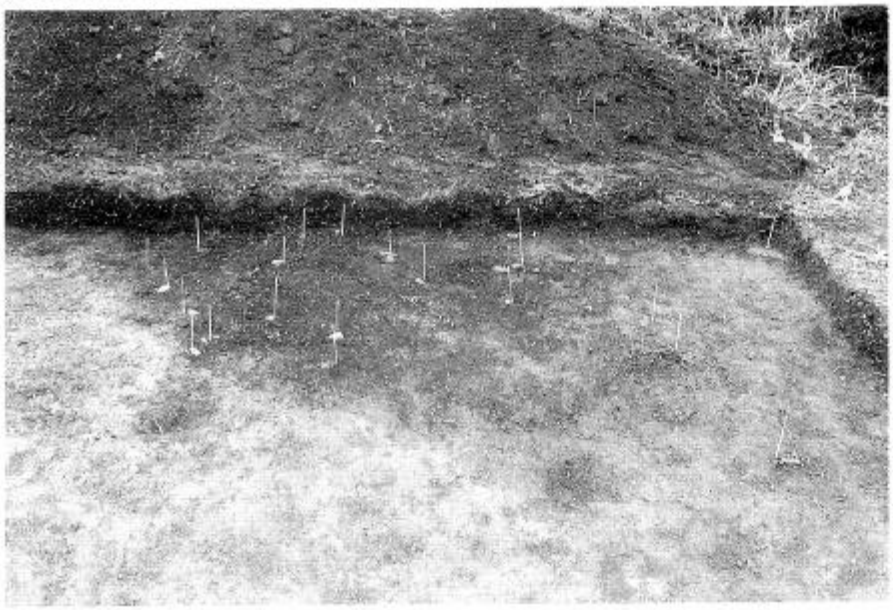


第55図　中野遺跡範囲図

泉野冷水遺跡
調査区中央部付近(東から)

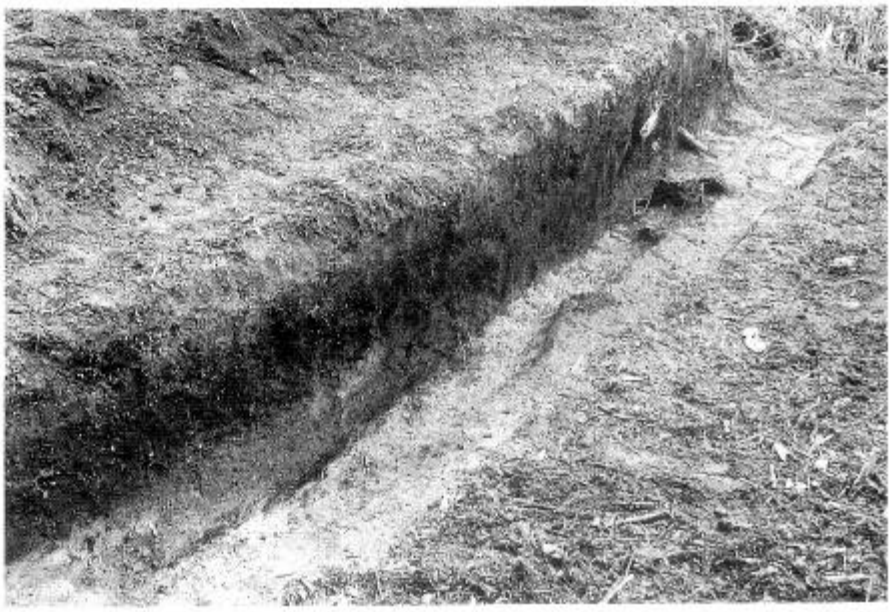


泉野冷水遺跡
土器埋設遺構検出状況
(東から)



泉野冷水遺跡
竪穴住居跡検出状況
(東から)

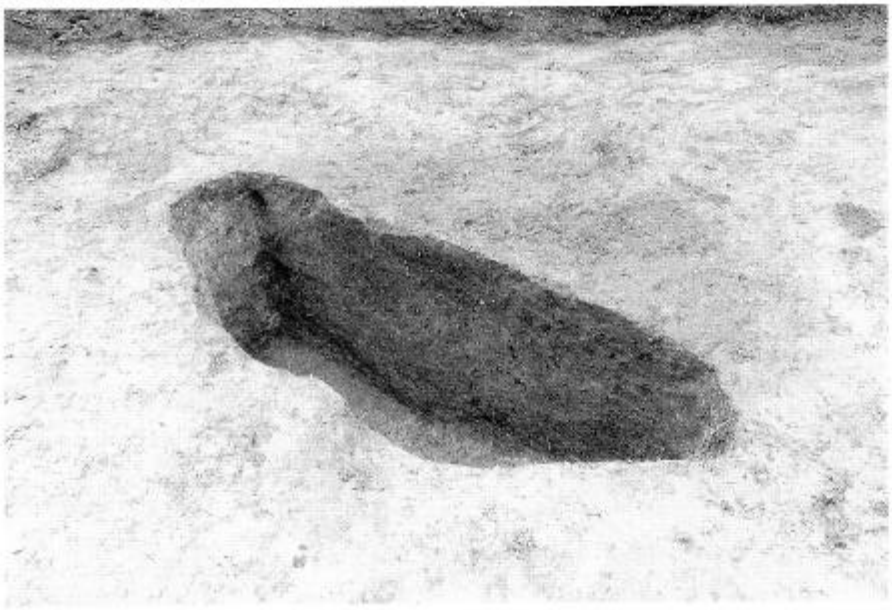
泉野冷水遺跡
竪穴住居跡検出状況
（北から）



泉野冷水遺跡
竪穴住居跡検出状況
（北西から）

泉野冷水遺跡
石囲炉検出状況（西から）

中野遺跡
遺跡遠景



中野遺跡
土坑検出状況(西から)

中野遺跡
陥し穴検出状況(南から)